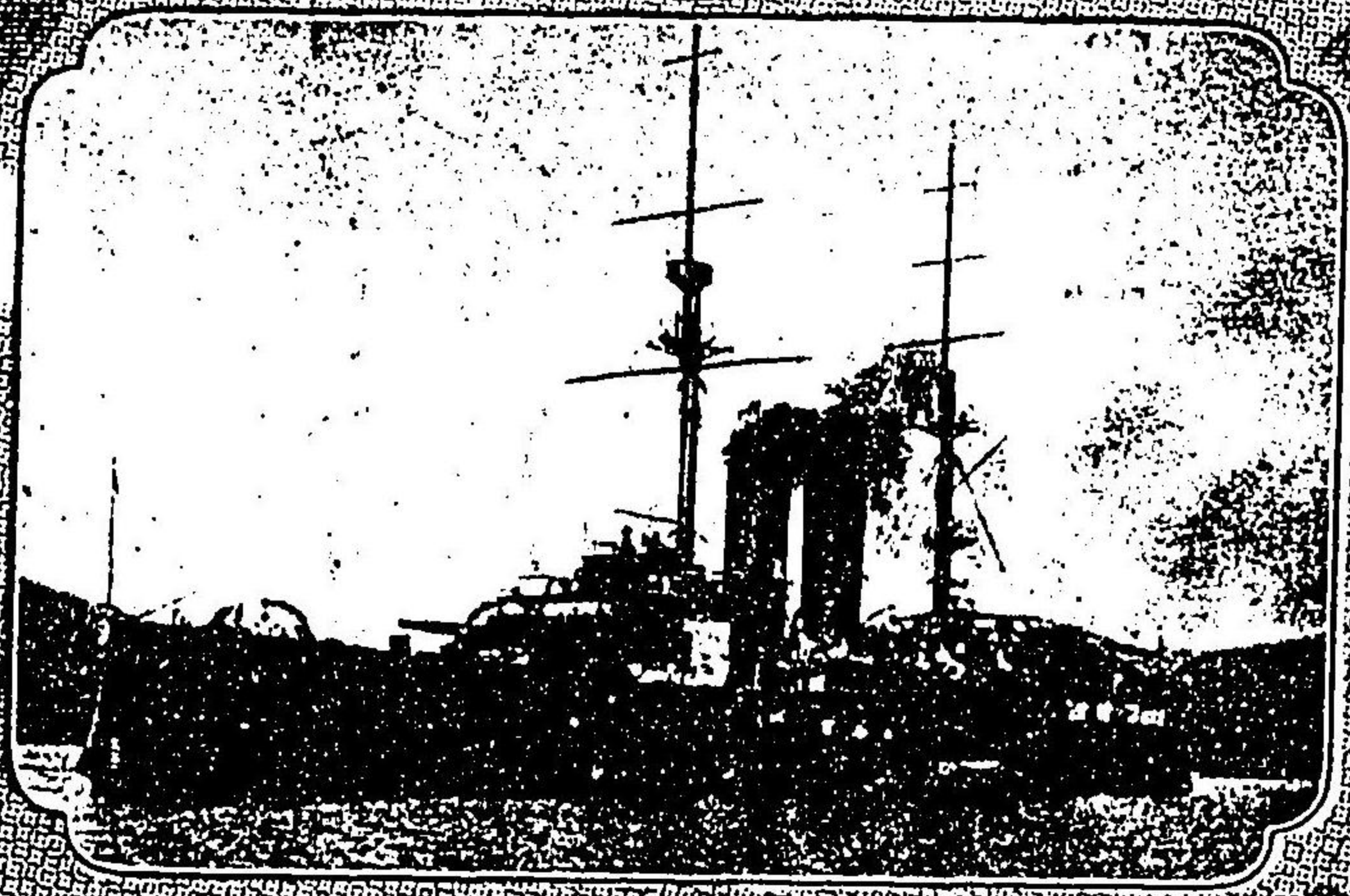


新案舞鶴
案内記

12
542



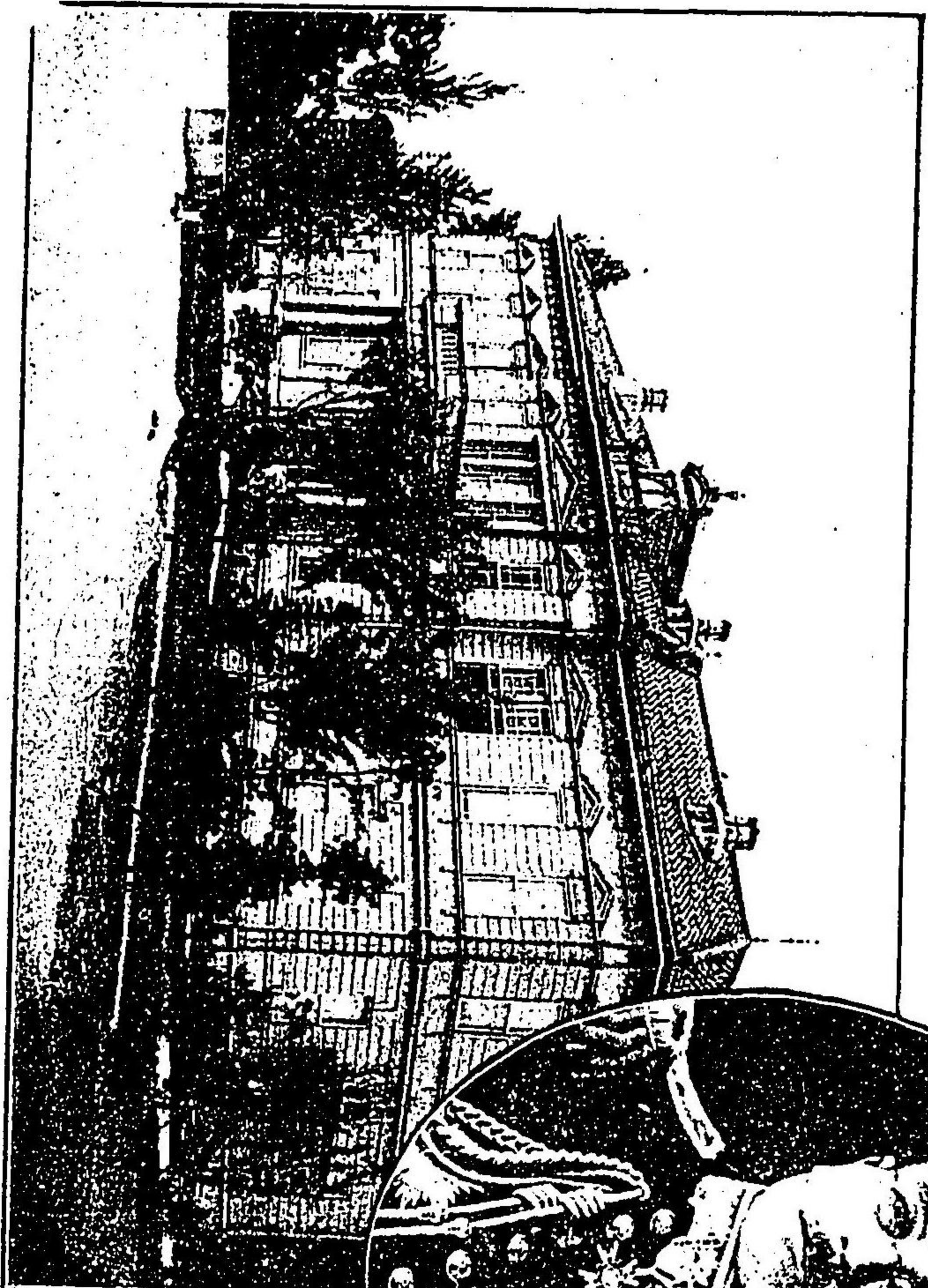
新舞鶴町字號

二井物産株式會社 舞鶴出張所

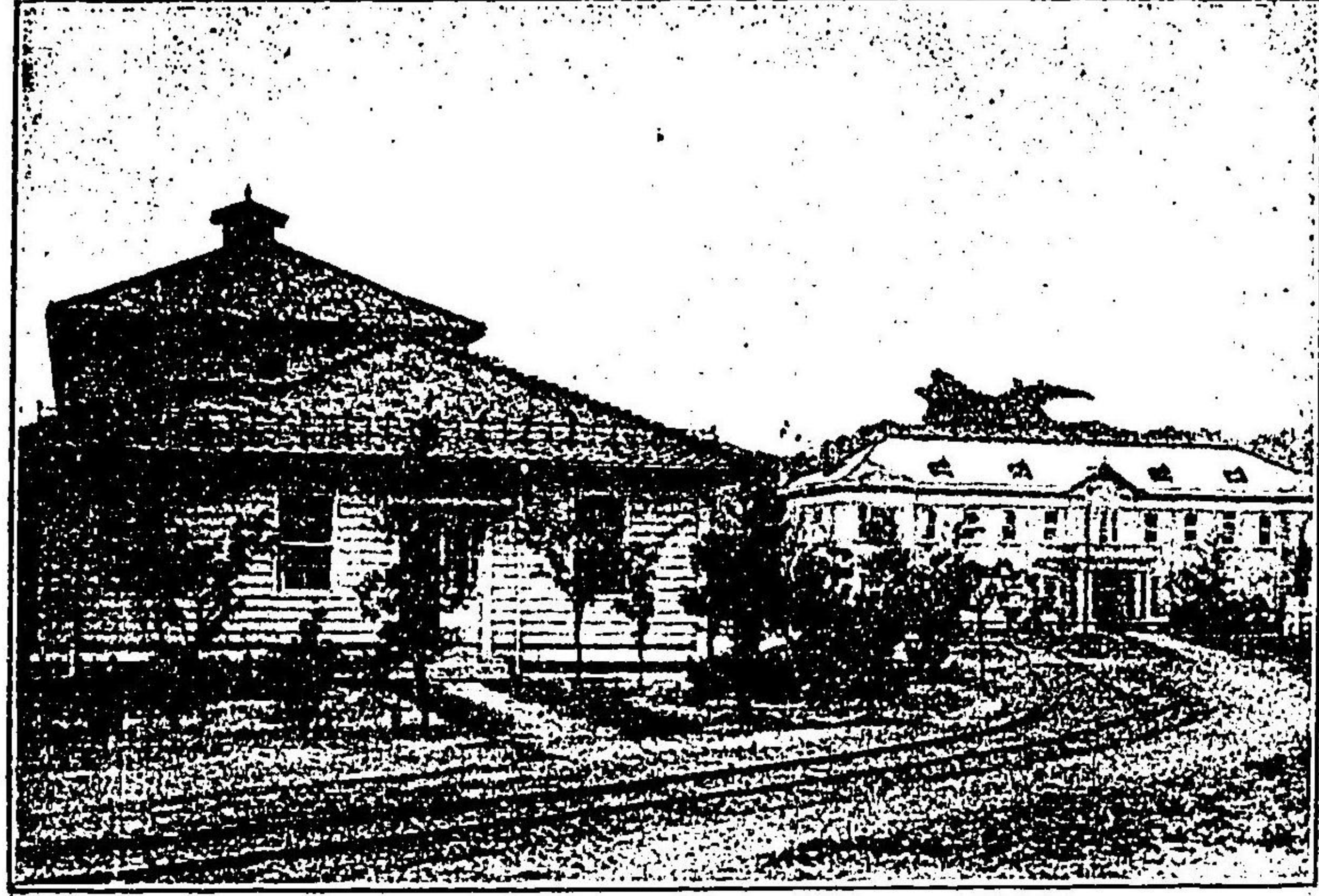
電話二二二號



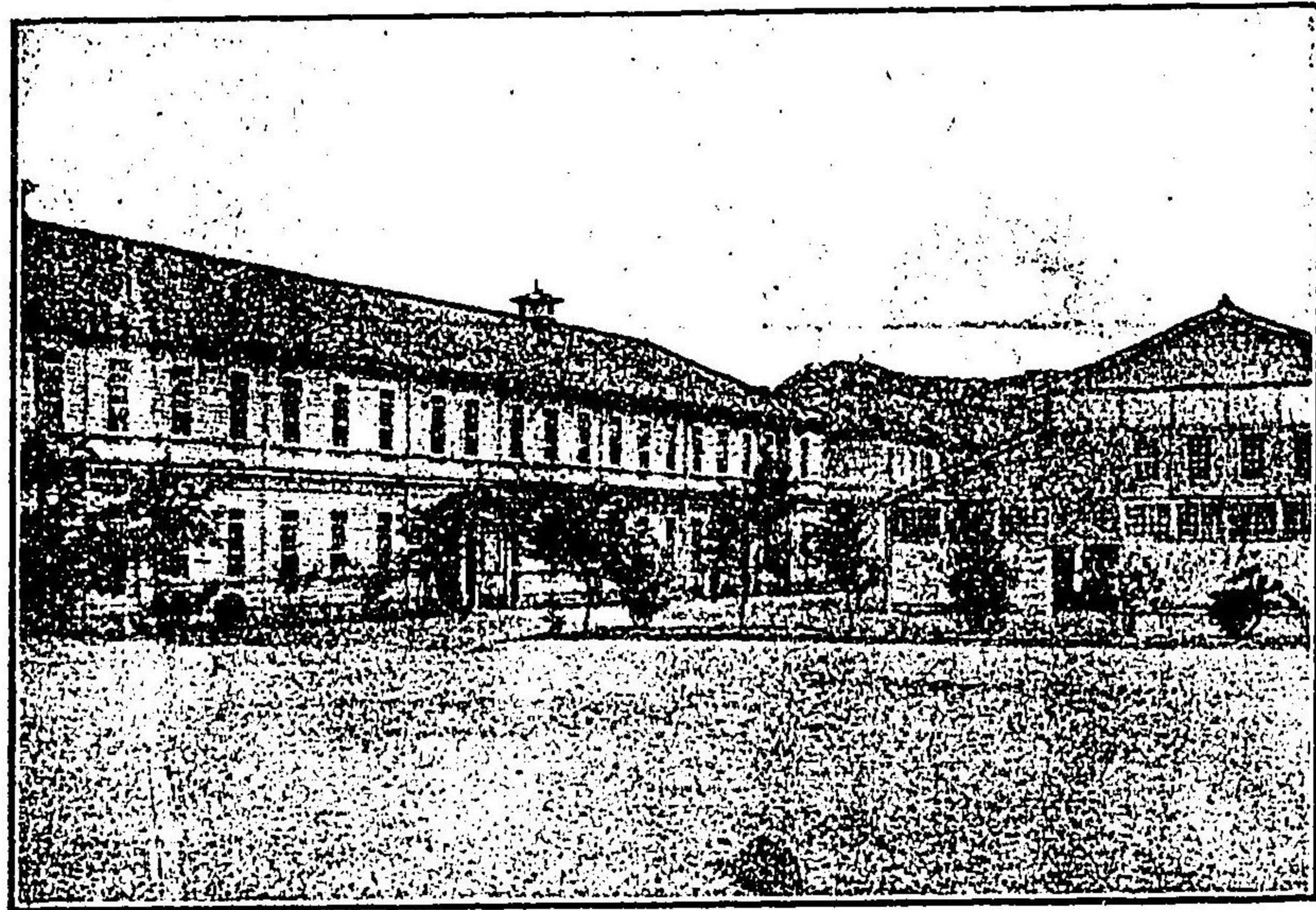
三須司令長官



舞鶴留守府



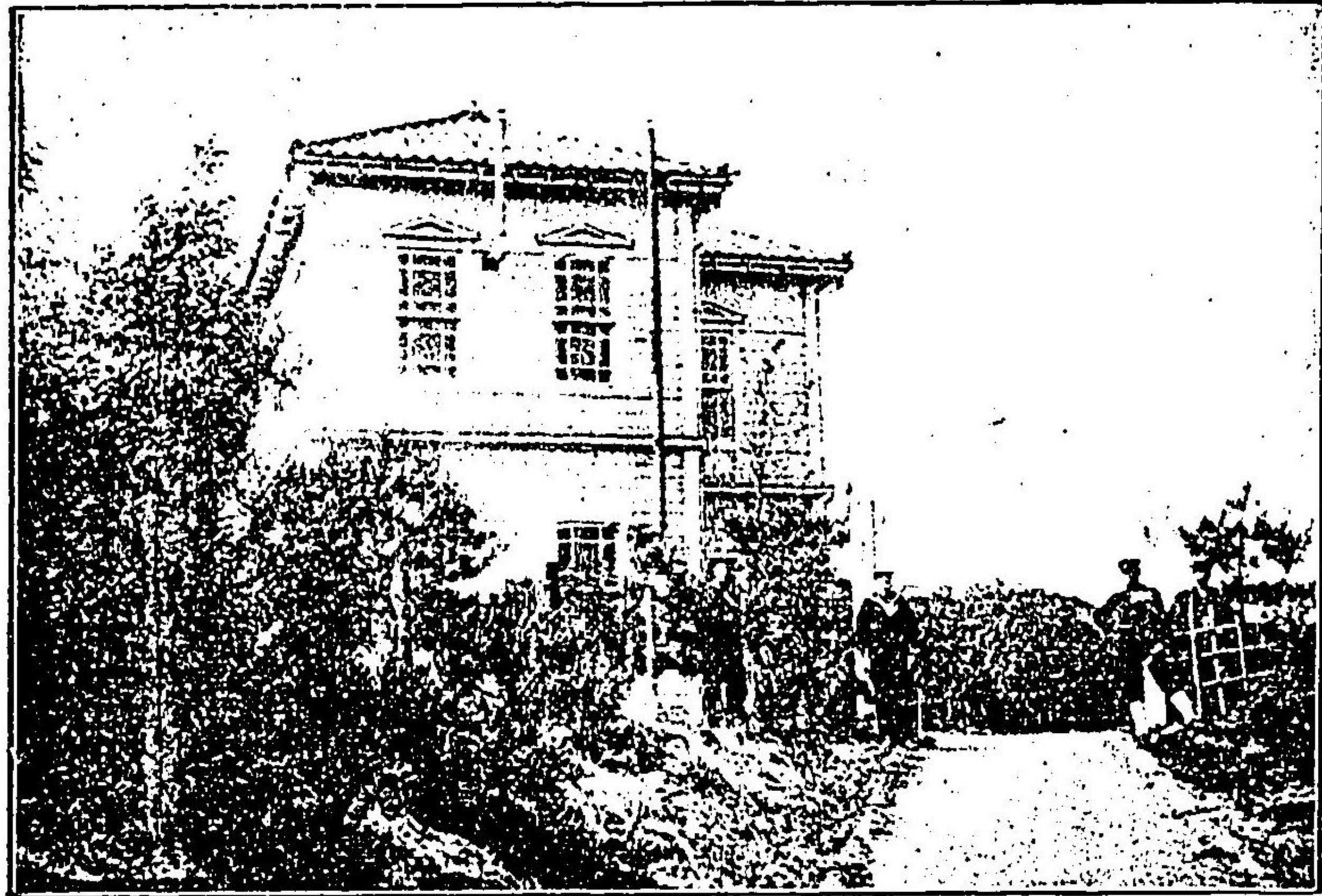
舞池水雷團



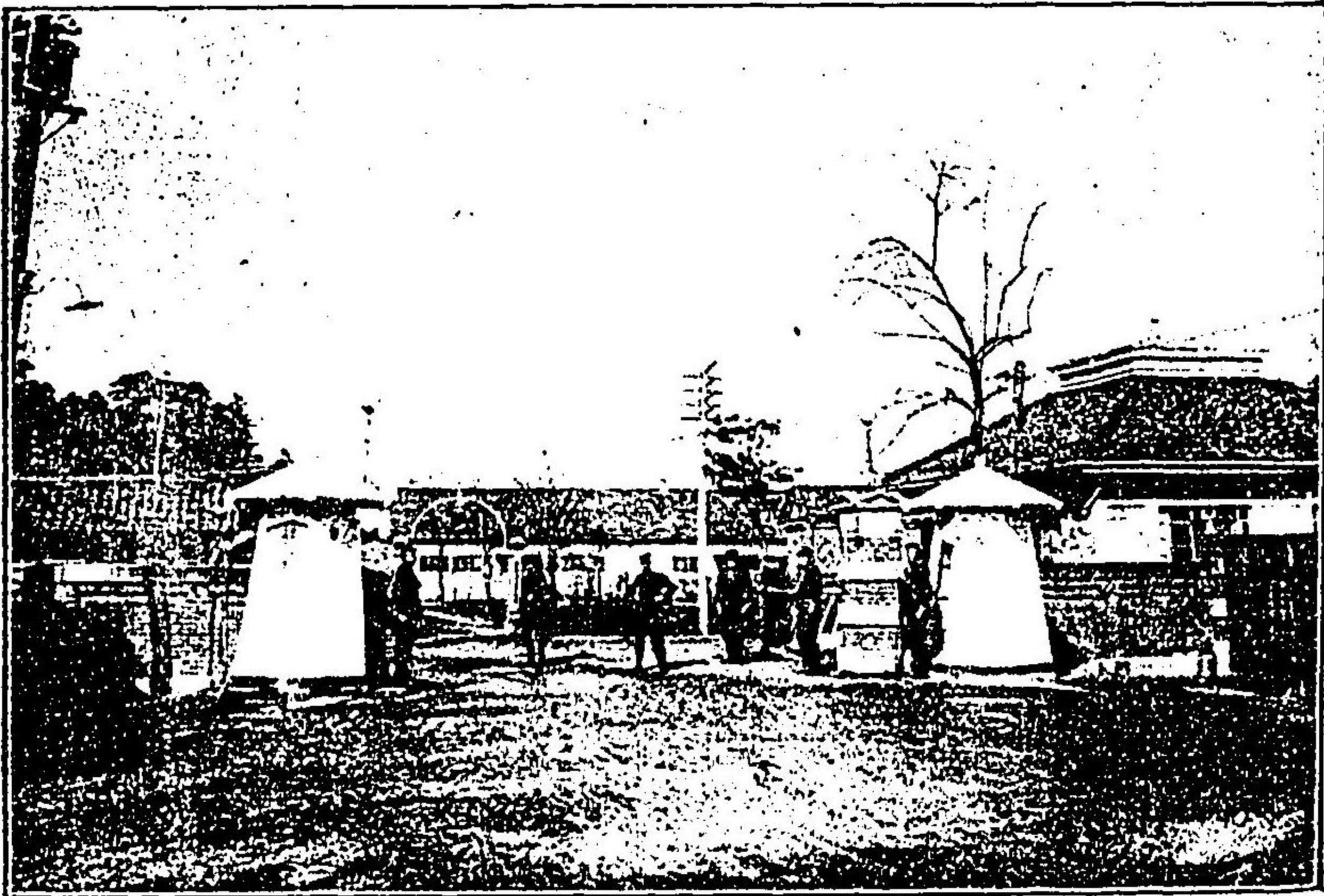
舞池海兵團

舞池水雷團

舞池海兵團



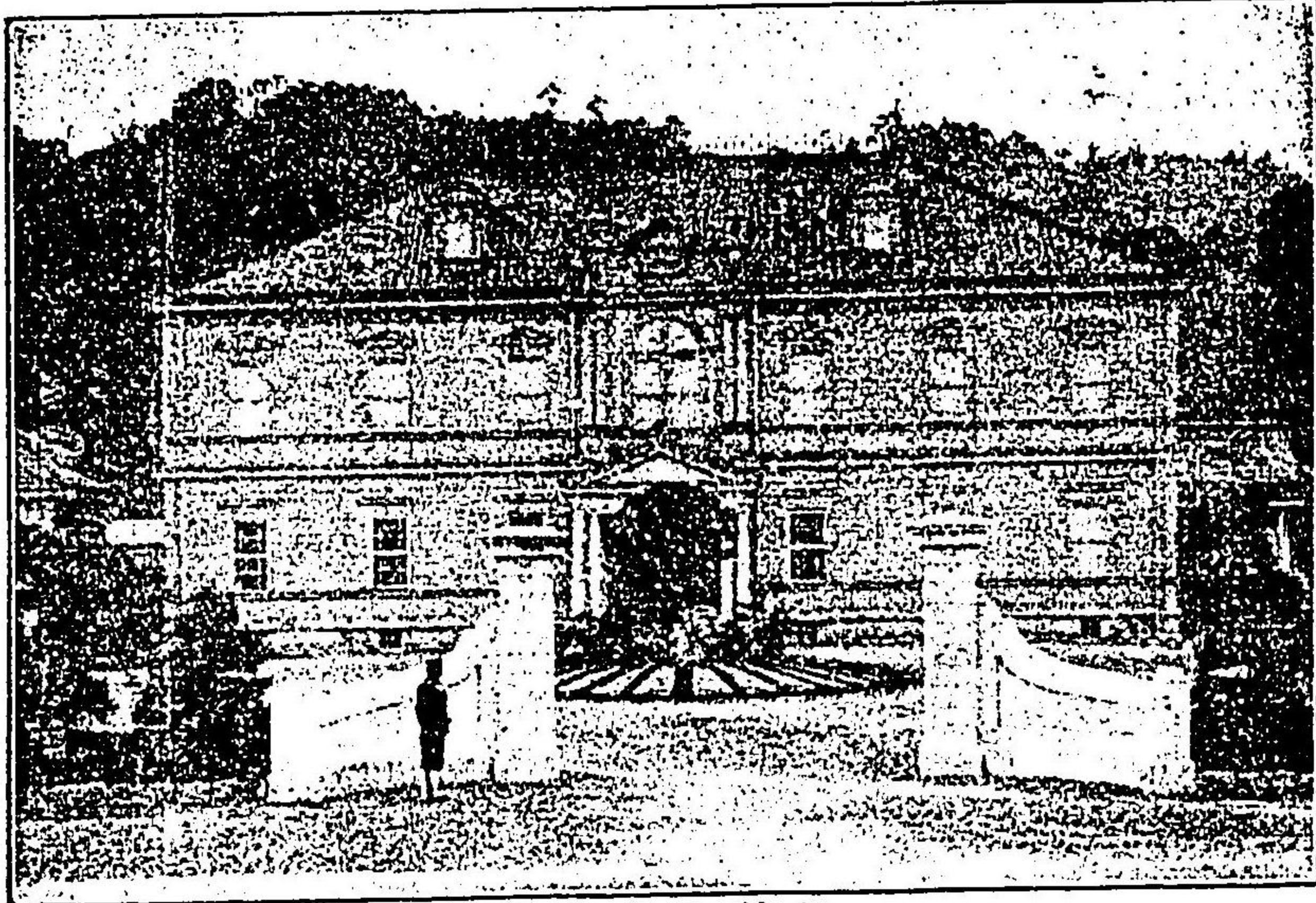
舞鶴軍港務部



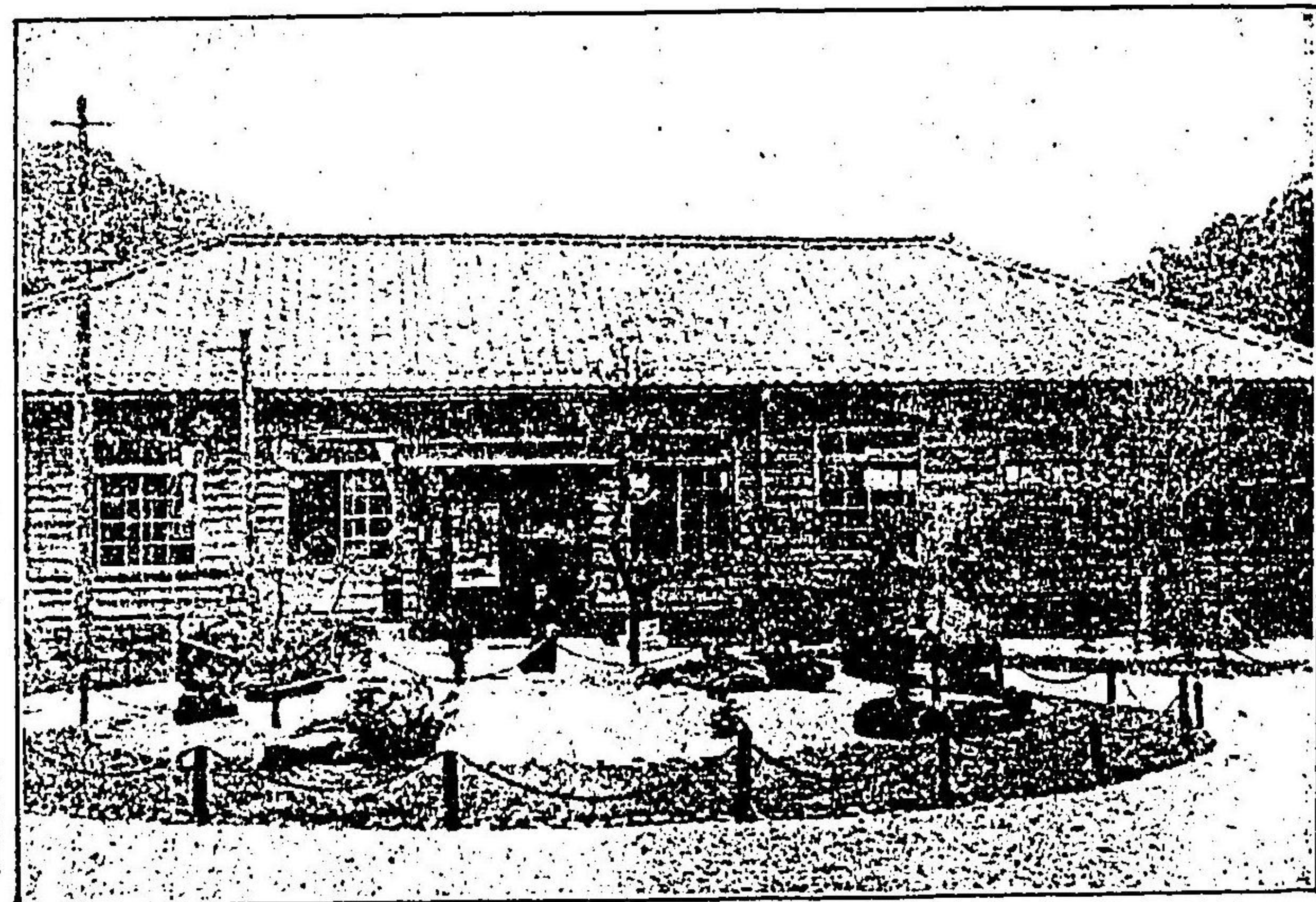
舞鶴軍港東構門

舞鶴軍港務部

舞鶴軍港東構門

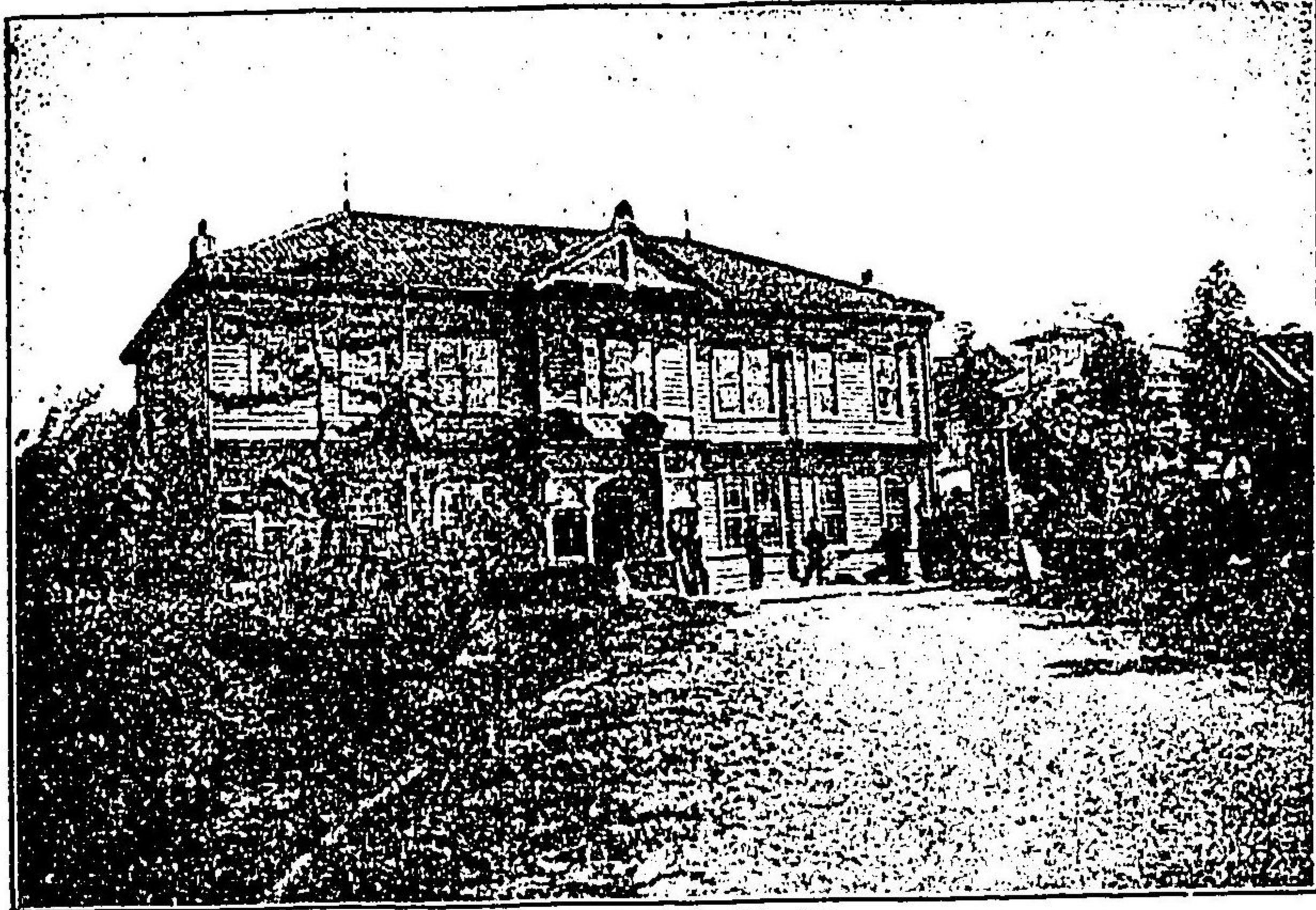


舞鶴水交支社

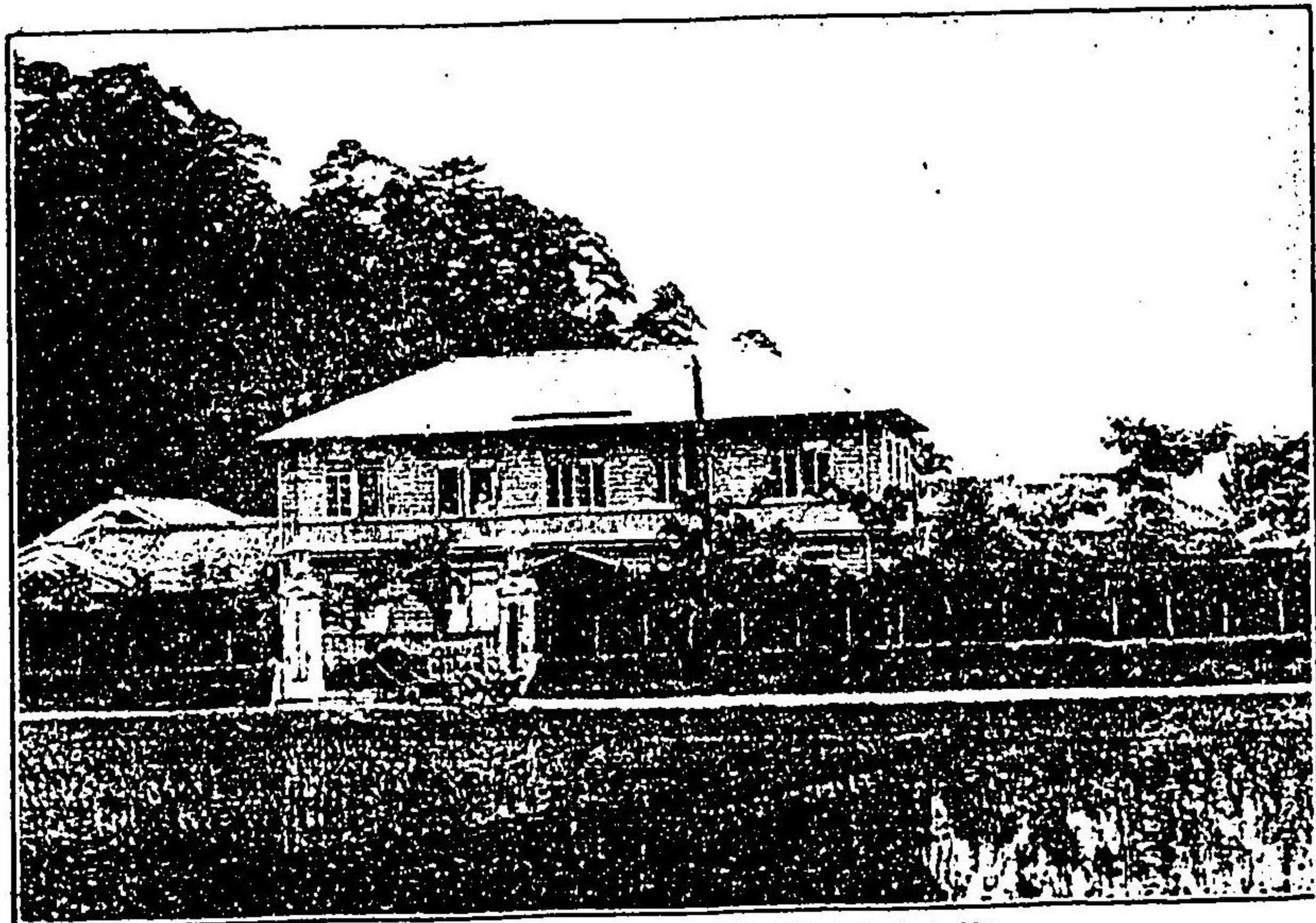


舞鶴海軍下士集會所

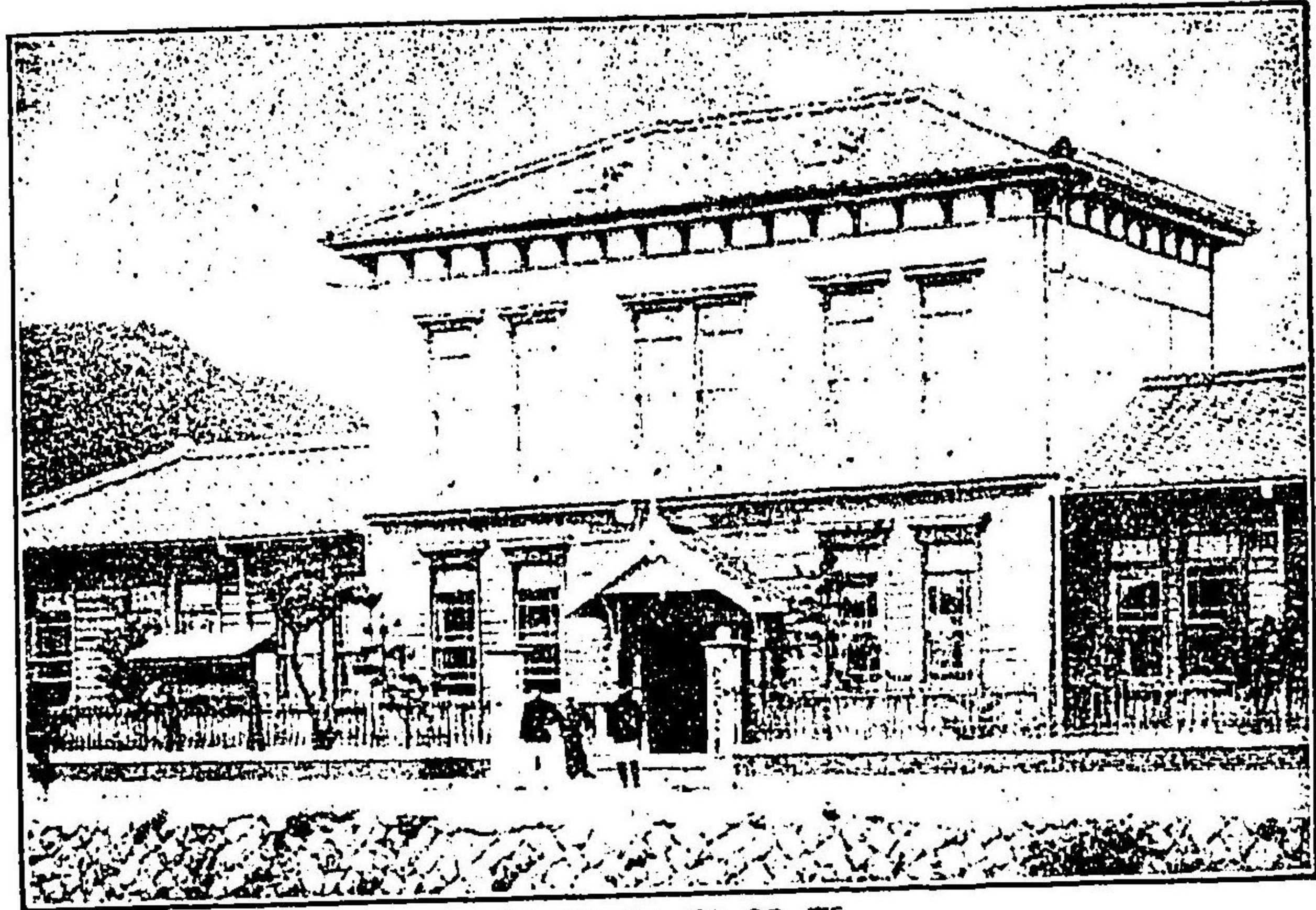
舞鶴海軍下士集會所



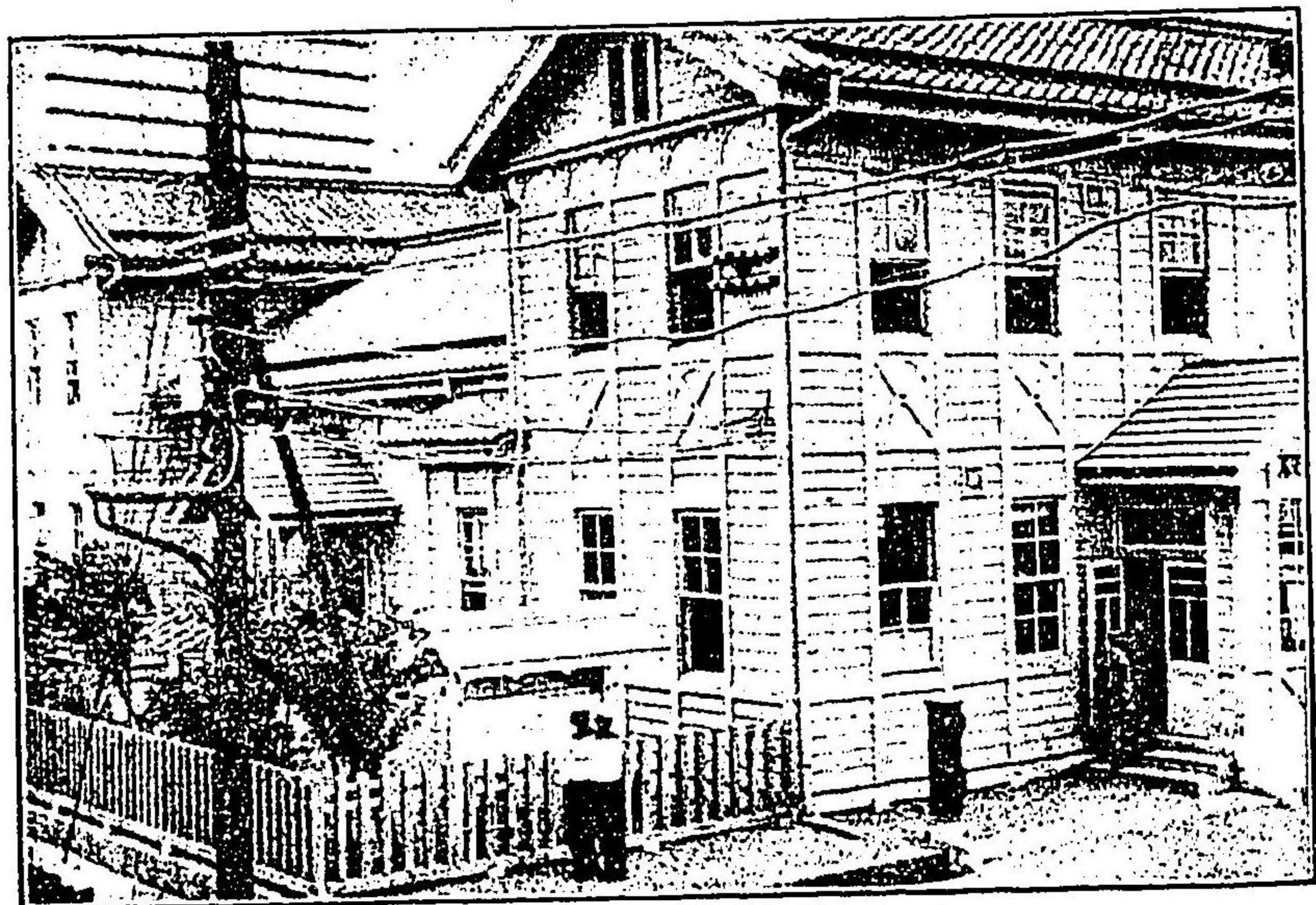
院病軍海鶴舞



院病會濟共工廠廠工軍海

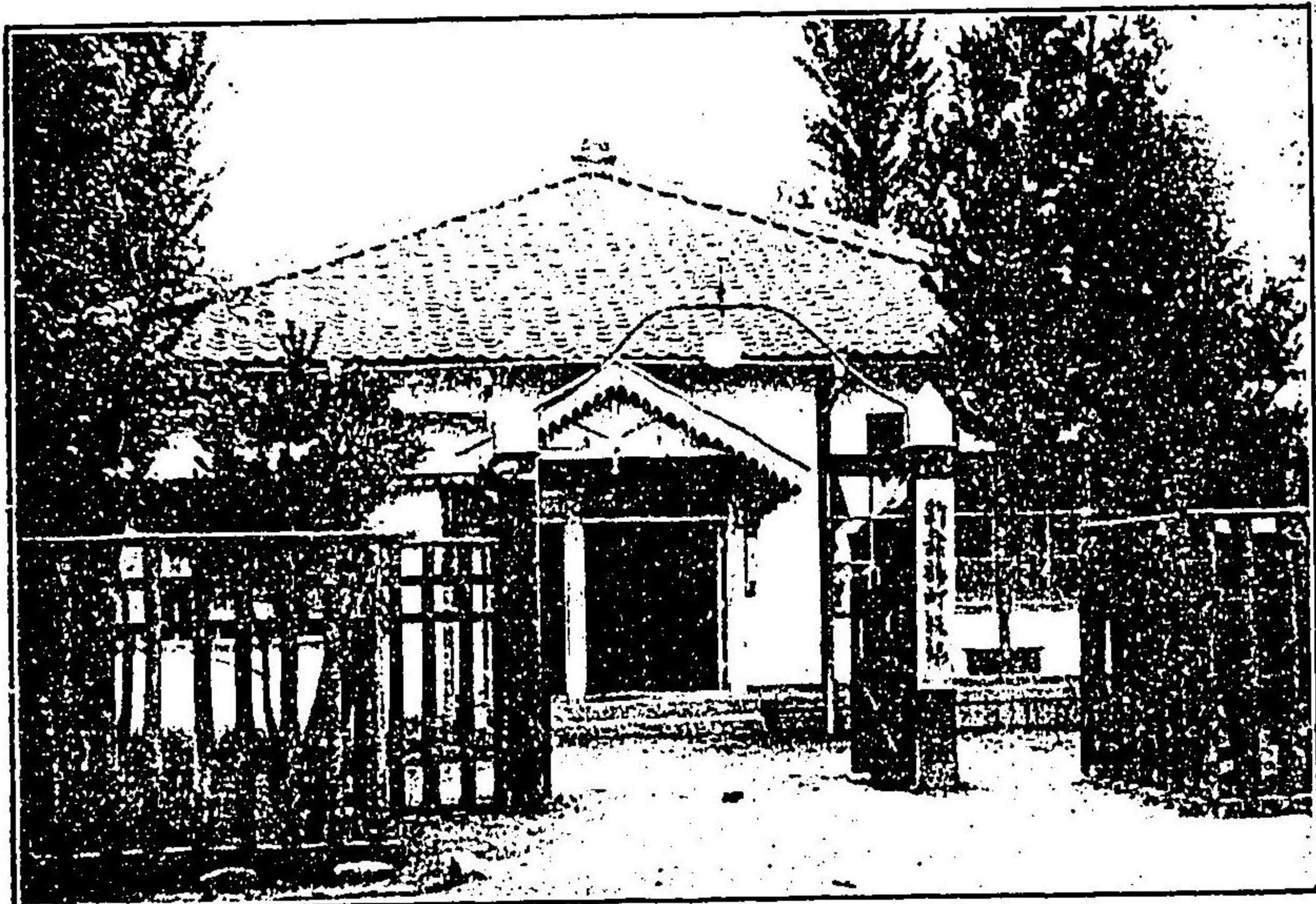


新舞鶴警察署

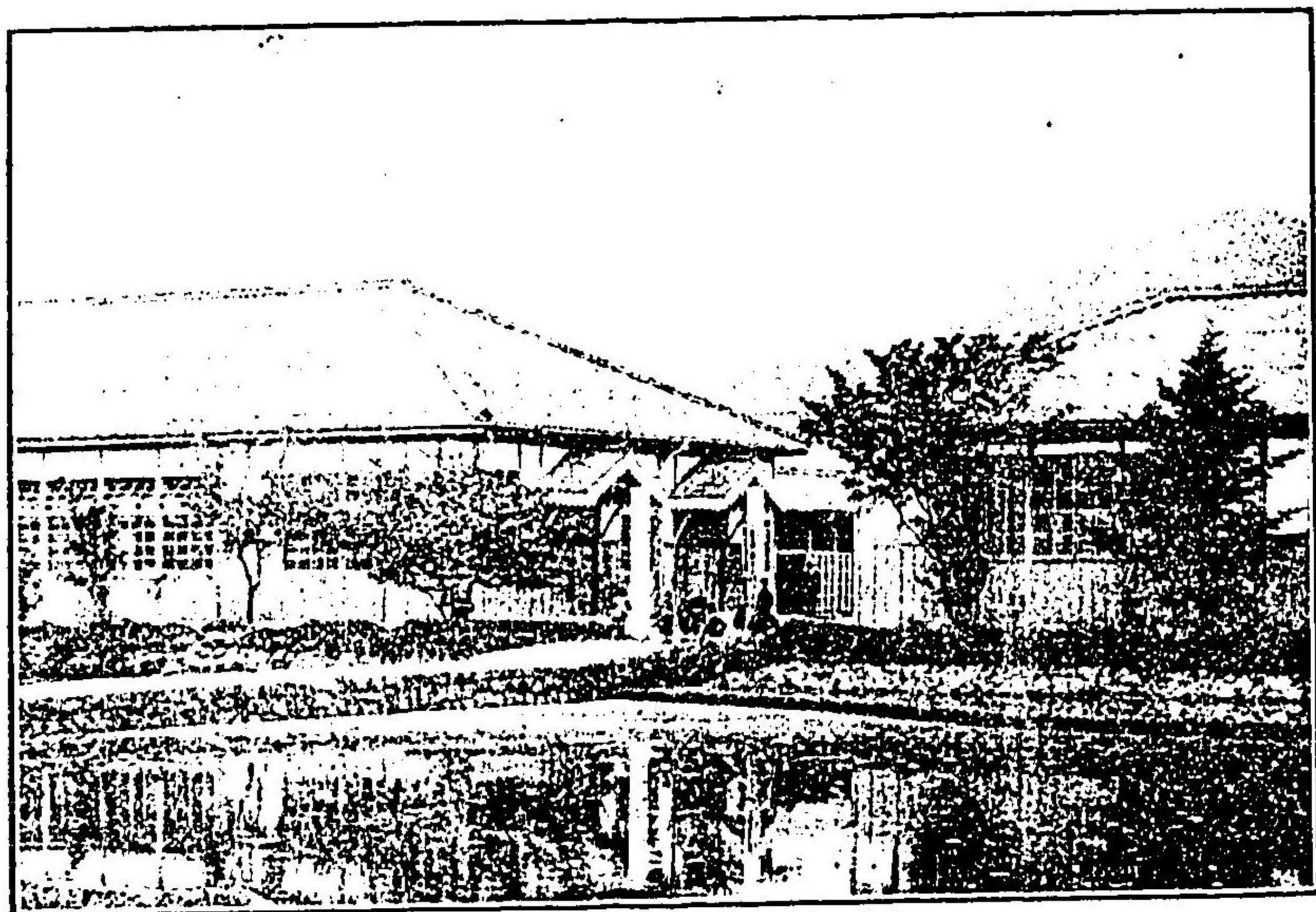


新舞鶴郵便局

新舞鶴郵便局



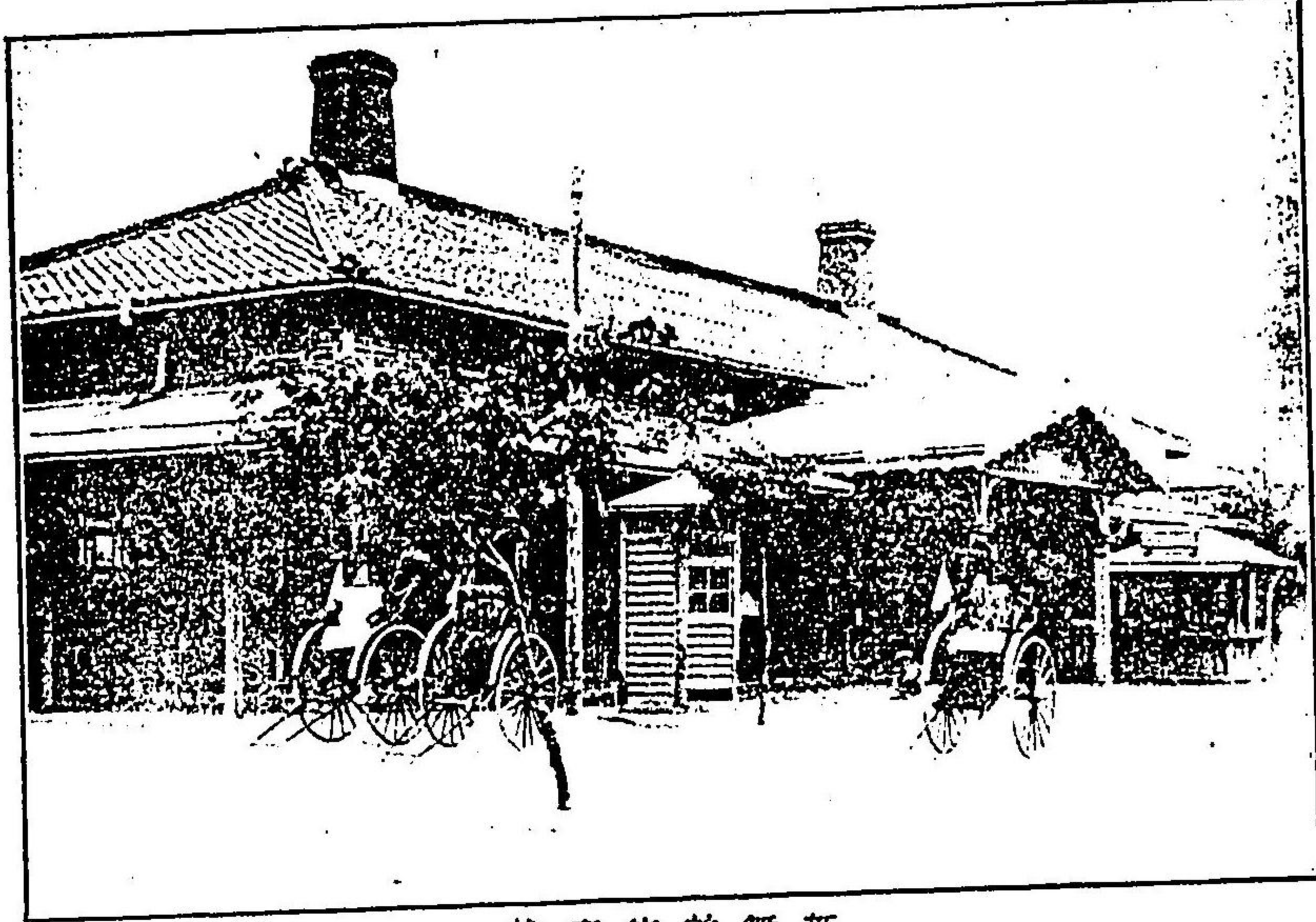
新舞鶴町役場



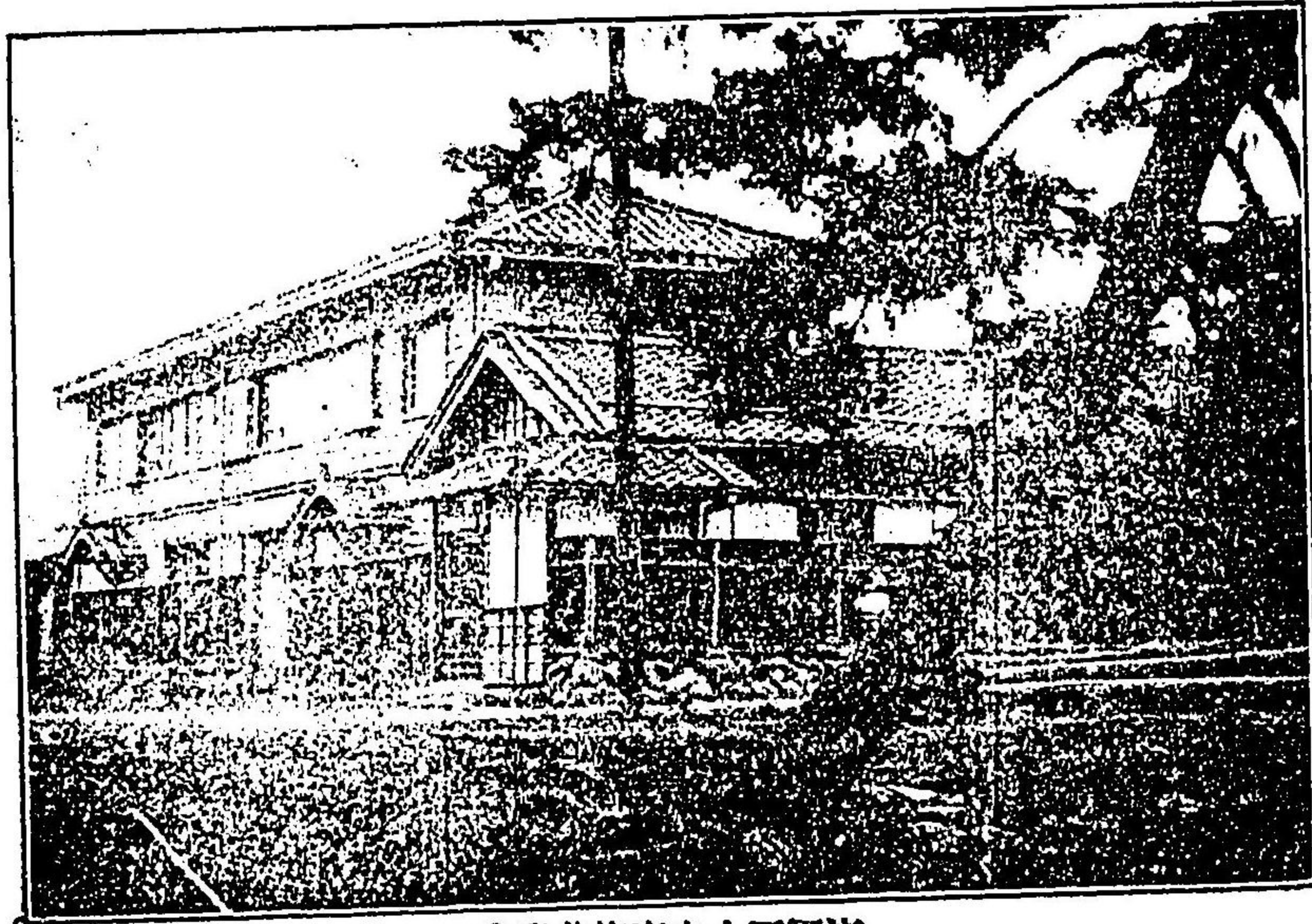
新舞鶴第二小學校

新舞鶴町役場

新舞鶴第二小學校

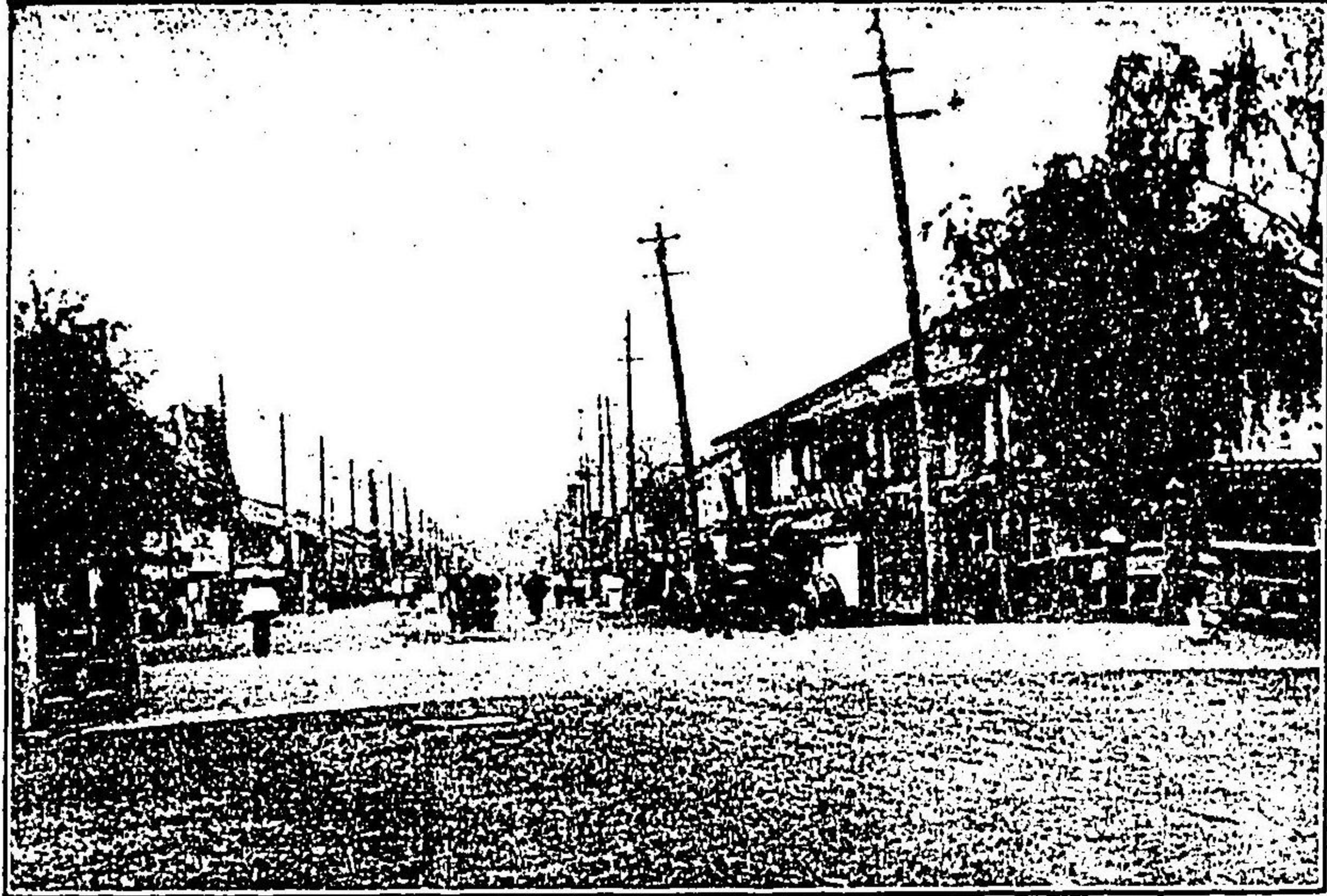


新舞鶴停車場



海軍下士卒家族共勵會

12
13
14



新舞鶴大門口



新舞鶴三條通

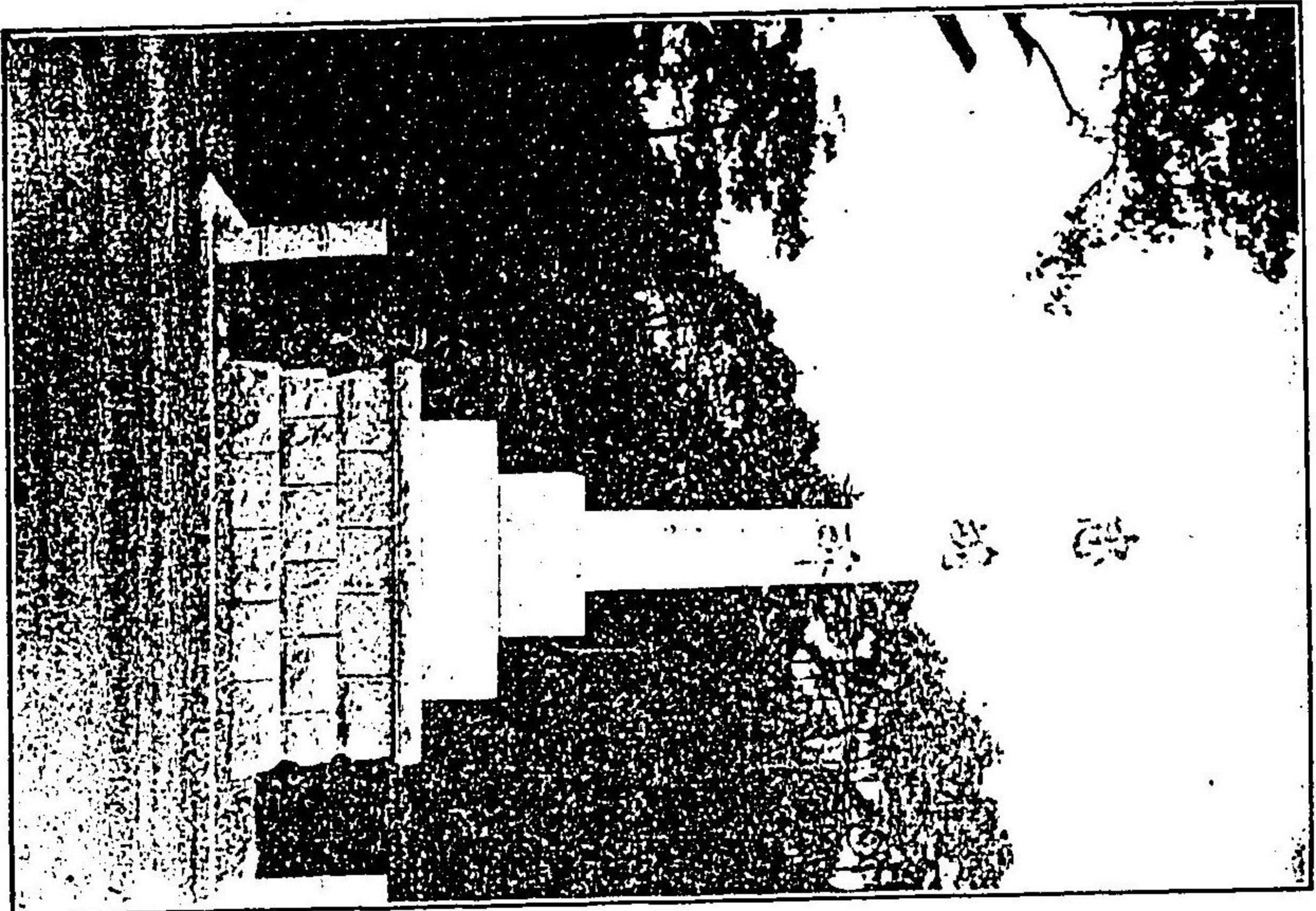


龍宮遊廓

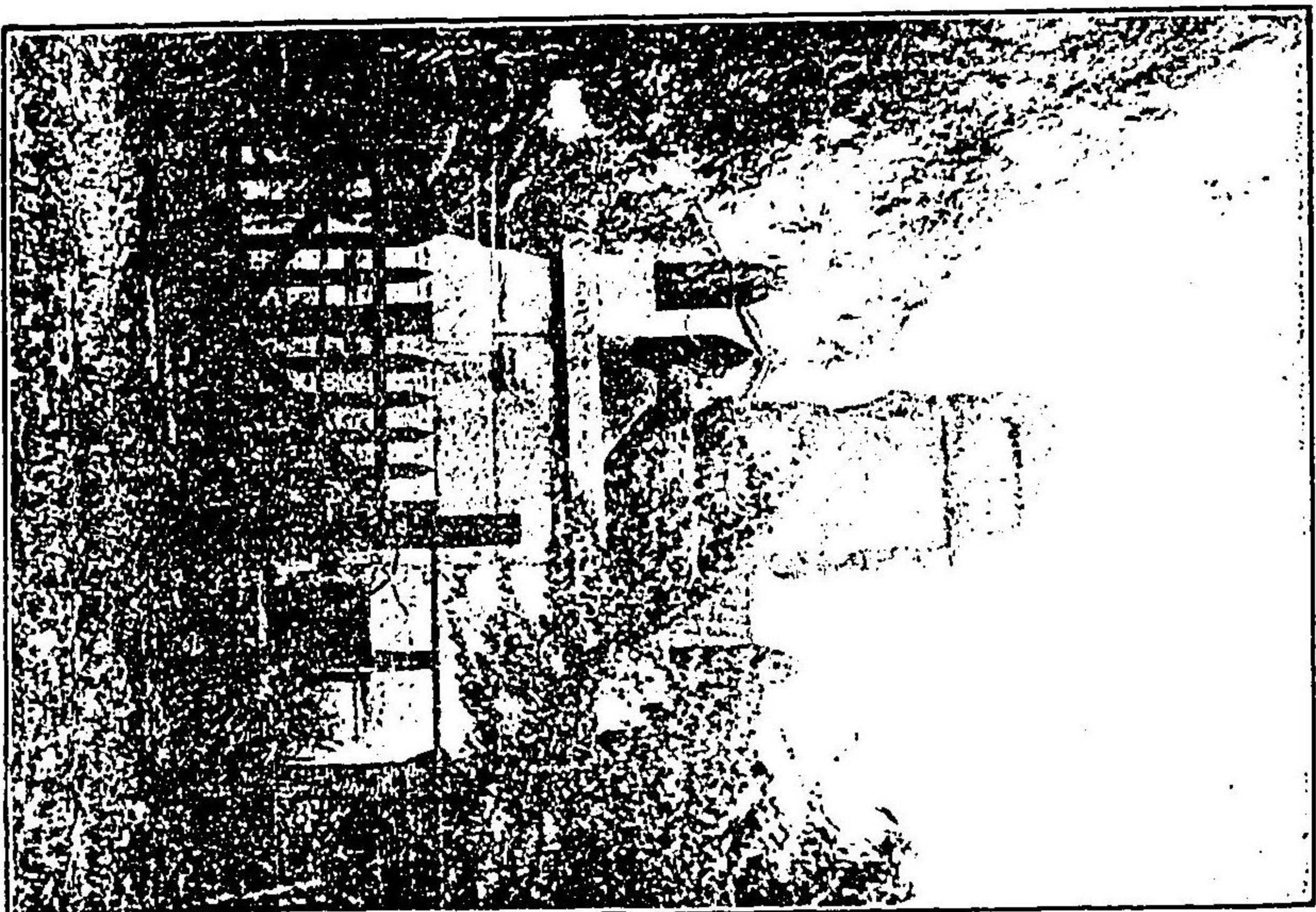


岩島

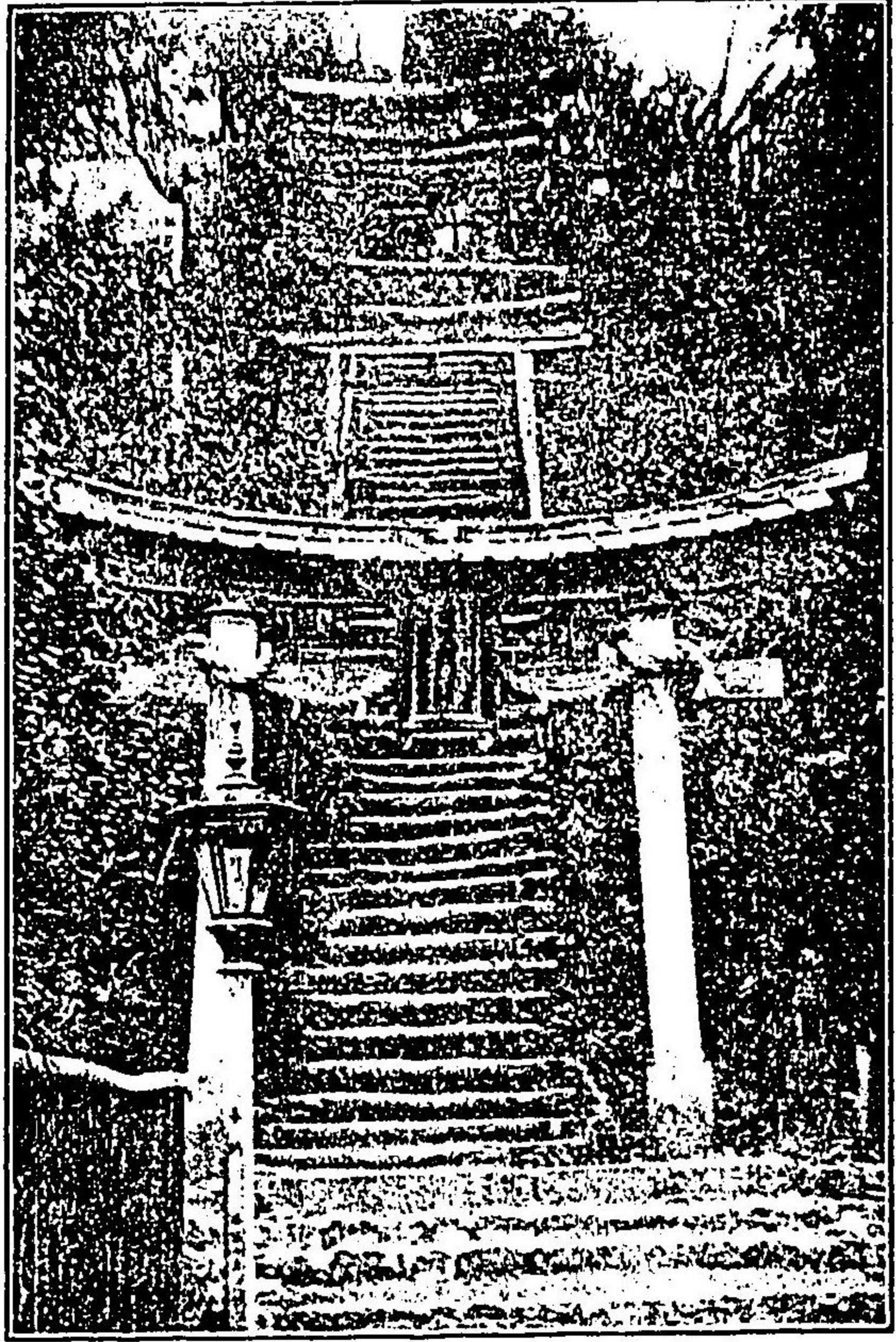
龍宮遊廓



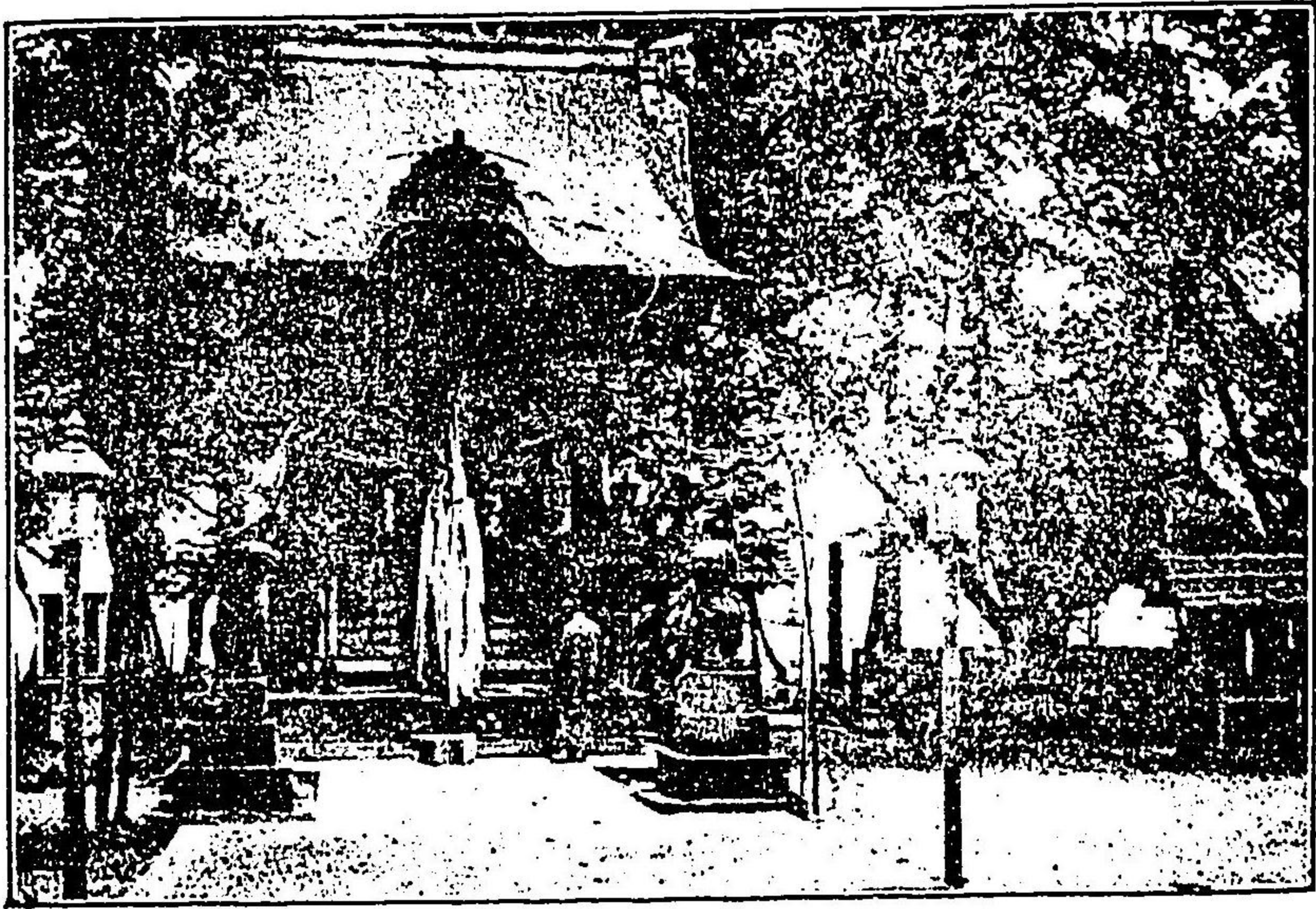
加佐郡忠魂碑



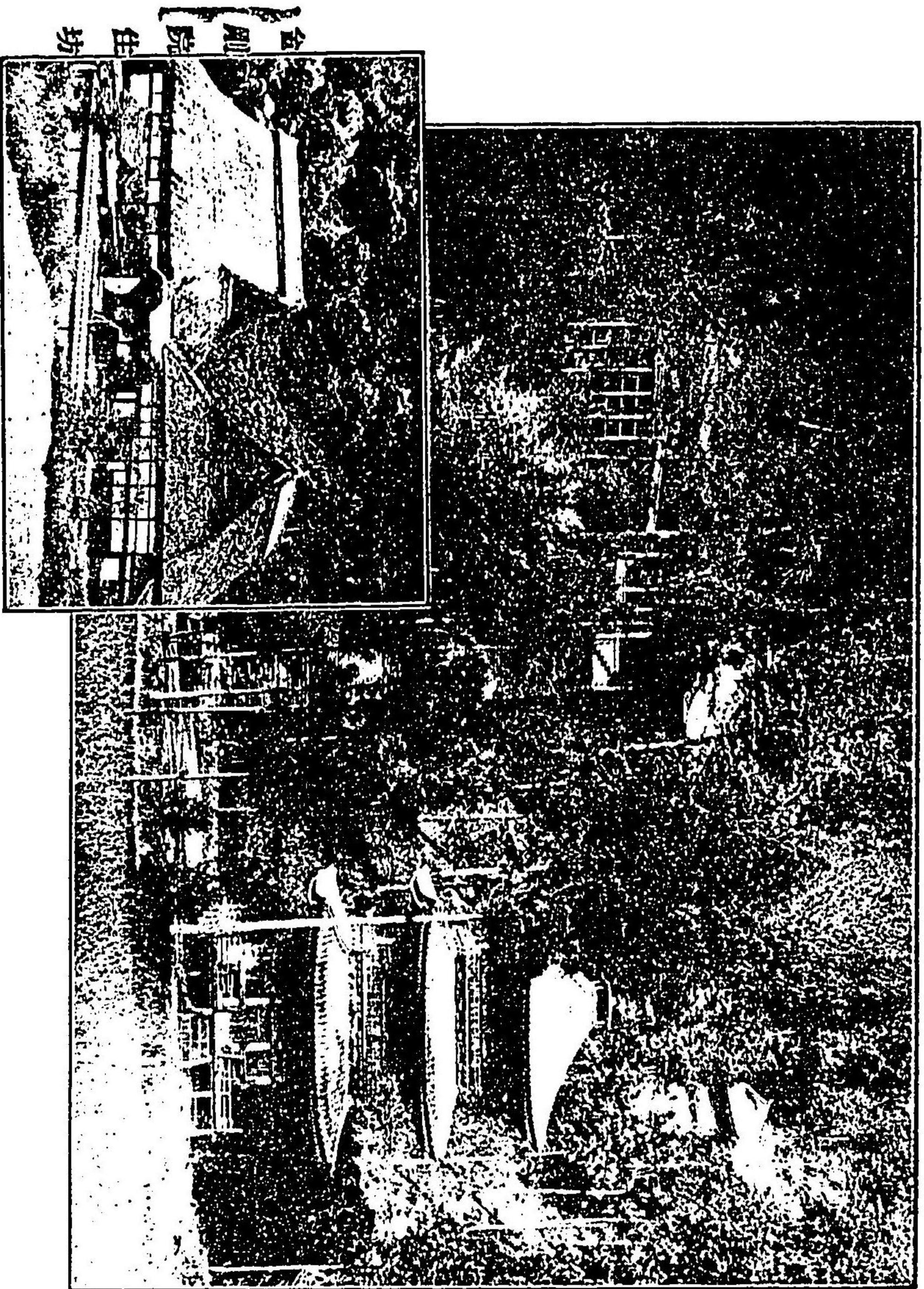
第一艇隊功碑



岩室稻荷神社

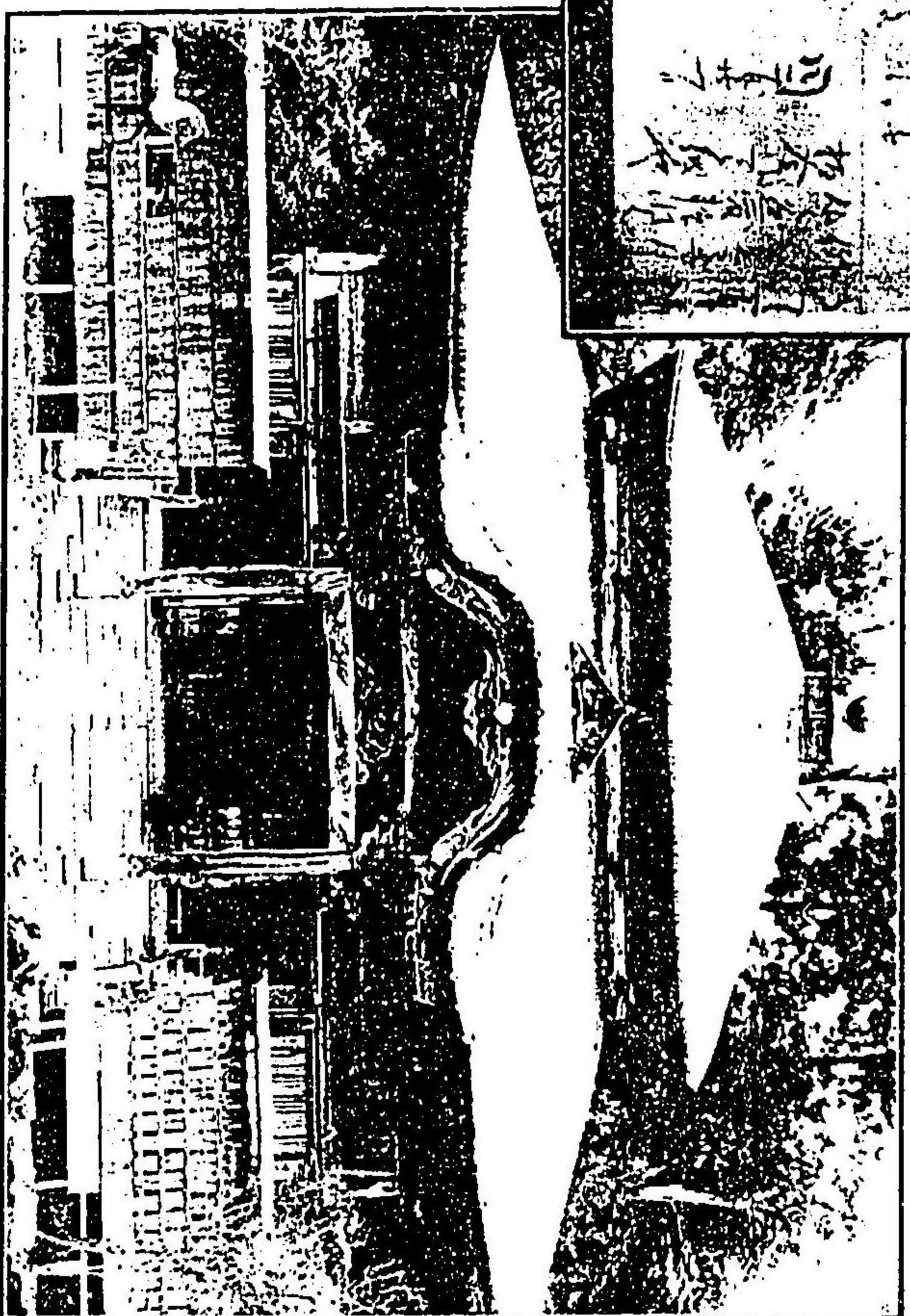


稲荷神社

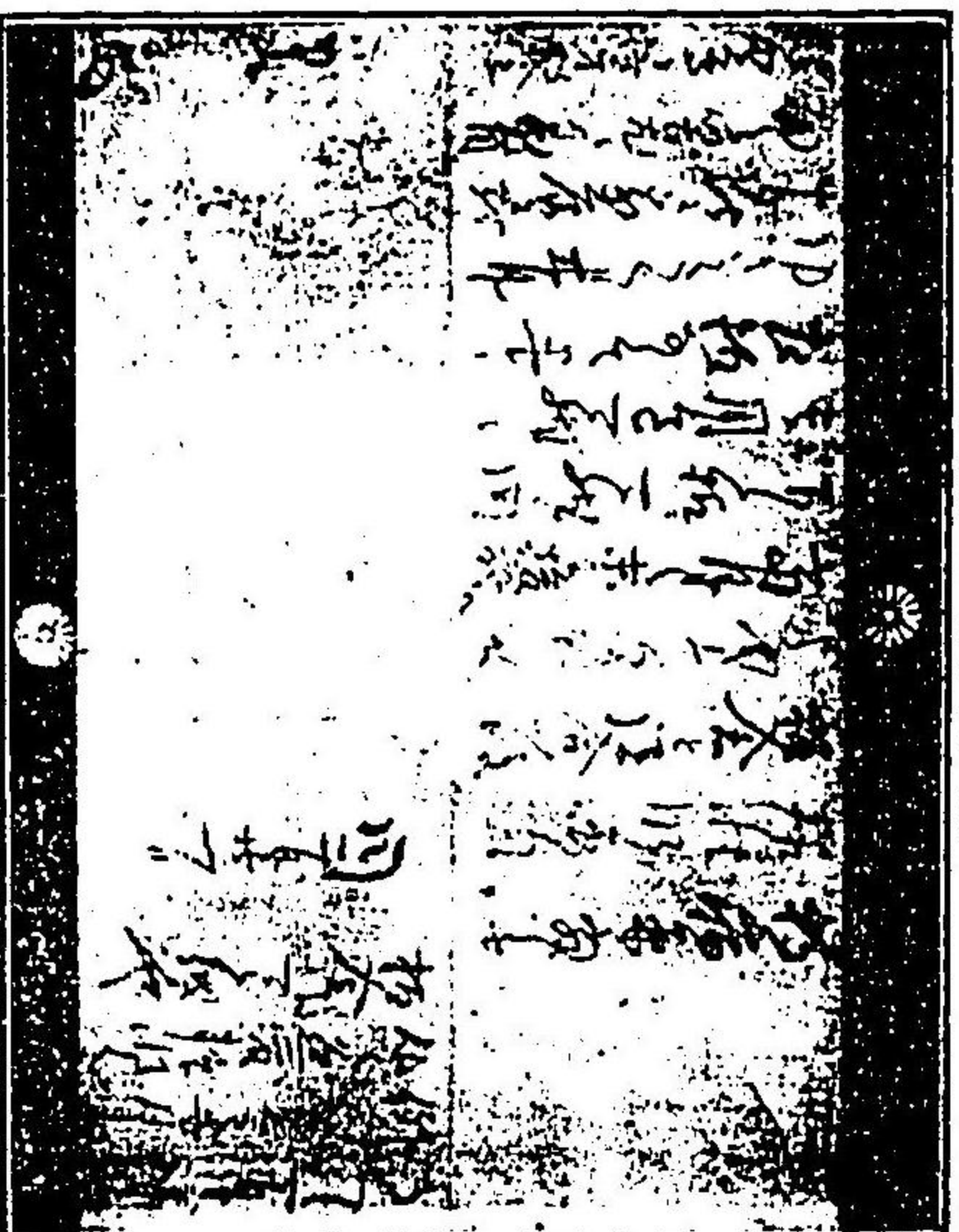


金明防本堂

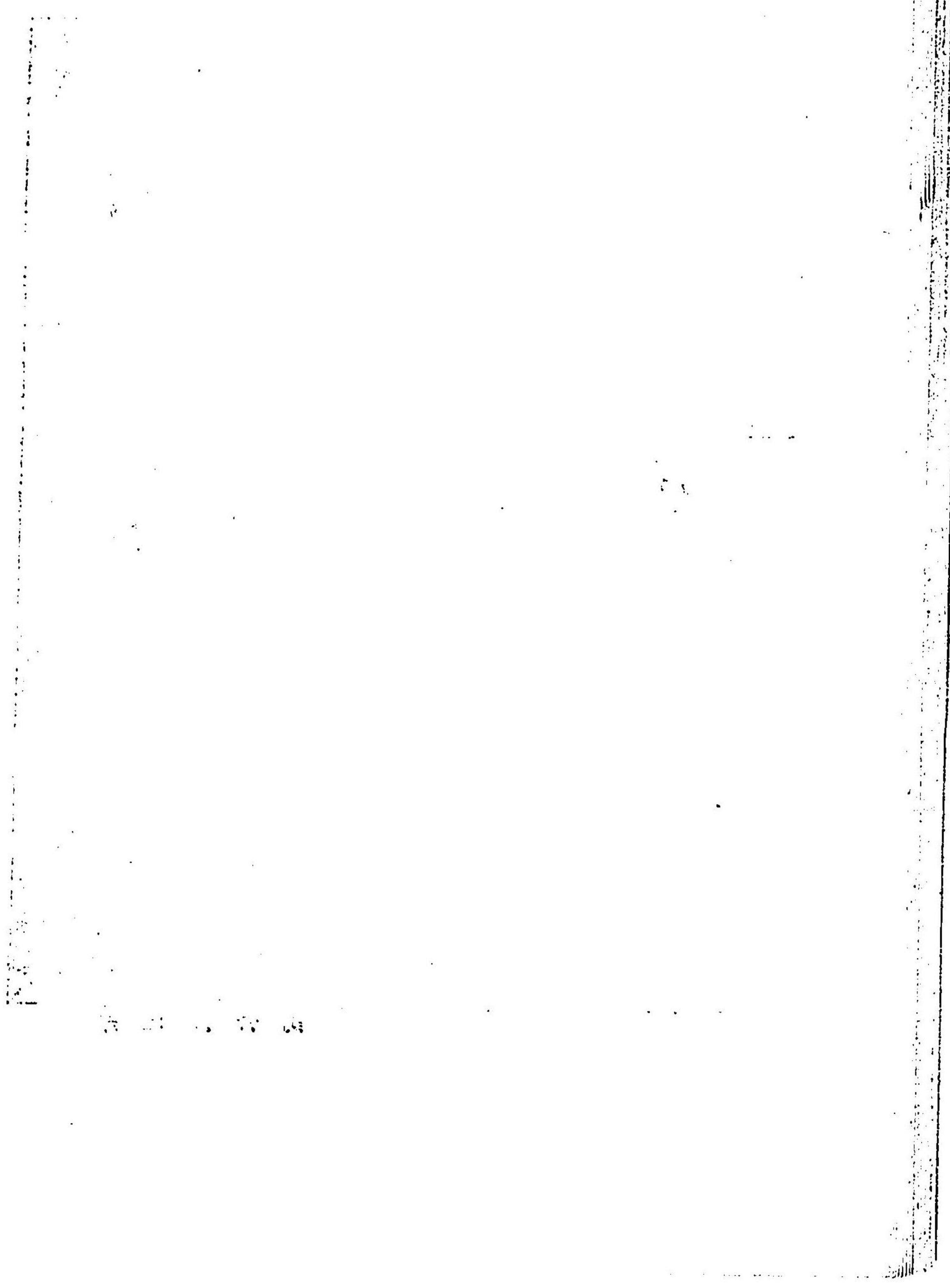
住院坊



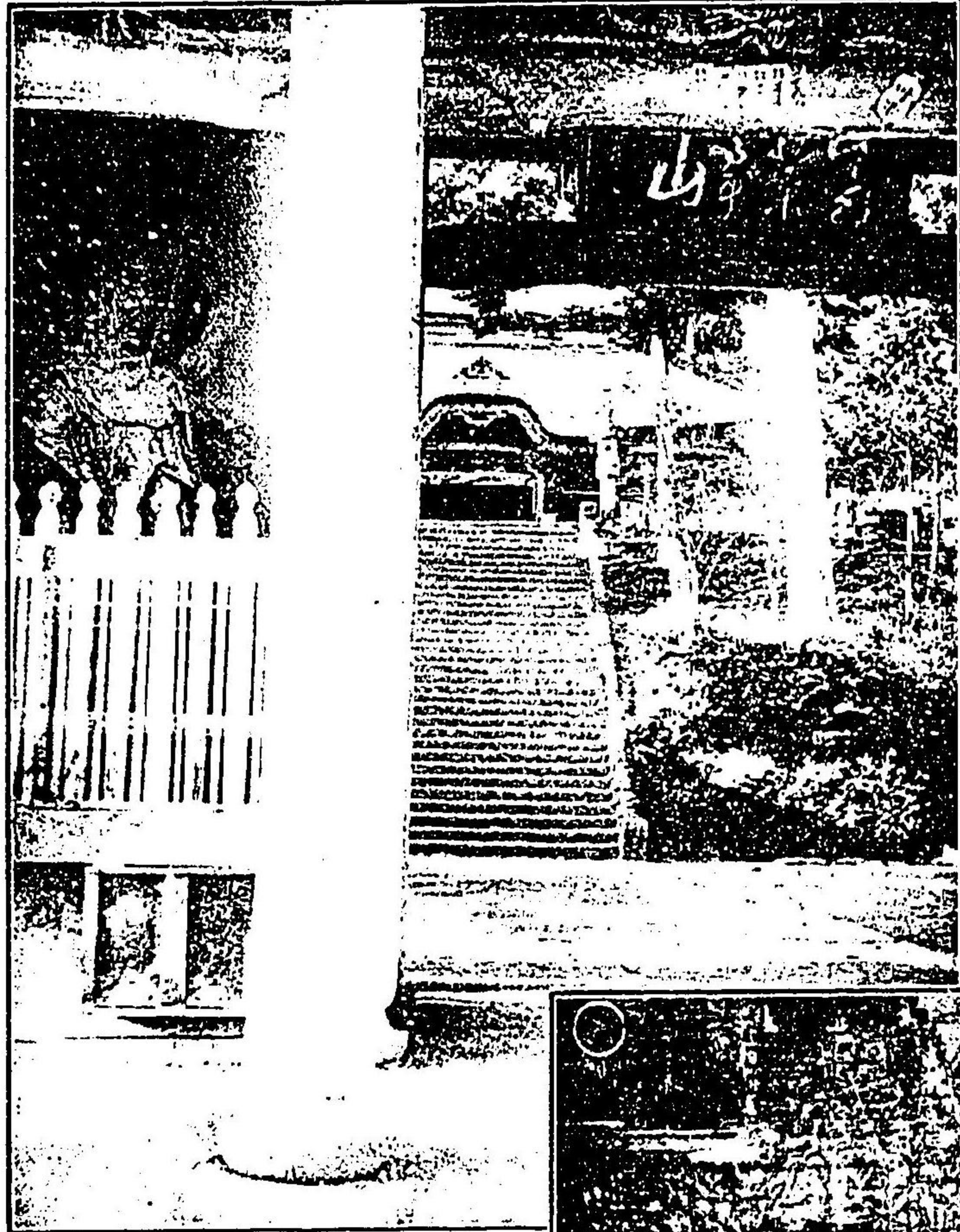
尾尾寺本堂



後陽成帝宸翰



松尾寺山門



松尾寺伽藍古圖

新舞鶴町一條通

會社名 大倉組舞鶴出張所

電話一一三番

新舞鶴町和泉通

大阪電燈株式會社舞鶴支店

電話六七番

舞鶴町字平野屋

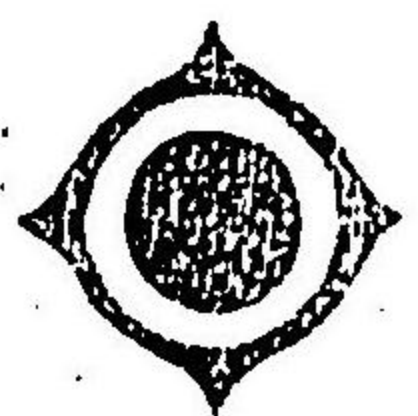
同 支店舞鶴出張所

電話三番

海陸軍官衙

新舞鶴町五條通

需品御用達



會合資 旭 商 會

並二代辨業

電話一三六番
電信略號(ア)

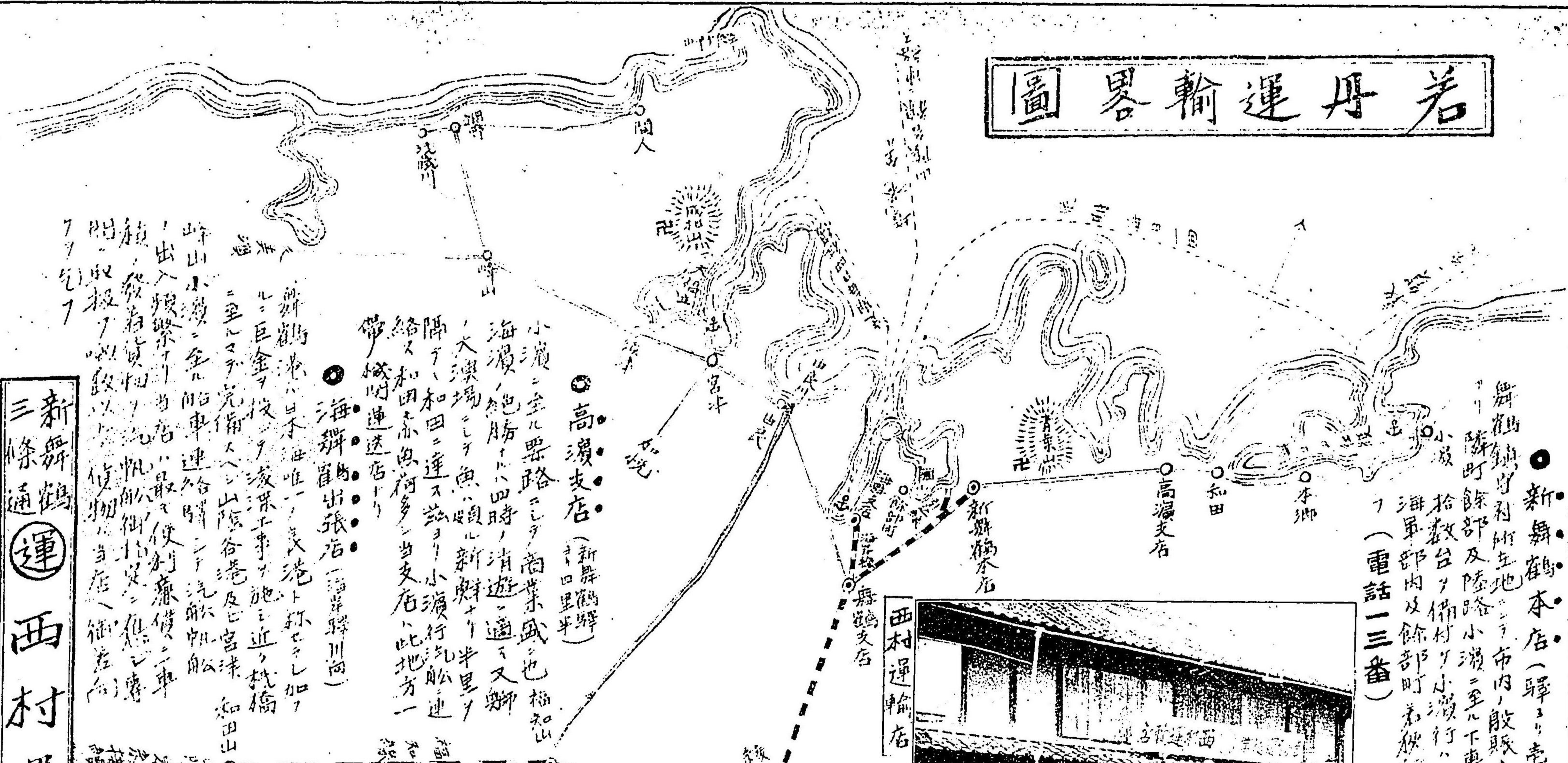
社團
法人

舞鶴勸業株式會社

新舞鶴町五條通大門北

電話（新舞鶴三九番）

若丹運輸畧圖



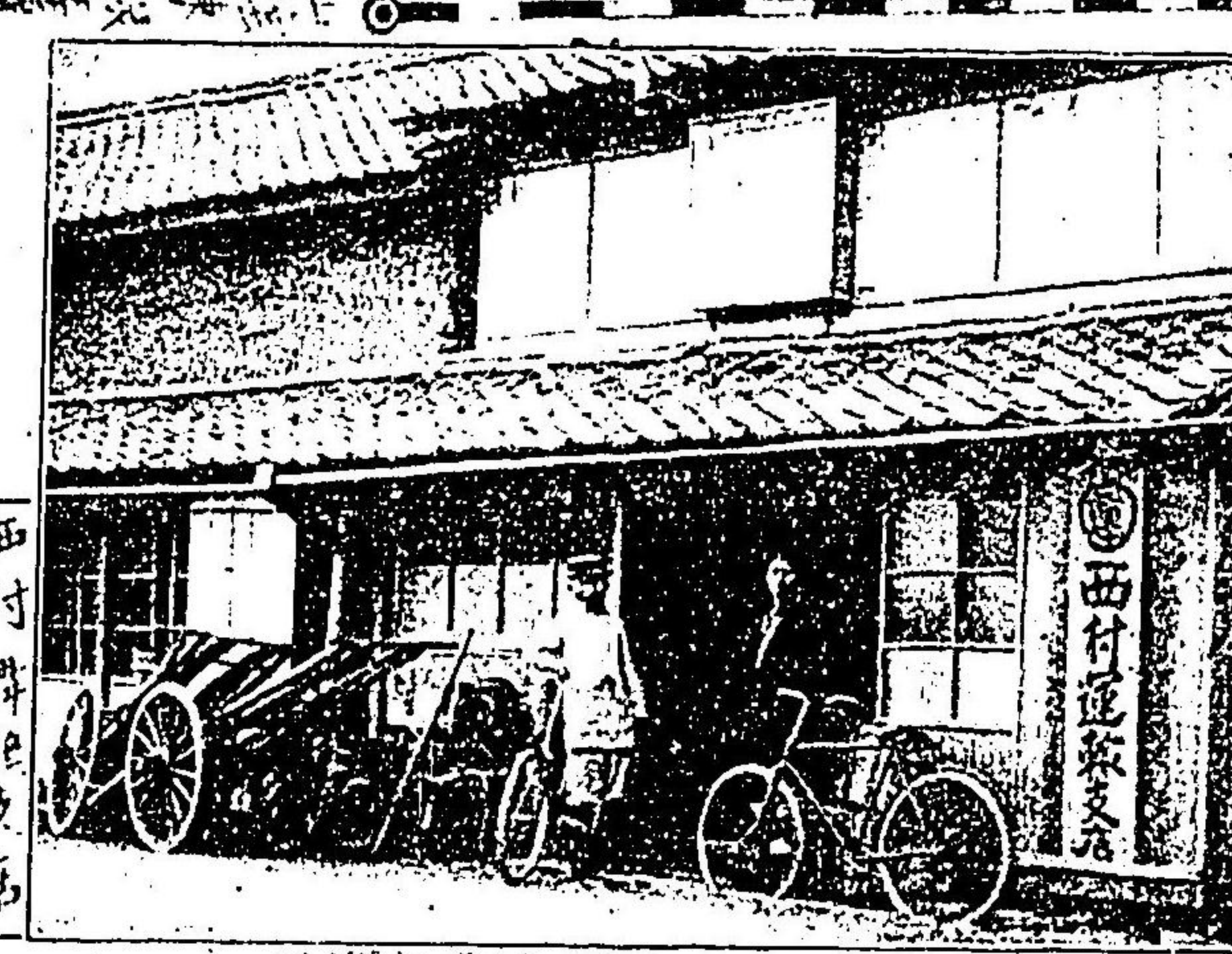
●新舞鶴本店 (驛町)
 舞鶴鎮守利所土地... 市内、般取、十日論軍港、連絡、引込線、設
 計、陸部及陸路小瀬至下車驛、上由店、荷客取扱、為、馬車
 拾数台、備付、小瀬行、和国、汽船、船、最、便利、
 海軍部内及餘部町、若、秋、行、貨物、当、本、店、死、御、迷、荷、
 (電話一三番)



(店盤如計巡)

●舞鶴支店 (驛町)
 舞鶴町、昔田邊、
 新、丹、後、唯、一、市、場、又、驛、
 毎、日、早、六、時、以、來、也、發、送、貨、
 物、本、店、負、荷、一、帶、上、就、
 中、日、後、船、中、出、着、名、
 到、着、市、内、外、中、越、野、間、
 迅速、機、敏、御、取、扱、可、任、候、
 (電話一七三番)

●高瀬支店 (新舞鶴驛)
 小瀬至全、里、路、三、
 海、瀬、絶、勝、一、日、四、時、
 大、瀬、場、三、
 隔、下、和、田、三、
 給、又、和、田、亦、魚、荷、多、
 帶、機、敏、運、送、店、
●海舞鶴出張店 (海舞鶴川向)
 舞鶴港、日本、海、唯一、
 巨、金、
 至、
 峰、山、小、瀬、至、全、
 出、入、頻、繁、
 積、載、貨、物、
 問、取、扱、
 7、7、
 7、7、



西村舞鶴支店

新舞鶴 運 西村運輸店 電話 十三番

緒言

一、本誌は舞鶴軍港所在地たる新舞鶴町の概況を世に紹介せんが爲めに編纂したるものにて附するに舞鶴軍港及び附近著名社寺の案内を以てし旅客の便にせり

一、新舞鶴軍港案内は法規の拘束ありて記述充分なる能はず官許す限り概要を盡せり

一、本誌は本年八月八日舞鶴鎮守府司令長官及び舞鶴要塞司令官に印行の允許を得たり

一、本誌編纂及發行に當り舞鶴鎮守府中山副官、新舞鶴町役場西村書記、木船衛門、井上與本、丸井又市、其他の諸氏が種々の便宜を與へられたるを茲に感謝す

明治四十四年八月

編者識

44. 8. 24
内交

新舞鶴案内記

目次

一、地勢	一
一、沿革	一
一、交通	一
一、氣象	六
一、衛生	三
一、實業	四
一、官署學校	六
一、神社	九
一、寺院	三
一、名勝舊蹟	六
一、遊樂	三

松尾寺參詣案内

舞鶴軍港案内

- 一、沿革
- 一、舞鶴軍港
- 一、舞鶴鎮守府
- 一、舞鶴海軍工廠
- 一、各廳團部隊
- 一、集會所
- 一、艦船
- 一、構内觀覽手續
- 一、觀覽者心得

新舞鶴案内記

地勢

新舞鶴町は加佐郡の稍東部に位し東は萬頃の耕田を隔て、志樂村に接し南は坦路直に倉梯村に通じ西は軍港地域を劃して餘部町と隣り北は一面舞鶴灣の碧瑠璃に枕めり、西南部に丘陵の起伏するあるも土地平坦にして街衢端正なり、面積〇、六四八方里、廣袤東西一里十八町、南北九町あり、管轄京都府廳を距る二十七里二十四町なり。

沿革

此地近く十數年前までは寒烟蕭條たる一僻村に過ぎず一望水田蘆洲漠々たりし處、軍港設置と共に市街開設の端を開き爾來駘々乎として發達し三十九年七月始めて倉梯村の濱、北吸、溝尻の三字及び行永の一部を割き尙志樂村の字市場を加へ一町を成立し新舞鶴と命じたる最新興の市街にして今や鱗莖粉壁の盛觀を呈す豈桑滄の感なき能はむや、今舊に溯り

て沿革を叙せむに往古のこと固より遡として知るべからず、和名類聚抄には加佐郡十郷に
高橋郷（高山寺本には掠橋郷と書す、高橋は掠橋の誤字ならんとの異説諸書に見ゆ）志樂
郷とあるを見る、高橋郷は今の倉梯村及び養保呂村に當り、志樂郷は今の志樂村にして東
鑑に「建久六年丹後國設樂庄」と記し設樂と書せしことあり、丹後風土記に「高橋郷本字高
梯、所以號高橋者天香語山命於倉部山尾上創營神庫以收藏種々神寶設長梯而爲列其庫之料
故云高梯」云々、又「志樂郷所以號志樂郷者往昔少彦名命大穴持命當巡覽平治天下時而悉巡
行於此國畢更到坐于高志國之時召天火明神詔汝命者可領知此國火明神大歡喜乃曰永母也青
雲志良久國矣故云志樂也」云々とあり郷名の出所を知るべし、加佐全郡地誌を見るに高橋
郷の名稱今湮滅して微すべきなしと雖も森行永濱の三村を倉橋谷と唱へ溝尻多門院堂奥の
三村を祖母谷と唱へ祖母谷も以前は倉橋と唱へしこと山口明神の鰐口の銘にあり然雖何れ
の頃高橋を倉橋と轉訛せしや判明せずと記せり、正應元年丹後總田數目録には「一掠橋郷
百六十七町七段内百八町一段七十五歩一色領家延永左京亮二十七町九段八十三歩與保呂小
倉筑後守三十一町六段二百二歩地頭小野寺、一志樂庄二百町九段百八十歩内九十四町三段

三百四十六歩西大寺」とありて當時の領主を明かにせるが志樂庄は設樂五左衛門父子延慶
年間より元弘二年まで所領し市場に住せること古史に見ゆ、天正六年長岡兵部大輔藤孝一
色氏を亡して丹後國一圓を領す、藤孝の子細川忠興田邊城を築き其所領に屬せしが慶長五
年京橋高知之に代り孫高盛に至り寛文八年牧野親成代り領す、之より奕世相襲き九代を經
て彌成に至る、享保十九年加佐郡舊語集に郡中各村の高付を記す、當町各字の分左の如し
▲北吸村二百五十八石三斗八升▲濱村五百七十六石二斗二升八合▲溝尻村四百七十二石
八斗

明治二年皇政復古し、三年舞鶴藩と爲り彌成知事に任せらる、四年七月廢藩となり、十月
豐岡縣の管轄に屬し、九年八月更に京都府に屬す同年戶長の制を布かる、や十二ヶ村聯合
（餘部上、下、北吸、森、行永、濱、溝尻、堂奥、多門院、常、養保呂、木下）の戶長役場
を行永村に置く、二十二年四月自治制の施行に際し北吸、濱、森、行永、溝尻、堂奥、多
門院を合して倉梯村と稱す、今當時に於ける各字の状況を述べんに北吸は元餘部郷（現今
餘部町）に屬し現今の軍港構内（下士卒集會所附近）に在り人家三十餘戸専ら農桑を業とす

●●●●●
 濱は現今の朝日通より一條通に出で寺川に沿ひ海岸に至る間に散在して人家百戸と稱し農
 業の傍ら毎年十月より翌年四月末迄各戸索麩の製造に従事し丹後索麩と稱し東北地方及び
 北海道に輸出し一年産額約三萬俵價格三萬圓に達せりと云ふ、溝尻は舊北國街道以南に在
 りて人家七十餘戸現時の如く農業を營めり、市場は志樂村大字泉源寺の一部なりしを四十
 年八月京都府告示を以て大字名に改稱す、北國街道の小驛にして人家約三十戸悉く旅人宿
 若くは商舖を營み近郷に於ける商業地たり毎年牛馬の大糶市場を開催せるを以て市場の名
 出でたり、然して二十二年五月勅令を以て舞鶴軍港設置を公布せられ三十年一月軍港施設
 工事に着手し三十四年十月略竣成、鎮守府を開廳す、之より前村民は軍港開設と共に來住
 者多數増集すべきを豫期し新市街開設を企畫し三十年三月京都府技手の派遣を求め實測設
 計を了す、三十三年府費國庫の補助を得て工事に着手し三十五年十一月阡陌縱横の基盤型
 市街を成工し街路の命名を行ふ、一條通乃至九條通及び大門通を除くの外悉く軍艦名に
 因めり、爾來三十七八年戰役の爲め來住者遽かに幅濶し且つ三十七年十一月阪鶴鐵道開通
 の結果交通の頻繁を加へ忽ち長足濶歩の勢を以て膨脹發展し二村を併合して町制を布き舊
 舞鶴町に對し新舞鶴町と命名す、然るに町制施行前住民が地勢上自然的に東舞鶴と稱し來
 りしが今猶之を聞くことあり、町制施行以來人口戸數統計左の如し。

年次	戸數	人		合計
		男	女	
三十九年末	二、二六二	三、九三四	三、二八一	七、二二五
四十年末	二、九七三	四、七〇九	三、八九四	八、六〇三
四十一年末	三、一九九	五、一三二	四、二九八	九、四三〇
四十二年末	三、七三六	五、五五三	四、七〇〇	一〇、二五三
四十三年末	三、八四七	六、二〇六	五、二九三	一一、二九九

町民の職業を大別すれば海軍々人軍屬及び職工最も多數を占め商業之に次ぎ工業農業雜
 業の順次なりとす。
 町制施行以來町長の歴任左の如し

- ▲池田棍五郎氏(明治三十九年七月一日町長代理者任命、同年十二月九日退職)
- ▲小島鼎氏(明治三十九年十二月七日就職、四十年一月二十一日退職)

▲長谷川憲一氏(明治四十年四月九日就職、四十一年九月十日退職)
 ▲藤田孫平氏(明治四十二年三月五日就職、四十四年六月廿九日退職)目下缺員中

交通

軍港設置以前は若狹に通ずる北國街道の一村落に過ぎず三面峯密に圍繞せられ東に吉阪峠、南に城取峠、西に柴折峠の險峻を控へ、北の一面海灣洞開するのみにて道路未だ開けず陸上の交通極めて寂寥たりしが明治三十年鎮守府開應に先立ち新市街計畫の實測に着手すると共に餘部町道芝通より隧道を通じて新市街を横貫し北國街道に接続する鎮守府東街道を實測設計せられて三十二年より開鑿工事に着手し三十五年十一月道芝隧道幅員二十四尺、延長百九十四間、鎮守府東街道新舞鶴町地域幅員十間乃至四間延長三十町三十三間の竣工を告げ開通を見るに至り、始めて舞鶴、餘部兩町へ通ずる道路は平坦砥の如く車馬の往來絡繹として交通運輸甚だ利便を得たりき。爾來附近各村に通ずる道路は漸次改修せられ現在縣道九町十九間、郡道二十一町九間、里道四里十五町五十四間の延長を有せり。左に本町(大門通三條交叉點)より各地に至る里程並に人力車賃を掲ぐ

地名	里程	賃金	地名	里程	賃金
餘部町西構門前	一里四丁	拾六錢	東大浦村中田	二里	貳拾八錢
餘部町西門	三十五丁	拾四錢	由良港	五里	七拾錢
軍港内通過	一里二十四丁	貳拾七錢	宮津町	八里五丁	壹圓拾四錢
餘部町賀津真	二里	貳拾六錢	河守町	七里六丁	壹圓六錢
舞鶴町	一里三十丁	貳拾四錢	梅道	五里十八丁	七拾七錢
吉阪	二里	貳拾八錢	綾部町	七里廿五丁	壹圓八錢
松尾寺	四里九丁	五拾九錢	福知山町	十里二十丁	壹圓四拾八錢
若狹國高濱					

又北國街道には新舞鶴、高濱間一日數回馬車便あり。次に鐵道は初め京都鐵道株式會社に於て軍港と連絡上舞鶴餘部間の線路敷設を豫定し居たるが鎮守府開應と共に焦眉の必要を認め三十五年政府に於て敷設の議決し技師を派遣して舞鶴餘部間及び舞鶴新舞鶴間を數回實測を行ひ兩線を比較考査の結果舞鶴新舞鶴間線路は將來敷鶴線と連絡上好都合なると工費軽減の二大優點あるを以て新舞鶴に停車場を設置し軍港との連絡は引込線を敷設すること

とに決定し三十七年日露開戦と共に至急工事として阪鶴線福知山より新舞鶴迄の線路敷設を一時に工事を開始し同年十一月開通を見るに至り交通運輸上に一新紀元を劃し遽然本町の發展を助長せり、超えて四十三年八月當地方民が多年翹望せし京都線の全通するに至り東海道及び阪神地方との聯絡に時世の節減を興へ多大の利便を得たと共に更に交通の頻繁を加へたり、然して山陰線は近く四十五年中に全通を告げんとし又北陸線に連絡すべき敦賀新舞鶴間線路は既に第二期線に編入せられ四十五年度より工事が着手の豫定なりし處政府の都合に依り無期限延べとなりたるも若丹有志者の之が期成に奔走盡力しつゝあるれば近き將來に於て開通を見るに至るべく茲に於て陸上の交通は所謂四通八達全く遺憾なきに至らん、左に新舞鶴驛に於ける最近の荷客運輸統計を掲げんに

○乗降客及賃金

年次	乗車人員	降車人員	乗車賃金	入場料	年次	乗車人員	降車人員	乗車賃金	入場料
四十二年	一六八、八二五	一四〇、五三三	三、八二一、三三三	三三六、三三三	四十三年	一七〇、三五六	一三三、九三三	三、九〇〇、〇〇〇	三三三、三三三

○發着貨物及賃金

年次	發送貨物	到着貨物	發送小手荷物	到着小手荷物	貨物賃金	小手荷物賃金
四十二年	四、四九七	一四、七六七	一三三、六三三	三三、九二〇	一、三三七、〇〇〇	三、七三三、三三三
四十三年	三、八〇三	一三、三〇三	一三三、三三三	三三、三三三	一、三三三、〇〇〇	三、三三三、三三三

次に海上の交通は濱村は舊來特産物たる素麴を東北地方及び北海道に輸出し其原料品たる麥を同地より輸入せると、又附近各村より木材、炭、米等を搬出し來りて各地へ輸出せるに依り海運の便早くより開け諸國の船舶常に入出して小商港の觀ありしが軍港設置後海軍所屬艦船の外船舶の出入に規束あり、軍港第二区内與保呂川以東を市場地と稱し海運を營業とする船舶に限り自由に錨泊することを許され與保呂川一名新川尻附近は常に船艇の幅濶を見るに至れり、然して近年舞鶴、宮津、小濱、敦賀其他各港へ連絡する定期汽船毎日航海せるを以て貨客の運輸交通甚だ利便を加へ益々頻繁となれるが、現今の船舶地は棧橋其他の設備なく貨客の乗降極めて不便なるを以て先年來新舞鶴港灣改修の設計實測中

なりしが愈々四十五年度より府費支辨を以て養保呂川尻突堤並に棧橋修築及び磐手通、出雲通間の碇泊地浚渫工事に着手すべき豫定なるが竣工の曉は交通上の至便言ふを俟たず又灣内を往復する通船及び専ら海軍所屬艦船に往復する通船あり、何れも新川尻より發し灣内通船は東大浦村字中田、西大浦村字平まで何れも賃金乗合金五錢、買切金三十錢、朝來村字大波下まで賃金乗合金五錢、買切金二十五錢なり、艦船通船は午前五時三十分より午後の十二時迄を營業時間とし、艦船碇泊地點に依り賃金を規定せり、軍艦觀覽者は本船に據るを最も便利なりとす。

○河川及橋梁 本町の最も東部を流るゝを寺川とす、舊名を城取川と稱し源を城取峠に發す、架する處の橋梁、大門通に在るを白糸橋とし、長さ十一間、幅十間、構造京の五條大橋に擬す、橋の兩裾に垂楊を植へ風趣愛すべし、八島通に在るは八島橋にして幅三間、長さ十間、敷島通に在るは敷島橋にして幅三間、長さ八間なり、町の中央九條通を縦貫して海に注ぐを與保呂川とす、源を與保呂村字與保呂の山中に發し本町の最も大川なり、此川は始め西國橋の稍下流より斜めに五條海岸に流れ居りしを新市街計畫と共に三十四年よ

り二年間繼續工事として經費貳萬圓を投じ幅十三間長さ五百四十間の河身改修を行ひたるものなり、架する處の橋梁、大門通に在るを萬代橋とし長さ十三間、幅十間、灣内の風光を眺望するに適し夏夕納涼者多し、八島通に在るは養老橋にして長さ十三間、幅三間、朝日通に在るは西國橋にして長さ十三間、幅六間、朝日通は元の北國街道にして西國巡拜の道路なりしを以て西國橋舊名巡禮橋の名ある所以とす、此川に本郡特有の鈔を産し、毎年三四月築を設けて漁獲す、與保呂川の東に祖母谷川あり、源を倉梯村字多門院三國嶽より發す架する處の橋梁、大門通に在るを千歲橋とし長さ八間、幅十間、其上流に在るは祖母田橋にして幅三間、長さ五間石橋なり、町の東端を流るゝは志樂川にして源を志樂村字松尾青葉山より發す、龍宮新地及び東西大浦村へ通ずる道路に龍宮橋を架設す、幅二間長さ十五間なり。

○郵便、電信、電話 新舞鶴郵便局に於ける四十三年度郵便、電信、電話に關する統計を見るに、通常郵便物引受二百二十七萬五千七百七十五箇、配達二百六萬五千五百五十箇、小包郵便引受費萬四千六百九箇、配達四萬八箇、電報(内外國共)發信二萬七千二百八十七箇、

着信二萬四千四百七十箇、中繼三千六百九十七箇、電話開通は四十年十二月廿六日、交換開始は四十三年十月十一日にして餘部町は同一加入區域に屬し、現在加入者數百八にして本年加入者にして起工のもの拾七とす。

○船船車輛 本町役場登録四十四年七月一日現在左の如し

漁船二 和船三八 乘客馬車二 牛馬車一三 荷車三七五 人力車二二八 自轉車二五八

○旅館 市内を通じて約四十戸あり、營業者は悉く旅人宿組合に加入し宿泊料を一定し旅客の安全便宜を圖る。今重なる旅館を擧ぐれば新舞鶴停車場前に紙野旅館、福助樓あり、瀧車の乗降に便なり、大門通には白糸橋畔に松榮館、二條通に白糸樓、菊水館、三條通に福山樓、六條通に紅白等あり、何れも市の中樞にして所用最便なり、萬代橋畔には丹波屋あり瀧車の乗降に便なり、以上各々客室完備し待遇懇切なり、宿泊料は一等壹圓五拾錢、二等壹圓貳拾錢、三等壹圓、四等七拾錢、五等五拾錢、晝飯料は一等六拾錢、二等五拾錢、三等四拾錢、四五等各貳拾錢なりとす。

氣象

舞鶴海軍測器庫の觀測に係る最近八ヶ年間(自三十六年(至四十三年)平均の成績を左に示す。

月次	氣 壓	最高氣溫	最低氣溫	濕 度	雨 量	風 向	風 速 度
一月	七六五、一	一五、四	以下	八〇	一九九	北西	二、五
二月	七六四、三	一四、一	同	七八	一六二	北西	二、五
三月	七六四、五	二一、二	同	七六	一五四	北西	二、八
四月	七六二、五	二六、三	〇、〇	七三	一三六	北	二、八
五月	七五九、五	二八、五	三、八	七五	一二九	南	二、五
六月	七五六、五	三〇、十	九、五	八〇	一九五	北	一、九
七月	七五六、五	三四、六	一五、十	八〇	一八六	南東	一、九
八月	七五九、九	三四、六	一七、六	八〇	二二二	南東	一、九
九月	七五九、七	三三、六	一二、三	八二	二四一	北	二、〇
十月	七六三、五	二五、四	五、七	八二	一七九	北	二、二
十一月	七六五、二	二三、〇	〇、五	八〇	一四四	北	二、三
十二月	七六四、八	一七、一	以下	七八	一五七	西北	二、五
一年平均	七六一、五	二五、二	四、二	七八	一七四	北	二、三

備考 氣溫は總て攝氏の度により、氣壓、雨量は精、風速は秒米を以てし、風向は和風以上の最多を示す

尙平均氣温は攝氏一三、四にして盛夏嚴冬の極度氣温は未だ酷烈とは云ひ難し、降霜は十一月下旬より四月下旬まで、降雪は十一月六日より四月一日まで、積雪最深二尺を出でたることなし、結氷は十二月中旬より三月上旬に至る。雨量は甚だ多く一年間の總雨量二千九十四糎に上り「辨當忘れても笠忘るゝな」の俚諺ある由因を知るべし。一年間の晴雨日數は晴天百十七日、降雨百八十五日、降雪四十三日、曇六十三日なりとす。降雨日數は降水量一耗以上の日を算し降雪日數は降雪のありたる日を一日と見做すを以て重複を免かれず。

衛生

本町に於ける衛生機關の設備は創町以來未だ年淺きを以て尙不完全にして傳染病院改築其他目下計畫中に屬するものを始め將來に期待すべきもの多くを有せり、而して現今の施設としては最も早くより各區に衛生組合を設け組長一名委員九名宛を置き傳染病惡疫の發生蔓延を豫防し且つ衛生の普及發達を圖れり、又四十二年四月より汚物掃除法を準用施行し掃除巡視を日々市中に分派巡回せしめ公私の義務に關する一般掃除の狀況を監視し且つ掃除人夫を督勵して塵芥の運搬、公設道路、橋梁、公共便所の掃除、公共溝渠の浚深其他

町の義務に係はる場所の清潔保持に努む、四十三年中掃除人夫に依りて字市場所在塵芥燒棄場に蒐集搬出したる塵芥量目四十四萬八千貫、汚泥量目四萬七千八百貫なり、尙汚物掃除法實施と共に胞衣污水取扱所を設置し胞衣污水の棄却處分を爲さしむ、又交通最も頻繁なる大門通及び北吹の鎮守府街道筋にては各區組合にて年中を通じ撒水を行ひ居れるが漸次區域を擴張するに至らん、傳染病に對する隔離病舎は從來の關係上倉梯村と共同使用し居れるが其所在地は倉梯村にして不便尠からざるを以て目下改築計畫中なり其他一般の衛生状態は固海濱にして空氣清澄、氣候緩和なるを以て健康に適し概して良好なりと云ふべく四十三年中死亡數は男百二十一、女百十四人合計二百三十五人にして人口千人に對し二十八人七分九厘の割合を示し他の都市に比すれば未だ多しとする能はず、其死因を大別すれば普通病症二百二人、傳染病二十八人、變死四人、中毒症一人なり、病院は左記の二ヶあり、尙開業醫は普通十五名、齒科醫三名にして其他藥劑師四名、助産婦八名あり。○舞鶴海軍工廠職工共濟會病院 三笠通西端に在り、四十年三月開創、専ら職工共濟會員並に家族、海軍下士卒集會所依托の患者を診療す、敷地三千五百三十餘坪、建坪四百四

十坪を有し建築頗る宏壯なり、財団法人組織にして院主は海軍工廠長夫人、院長は海軍工廠軍醫長に囑托し所員は醫員五名、顧問醫二名、藥劑師一名、藥劑監督一名、事務員二名、調劑助手三名、看護婦二十名、傭人四名なり、四十三年中入院患者延人員三千四百六十七名、同新患者百三十名、外來患者延人員五萬一千三百六十八名同新患者千四百九十八名にして一ヶ年總經費壹萬千五百八拾七圓なり。

○私立山添病院 四條通 大門 南入に在り、純婦人科、産科専門にして四十三年九月開創、院長は醫學士山添喜代藏氏にして醫員二名、看護婦四名、器械病舎の設備最も完整す目下新築計畫中。

實業

開町以來僅かに數年を出でざる新市街地として商工業の發達亦之に伴ひ促進せり、而して軍港所在地として商工業家の主たる目的は海軍に於ける需用物品の供給に有りて幾百の御用商人は日々海軍部内へ出入して活動しつゝあり、又一般市中の商況は軍人職工を本位とすれば其例月給料支給日後數日間は最も活潑にして季節に依り各商店は大賣出しを催し頗る盛況を呈す。

○隨稅營業者 四十四年五月末日現在左の如し

- ▲物品販賣業二一八 ▲製造業一一 ▲金錢貸付業一四 ▲物品貸付業一 ▲銀行業一 ▲請負業二一 ▲問屋業三
- ▲仲立業五 ▲代理業一七 ▲川旋業二 ▲運送業二 ▲印刷業一 ▲料理店業八 ▲旅人宿業八

○實業團體 公私設の機關若くは團體としては新舞鶴町農會は農會令に依り組織し現在會員二百餘名を有す、新舞鶴實業會は商工業の發達を圖る爲め有力なる實業家を以て組織せらる、四十三年十二月の創立にして益々發展を見る、現在會員百五十餘名なり、新舞鶴信用組合は四十三年七月の認可にして現在會員百八十五名、口數五百日に達し成績良好也

○銀行 現在本支店出張所は左の四にして其位置、資本金、設立年月等を掲ぐれば

名	稱	位 置	資 本 金	設 立
株式會社愛國貯金銀行		大門通五條角	三〇、〇〇〇(拂込済)	三十九年五月
株式會社佐治銀行支店		四條通大門南	二〇〇、〇〇〇(同前)	三十九年十二月
株式會社百三銀行出張所		大門通三條角	五〇〇、〇〇〇(同前)	四十三年四月
高木銀行出張所		大門通五條角	五〇〇、〇〇〇(同前)	四十三年九月

○會社

現在各會社本支店及其營業種別、資本金、設立年月等を掲ぐれば左の如し

名	稱	位 置	營業種目	資 本 金	設 立 年 月
舞鶴勸業株式會社	字 濱	金錢貸付信託業	一〇、〇〇〇	四十四年五月	
大阪電燈株式會社支店	字 濱	電燈供給	一四、四〇〇、〇〇〇	四十年五月	
三井物産株式會社支店	字 濱	海軍需用品供給	二〇、〇〇〇、〇〇〇	四十二年十月	
新舞鶴魚菜合資會社	字 濱	魚菜委託販賣	三、〇〇〇	三十九年三月	
合資會社七野商店	字 濱	日用品青物販賣	一、〇〇〇	四十二年二月	
力子五合資會社	字 濱	果物海産物販賣	二、〇〇〇	四十二年三月	
川 嶋 合 資 會 社	字 濱	古物販賣	一、〇〇〇	四十二年五月	
森下材木合資會社	字 濱	材木販賣	一、〇〇〇	四十二年十二月	
綿 屋 合 資 會 社	字 市場	菓子製造販賣	一、五〇〇	四十三年六月	
松岡樓合資會社	字 市場	貸座敷業	一、八〇〇	四十三年六月	
新舞鶴運送合資會社	字 濱	海陸運漕業	二、〇〇〇	四十三年七月	
田中搾乳合資會社	字 溝尻	牛乳搾取販賣	一、五〇〇	四十四年一月	
合資會社村田商店	字 市場	醬油製造販賣	一、五〇〇	四十四年三月	
合資會社越後屋洋服店	字 濱	洋服縫製販賣	一、六〇〇	四十四年五月	

合 資 會 社 旭 商 會	字 濱	代辦業	二〇、〇〇〇	四十四年七月
舞鶴煙草合名會社支店	字 濱	煙草販賣	二〇、〇〇〇	四十一年五月
合名會社田中商店	字 濱	醬製造販賣	一、五〇〇	四十三年十一月

▲資本金壹千圓未満の會社は茲に掲げず

官署學校

○新舞鶴郵便局

明治五年七月加佐郡市場村に初めて市場郵便局を置かれしが三十四年

五月同局を廢し倉梯村字濱(大門通白糸橋畔)に二等局を設け東舞鶴郵便電信局と稱す

次で三十七年十一月新舞鶴郵便局と改稱せられ四十二年十月現今の廓島通四條角に構造最新

式の局舎を新築移轉せるが四十三年四月一等郵便局に改定せられ事務益々繁劇を加へ敷地

三百坪建物棟數八棟建坪百五十余坪の局舎内外共今や狹隘を感ずるに至れり

○市場郵便局

大門通市場に在り、三十六年五月開設、爲替貯金事務を取扱ふ

○北吸郵便局

舞鶴軍港東構門前に在り、四十二年六月開設、爲替貯金事務を取扱ふ

○新舞鶴警察署

明治十年八月加佐郡市場村に初めて市場警察分署を置く、十九年十一

月之を廢し部内全部舞鶴署の管轄に属す、次で二十二年志樂利字市場に志樂分署を置き倉梯村字濱、同村字北吸に各巡查駐在所を設けたるが三十七年五月再び分署を廢し倉梯村字濱に巡查部長派出所を設置せらる、更に四十年四月新舞鶴分署を設置せられ新舞鶴、餘部倉梯、養保呂、志樂、朝來、東大浦、西大浦の二町六ヶ村を管轄す、四十二年廳舎狹隘を告ぐるに至り養老通萬代橋畔に敷地五百坪、建物七棟建坪百七十餘坪の宏壯なる廳舎を新築し同年四月移轉す、次で四十三年三月新舞鶴警察署と改定せらる、現在定員警部一名、醫師一名、獸醫一名、警部補二名、巡查部長六名、巡查四十名なりとす。

○舞鶴區裁判所新舞鶴出張所 大門通市場盤頭に在り、二十六年十月初めて市場出張所を置かれ三十三年八月志樂村出張所と改稱、更に三十九年七月新舞鶴出張所と改稱せらる。現今の廳舎は三十三年七月の建築にして敷地百九十二坪、建坪四十一坪、管轄區域は新舞鶴、倉梯、養保呂、朝來、志樂、東大浦、西大浦の一町六村なりとす。

○新舞鶴娼妓検査所 龍宮遊廓内に在り、四十三年四月の創設にして龍宮遊廓を所管す敷地百四十坪、建坪六十七坪余、所長は新舞鶴警察署長之を兼ね、醫員二名、書記一名

看護婦二名、四十三年度入所患者數三百十三名、延人員五千八百八十五名にして一ケ年總經費三千八百三十圓なり。

○新舞鶴町役場 五條通敷島角に在りて卅四年十一月の建築に係る、始め倉材村役場なりしが三十九年七月新舞鶴町設置と共に村役場を字行永に移し、町役場に襲用せり、敷地三百六坪、建坪七十六坪を有す。

○新舞鶴第一尋常高等小學校 朝日通養老角に在り、三十五年十月一日創立、四十一年四月より義務教育年限延長の結果女子部を收容す、校舎敷地千八百坪、建坪六百六十五坪現在教員十六名、生徒五百六十余名なり。

○新舞鶴第二尋常高等小學校 朝日通溝尻に在り、二十五年十月の創立にして、始め新舞鶴町外四村の組合高等小學校なりしが四十年三月廢校、同年四月より新舞鶴第二尋常小學校と爲し更に四十一年四月より男子部を收容す、校舎敷地二千二百五十坪、建坪五百二十八坪、現在教員十七名生徒六百二十余名なり。

○新舞鶴實業補習學校 主として舞鶴海軍工廠見習職工及び一般實業家の徒弟に對し普

通教育及び工業技術教授を目的とし新舞鶴第二尋常高等小學校内にて夜學教授を爲す、
現在生徒約七十名にして成績頗る良好なり。

○舞鶴海軍下士卒家族共勵會 三十七年十月創立、海軍下士卒家族の風儀を矯正し産
業を授くるを以て目的とす、皇后陛下各皇族妃殿下の御下賜金及び一般の寄附金を以て資
金とし専ら海軍部内各官麻の諸裁縫品一切を請負ひ事業の維持發展を圖る。三十九年十月
現今の富士通八雲角に建物六棟坪數百二十五坪を新築移轉せるが今や狹隘を感ずるに至れ
り、會長は鎮守府長官夫人、以下幹事長幹事は海軍高等官夫人、評議員は海軍高等官を以
て之に充つ、四十三年度事業成績報告に依れば現在會員百五十名、毎日平均出業員數百十
三人一年間事業成績高金壹萬貳百參拾圓、會員純取得高金六千貳百九拾七圓、一人取得月
額年均四圓六拾壹錢にして技倆優秀の者は月額拾參圓以上の所得あり。

神社

○愛宕神社 宇北吸四面山上に在り、祭祀伊弉册命、火彦美命、元愛宕山上に鎮座せし
が海軍用地に收用せられ現今の地に遷座す、年曆不詳當村西村某の男、戌亥の古城跡に遊

歩したりしに俄に言語不通となりしが折柄松尾寺大門坊通り合せ之れを祈るに男言を發し
曰く我は杉山の守神なり其地を守るべしと因て社を營み之を祀る云々と加佐郡舊語集に見
えたり。

○満島神社 淨島に鎮座す、祭神譽田別尊、市杵島姬命、境内拾七坪、縁起曰「當社創
立年代不詳と雖も此の白糸濱は北海より渡船の要港にして妖賊侵入することあり依りて往
時宇佐大神専ら之を禳ひ除かむが爲に吹戸の御崎淨島の嶺に鎮座し玉ひ諸人之を八幡島滿
大神と尊稱す其神威赫々たる故に貞觀年中正二位を賜りてより上下の信仰大にかりたりき
(中畧)降りて應仁の亂世に衰微せしを慶長五年領主細川忠興社殿を再立し海上守護の神と
して公祭を行はせられたり、例祭日は放生會にして新穀奉進の神事あり亦た三月十五日海
上安全祭ありて兩祭今に連綿たり」云々。

○三宅神社 北吸東門裏通丘腹に在り、祭神、豊宇氣姬命、末社稻荷神社、元三宅谷(現
今海軍小銃射的場)に鎮座せしが海軍用地に收用せられ明治二十三年現在の地に遷座す、
大日本史に加佐郡十一社の内にして延喜式なることを録せり、縁起曰「創立年代不詳と雖

も往昔近郷崇敬の大社なりしに自然盛衰あり、村老の口碑に徴し遺説を存す、即ち接地に神子屋敷の字あり、字宮の平と云ふは貴官家の館跡とや傳へ古跡残り」云々。

○氷無月神社 八雲通海岸老松扶疎の間に在り、祭神月慈命、末社賞勝神社、金比羅神社、境内四百七十三坪、陰曆六月晦日を例祭とす。

○稻荷神社 大門通六條角に在り、祭神保食命、末社四、境内三百十坪、夏期氷店出で納涼者雑踏す。

○蛭子神社 七條通八島南入に在り、祭神事代尊、境内九十九坪、老樹鬱蒼たり、俗説に古昔草賊の爲めに神像を若狭路へ持ち行かれ叢中へ抛棄せるが神像號泣せるより行人に發見せられ復歸すと故に丹後の泣蛭子の稱あり。

○八幡神社 市場小字宮の谷の丘腹に在り、祭神譽田別尊、相殿市姫大神、縁起曰「本社元市姫大神と稱す、中世以降八幡大神を合祭す、然るに里俗市姫大神の社號を唱へず自然八幡神社と表するに至る」云々、境内三百十三坪、樹木鬱蒼たり。

○貴布禰神社 溝尻の山麓に在り、祭神貴船明神、境内千百二十七坪、幽邃靜寂を極む

加佐郡舊語集に曰「元來正一位の宮なりしが或時百姓京へ上り貴船の神を勸請申歸り村に祠を建たり後に村中尊敬し正月には家々に松にて嶋の形を作り藁にて鬼を拵へ祝ふなり、鎮西八郎爲朝島へ渡り鬼を退治して其後平安なりし因縁を云傳ふ」云々。

○乙姫神社 (龍宮新地海岸)

○最上稻荷神社 (千歳通千歳橋畔)

○北斗神社 (溝尻小字宮ヶ谷)

其他近郷の有名なる神社

○彌伽宜神社 新舞鶴停車場より南に距る數町、倉梯村字森に在り、延喜式内の古社にして祭神は天御影命又の御名天目一箇神なり、又正一位大森大明神と尊稱す、丹後風土記

に「彌伽宜社者往昔丹波道主命之祭給所也」とあり、縁起を見るに人皇十代崇神天皇の御宇四道將軍道主王土賊を誅戮し國內を平定し國家鎮護の神として天御影之命を祭社せられたり爾來歷朝の御崇敬淺からず丹波彦多々須道之宇斯王親祭せらる、降て田邊城主細川幽齋公崇敬厚く社殿を造營す現今馬場に在る大鳥居は公の寄進建立する處なりと、加佐郡舊語

集に「幽齋公の時迄は社領百石有り小野木縫之助兵亂の頃破却云々とあり、現今の社殿は延享四年の再建なり、例祭七月十四日、境内二千五百餘坪、老樹鬱鬱として晝尙暗く藤花の候には紫雲駿驤美觀を極む、社側に湧泉あり丹後風土記に「社中有靈水世、號杜清水」とある即ち之なり、水清冽にして大旱と雖も涸渴せず、夏時境内に納涼臺を設け頗る殷賑を呈す。

○一の宮大明神 新舞鶴より東へ距る一里志樂村字小倉にあり、祭神豐受皇命、陰曆八月十五日例祭、加佐郡舊語集に曰「抑正一位一の宮大明神は人皇四十代天武天皇御在位の時白鳳十辛己九月三日丹後國加佐郡春日部村柳原に鎮座す御神躰豐受皇阿良須神社と申奉る所の人々御社を建立して奉貴則春日部の氏神と定奉る同十一年に大友皇子御謀叛にて奈良の内裏を追下し天子は矢疵を受給ひ越前國阿須波の里に忍び玉ふ高市の皇子は當國へ下り給ひて柳原の社へ御幸成て久しく社内を御覽有之一首の御歌を詠給ふ

曇る世に柳の原をなかむれば神の恵みやはるゝ朝霧
又東の方へ向ひ給ひて

風きぬる青葉の山の烟りたへ行先遠き雲の上かな

右御歌御染筆にて御奉納有則當社御寶物と成る其後人皇五十代桓武天皇の御時延曆二十四年正一位の位に進奉る(中畧)其後天正の頃迄當社繁榮なり慶長の頃丹波福知山の城主小野木縫之助悪心に依て當社不殘寶物焼失す依之一の宮大明神の御神躰は小倉村宮山天皇の社内へ奉遷柴の社と成給ふを此宮山天皇と申は則一宮の末社なり明曆年中氏子寄集御社再立奉る今の御社は也」云々。

○岩室稻荷神社 新舞鶴より東へ距る約二里、志樂村字吉阪に在り、山麓より本社まで數丁の間殆ど空隙なく鳥居を並立し恰も鳥居の隧道の如く亦一奇觀たり、社側に岩窟あり奇岩怪石縱横錯列す、縁起を見るに當社山を明室山、社を元五藏社と稱す、往昔天火明命、大國主命の命を奉じて當國を平定し明室山を下して神籬を樹て岩藏を作り田勞王をして之を守らしめ給ふ舊記に曰「岩藏安神器壹藏安美保伎玉貳藏安御神幣參藏安久斯器肆藏安御祈鈴伍藏安療病金圍故謂伍藏今社名爲五藏社之緣也」と今の岩窟之なり降て享保年間より此岩窟に夫婦の白狐住みけるを山主森本太郎太夫深く憐み食物を與へけるに白狐朔且

家に來て吉凶を告ぐ夫より代々太郎太夫に馴れ靈驗愈々顯著なるより岩窟三太夫稻荷と尊稱して時人の崇敬厚し享保二十一年太郎太夫京の稻荷を勸請して社殿を復興せり云々、例祭陰曆二月初午、同六月六日は遠近の賽者頗る雜沓す。

○神道

出雲大社教舞鶴教會所(北吸葛城通)

黒住教新舞鶴教會所(五條通敷島南入)

天理教山陰分會山海宣教所(市場)

○基督教

日本基督教會新舞鶴傳道教會(八島通四條東)

日本聖公會新舞鶴講義所(八島通三條東)

寺院

○得月院

八島通四面山麓に在り、臨濟宗天龍寺派にして波照山と號す、本尊文殊大菩薩、年曆不詳葵室和尚の開基にして屢々焼失し慶長元年西石見守再建す、境内四百六坪、寺寶には惠心僧都筆剛彌陀畫像、筆者不詳十六善神畫像を藏す。

○清光院

溝尻小字一の谷に在り、臨濟宗天龍寺派にして慶長元年十月権庭和尚の創建なり、本尊釋迦牟尼佛、佛堂の子安地藏尊は惠心僧都作と傳ふ、境内二百二十一坪を有す。

○鏡智院

北吸巖頭岡麓に在り、眞言宗醍醐派にして鎮守山と號し弘法大師作波切不動尊を本尊とす。松尾寺末にして青葉山内に在りしを二十六年十月現今の地に移轉す。

○本派本願寺出張所(四條通大門北入)

○大谷派本願寺説教場(九條通敷島南)

○日宗會堂(秋津洲通敷島)

○眞宗高田派清福寺出張所(一條通大門北入)

○曹洞宗光明寺教會出張所(八條通八島南入)

其他近郷の有名なる寺院

○金剛院

新舞鶴より東へ距る約一里半、志樂村字鹿原に在り、眞言宗東寺派にして鹿原山と號し又慈恩寺の稱あり、縁起に據れば平城天皇の皇子眞如法親王の草創にして淳和天皇天長六年勅して殿堂を建立し大伽藍となす天安二年文德天皇太田五百餘町勅賜あり白

河天皇永保二年殿堂の頽廢せるを修理し且つ三重の靈塔を建立せらる近衛天皇久安二年勅願所として平忠盛を造營奉行として本堂を再建せしめらる聖母美福門院は彌陀の大像を刻し安置せしむ、其他歴代朝廷の崇敬厚く山林保護の勅宣を下せしこと數次あり應仁以降に至りては代々の領主耕地を寄進し伽藍を修理し或は山林を保護せし等の事迹枚舉に遑あらずと、境地翠巒相迫る溪澗に在りて幽邃靜寂遠く塵寰を隔つ、而して本堂、鎮守堂、辨才天堂、鐘樓等の殿堂は懸崖に倚りて建てられ三重塔は鬱鬱たる樹間に巍然として聳わ一奇勝たるを失はず、寶物には傳唐輝筆藥師十二神像、作者不詳阿彌陀佛木像、安阿彌作深沙大王及執金剛神木像は國寶に編入せられ傳鳥羽僧正筆不動明王像、傳弘法大師筆普賢菩薩像、同愛染明王像は美術參考品として鑑査狀を下附せられしものなるが其他眞如法親王御所持鬼形面、同黃金五種鈴、同五色佛舍利、勅使統、光嚴院制札、鳥羽院勅額、藤高公忠與公自筆制札等を重なるものとす。

○多禰寺 新舞鶴と舞鶴灣を隔て、相對する西大浦村字多禰寺にあり、眞言宗東寺派にして醫王山と號し又西藏院と稱す、用明天皇即位二年皇子麻呂子又名金麻呂の草創なり、

麻呂子勅命を奉じて當國の鬼賊を退治するに當り佛陀神明の威力を借り目的を遂ぐべしと先づ宮中にて七佛藥師の法を修せらる、其第七藥師瑠璃光如來を設樂莊多禰寺に置くと田邊府志に見ゆ、本尊護身佛及日光月光は定朝作なり、延曆年中寄生上人頽廢を復舊す以て中興開山とす。

○龍勝寺 新舞鶴を南へ隔る數町倉梯村字行永に在り、臨濟宗東福寺末にして瑞雲山と號す、加佐郡舊語集に當時の寺は曾氏公御代嵯峨の天龍寺出來の節國主御茶屋後に寺と成古傳聞云々とあり、境内地尊堂小野篁作と傳ふ。

名勝舊蹟

○枯木浦 新舞鶴海濱一帯の舊稱なり、丹後風土記に「枯木浦者往昔少彦名大神大己貴大神斯二柱神當于國造坐之時欲令海路順次所在之諸島集合之便登于笠松山○○○限息號呼以曰彼々來々則四嶼自來列故曰彼來也」云々と見ゆ、笠松山は志樂村字泉源寺に在り。

○浮島 出雲通海岸にある青螺の如き小山を云ふ、往昔は海中の孤島にして潮の干満に隨ひ浮沈せるを以て浮島の稱出でたり、古木鬱鬱全山を掩ひ綠波激澗島脚を洗ひ樹色水光

掩映し風光幽雅一幅の小品畫を見る如し

○古城址 加佐郡舊語集に「濱村古城 三島外記、櫻井太吉、森村古城、高橋左京一行永村古城、黒川丹波」と記せるを見るも所在明らかならず各字隨所に古城址と傳ふものあり時々刀片古鐵を發掘することあり。

○海水浴 新舞鶴五條通以東一帯の海江、遠淺にして水清く波靜かにして最も遊浴に適す、盛夏午時頗る雜踏し水上警察特に端舟を派し萬一を警戒す。

○桃山 新舞鶴驛より西へ約三丁、倉梯村字森の小丘一帯に桃樹を栽ゆ、陽春滿開の時緋紅燃ゆるが如く美觀云はん方なし、丘上諸所に掛茶屋を造り遊山者頗る多し。

○四面山忠魂碑 四面山は北吸濱の兩字に跨る、山上に達する八島通と秋津洲通の三途あり、山頂稍平坦、俯瞰すれば市街の鱗薺、港灣の綠波を一時に收め眺望甚だ絶佳なり、頂上に花崗石造の忠魂碑巍然として聳ゆ、題字は東郷大將の揮毫に係り、碑の高き臺石共二十七尺、四十二年五月新舞鶴奉公婦人會の幹旋盡力により有志者の勸金を得て工費幾千圓を費し建設せる處加佐郡東部の戦死者英靈を祀る。碑側櫻楓樹數百株を栽ゆ、春秋の候亦見るべし。

○第二十一艇隊紀功碑 千歳通千歳橋畔に在り、日靈戰役に從事し掃海の際水雷に觸れ沈没し又は夜襲の際敵彈を蒙りて戦死を遂げたる當軍港所屬第二十一艇隊司令江副中佐以下隊員十六名の偉勳を後昆に傳へん爲め明治四十年五月同僚等相謀りて建設す、碑の總高さ一丈五尺、第二十一艇隊日露戰役紀功碑の題額は東郷大將の書にして碑文は片岡中將の撰なり、碑前に樹を栽り亭を設け幽趣掬すべし。

遊樂

○劇場寄席 劇場としては八島通八條角に新舞鶴座あり建坪百八十坪、定員七百五十人を容れ建築宏壯なりしが四十四年四月場内より火を失して烏有に歸し目下再築計畫中なり又八島通六條角に稻荷座あり、三十五年六月開場爾來引續き使用中設備不完全の故を以て一旦許可取消となり久しく休場し居たるを這般改築再び開場せり、敷地三百四十坪、建坪百五十五坪、定員五百四十人なりとす。寄席としては三條通大門北に群鶴座あり、四十年六月の開業にして建坪五十三坪、定員三百三十人を容る設備整美す。

○遊戯場 時季に依りて増減あるも現在玉突き、大弓五、空氣銃射的七、借馬一あり。
 ○料理店 現在料理店七、飲食店四十五にして其種類階級雑多なるが高尚なる料理店は概ね高等旅館にて兼業し多数の宴會又は低吟淺酌の閑遊にも適し土地不案内の旅客には一面甚た便宜なり。

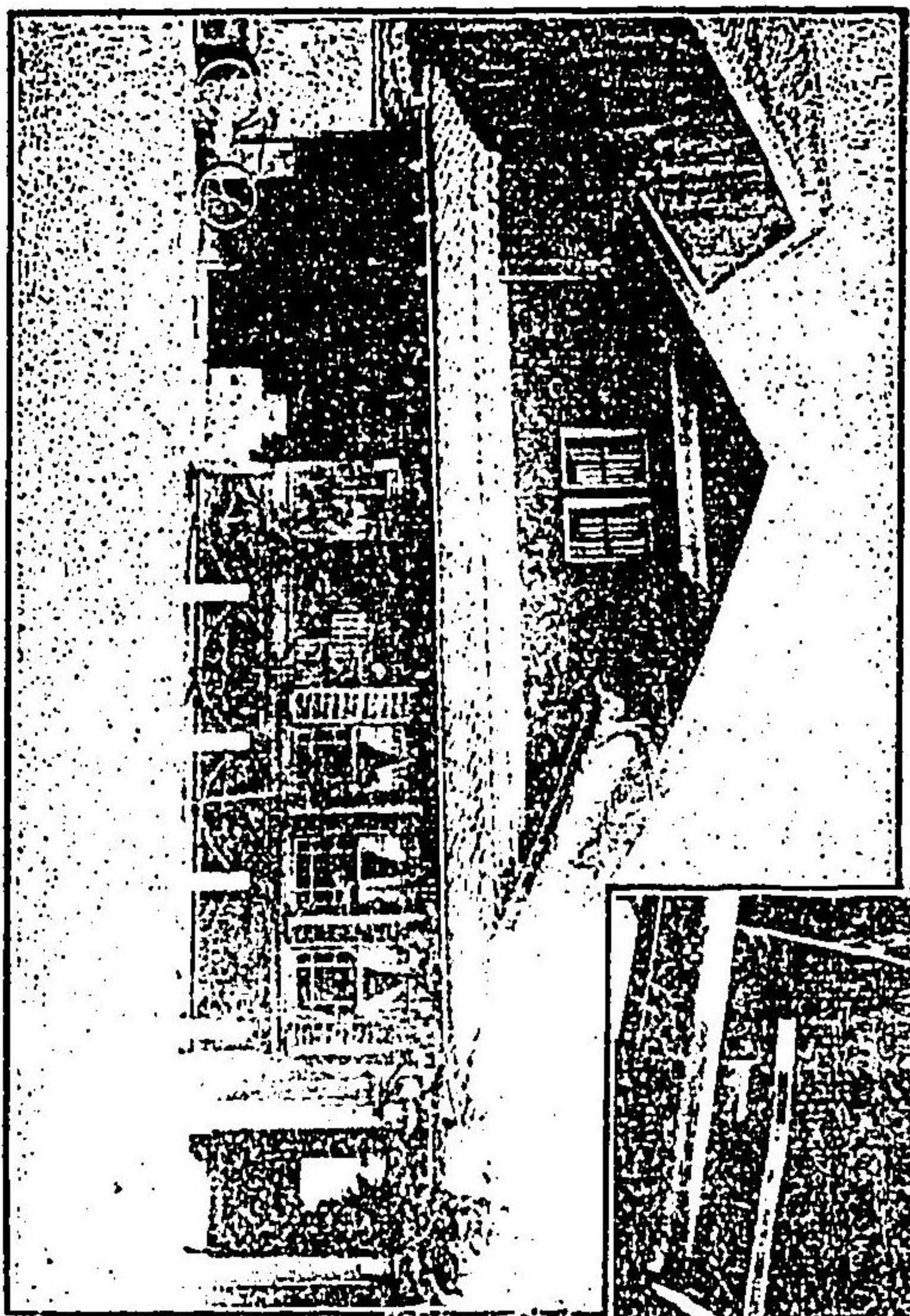
○遊廓 大門通市場を北へ龍宮橋を渡り山を負ひ海に枕める一廓を龍宮新地とす、明治三十四年四月初めて指定地となり山崖を削り芦田を埋め同年十二月貸座敷七戸開業せるを濫觴とす、爾來發展して現在貸座敷三十五戸を數へ、藝妓五十名、娼妓百五十名を有し、絃歌嬌聲晝夜陶々として別天地の觀あり、例月軍人職工の給料支給後數日間は最も殷賑を極む、廓西盡頭に一小祠あり俗に龍宮祠と稱す、龍宮新地の名之に出づ。

舞鶴軍港餘部案内記

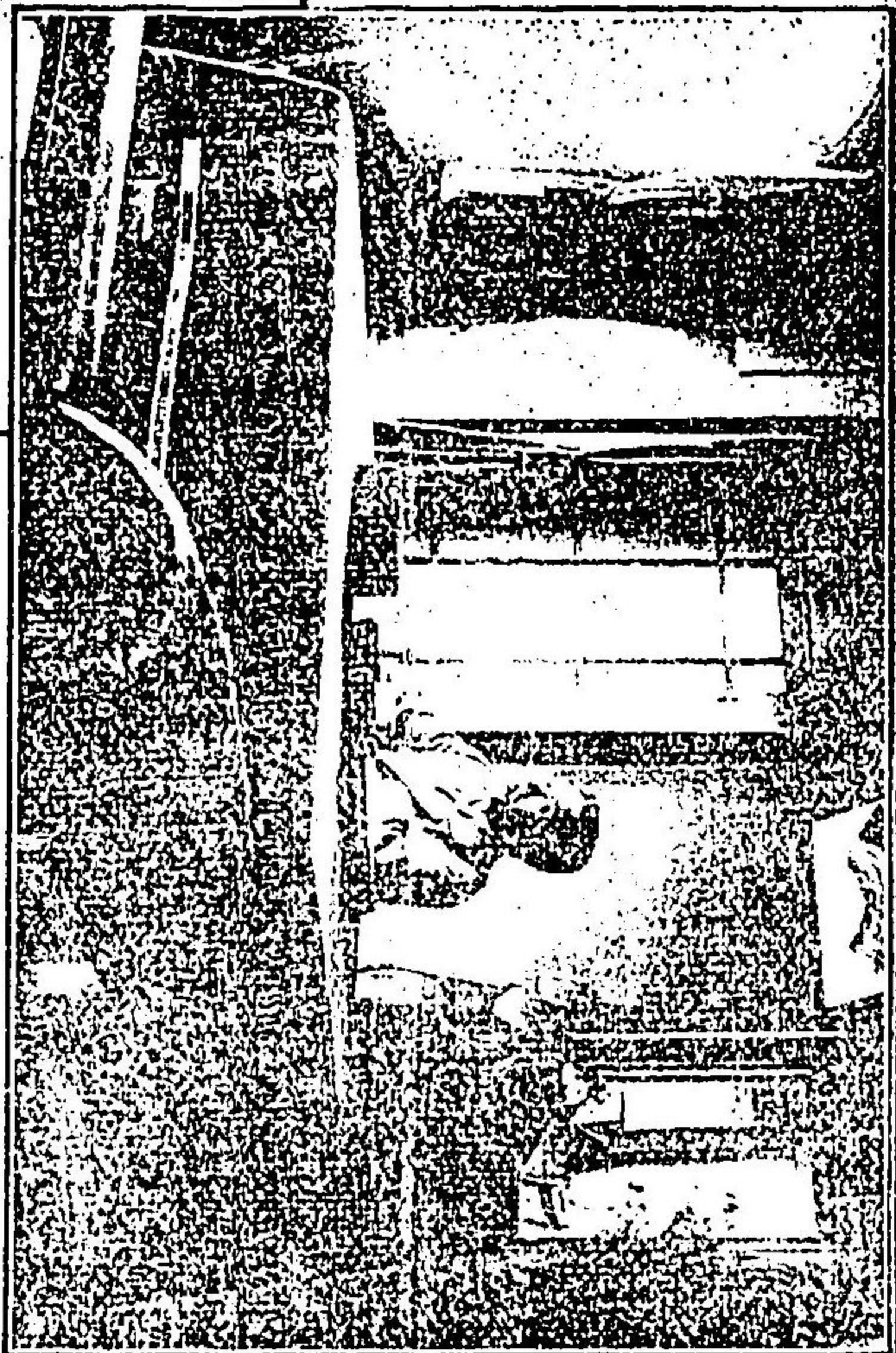
▲餘部町は新舞鶴町と相俟ちて舞鶴軍港の東西鑰鍵なり軍港觀覽の士人は必ず兩町の關係及び現況を知らざるべからず
 ▲新舞鶴案内記と同一者の編纂に係り餘部町の沿革及び現況を詳述して餘濫なし三舞鶴町各書店繪ハガキ店に販賣せり

四六版數十頁地圖
 及寫真版數十面挿
 入定價一部拾五錢

新舞鶴大門通 神谷商店 電話參詳



神谷商店



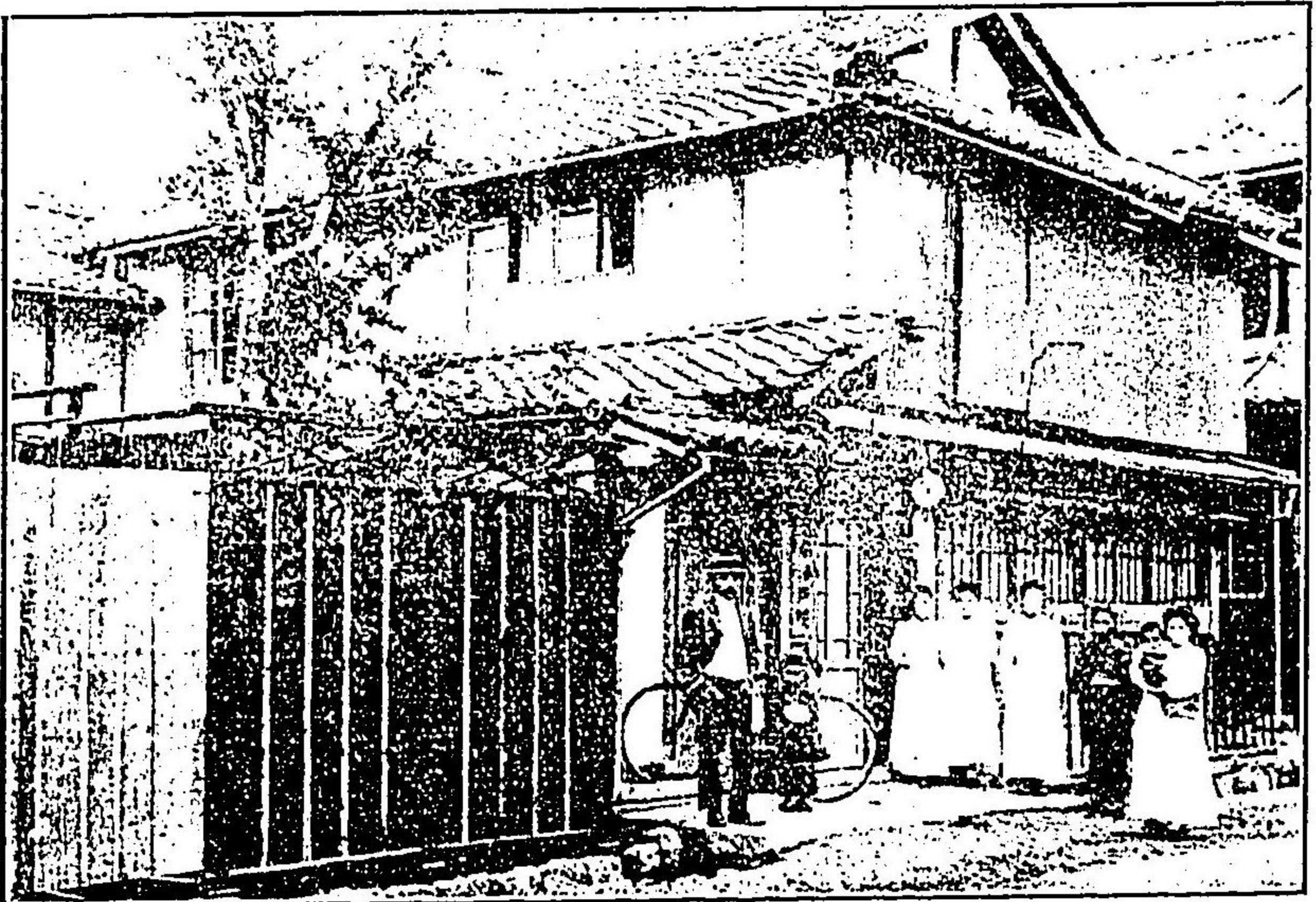
電話參詳

婦人病專門

私立山添病院

醫學士山添喜代藏

新舞鶴電話一〇六番

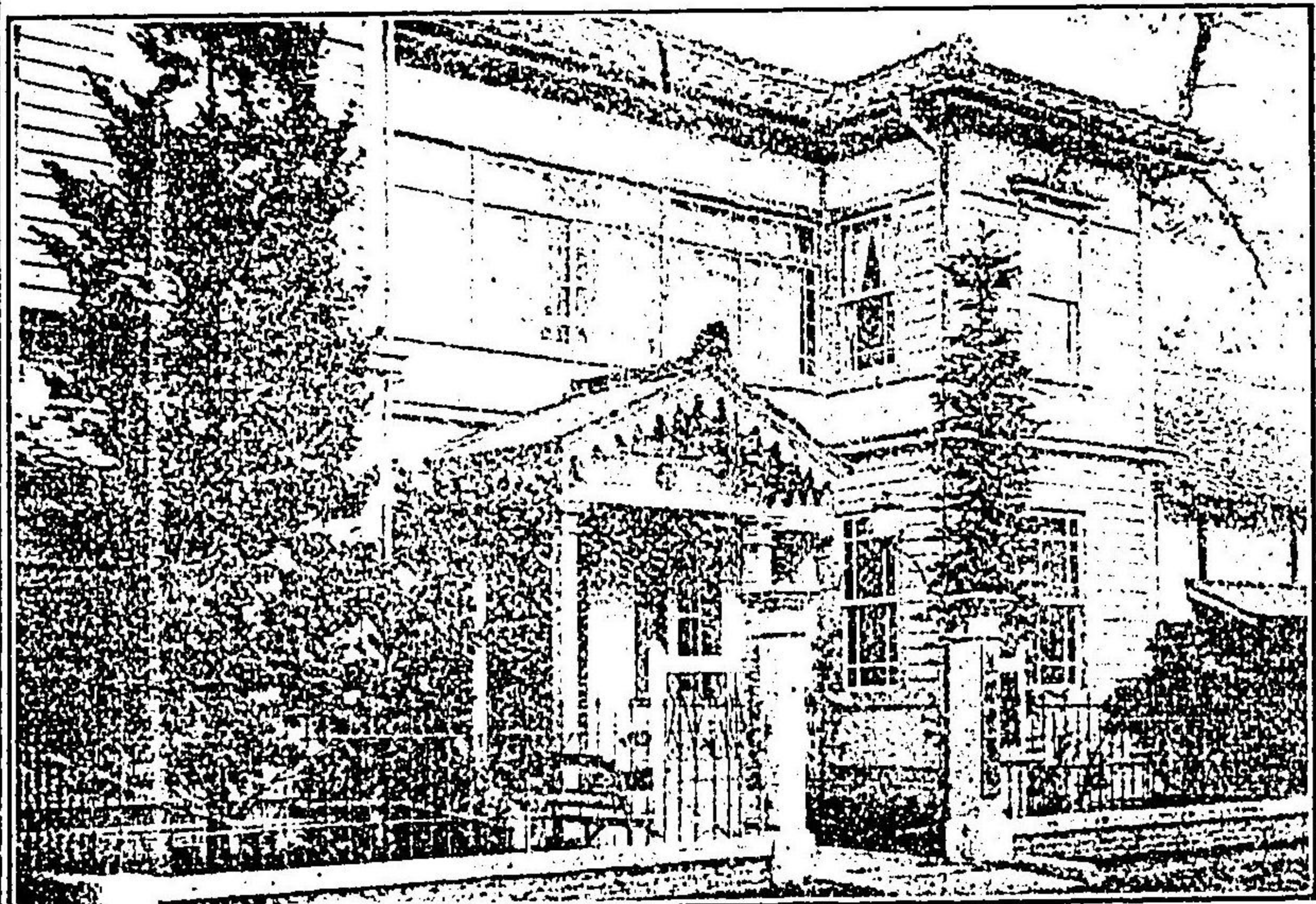


外科
婦人科
產科

新舞鶴五條通

西牟田常一

電話一一六番



廿世紀醫藥的効藥劑

信丹 必通丸 胃効丸 寶血湯 小西治腸丸 護心丸

發賣元

馬場藥店

電話十二番

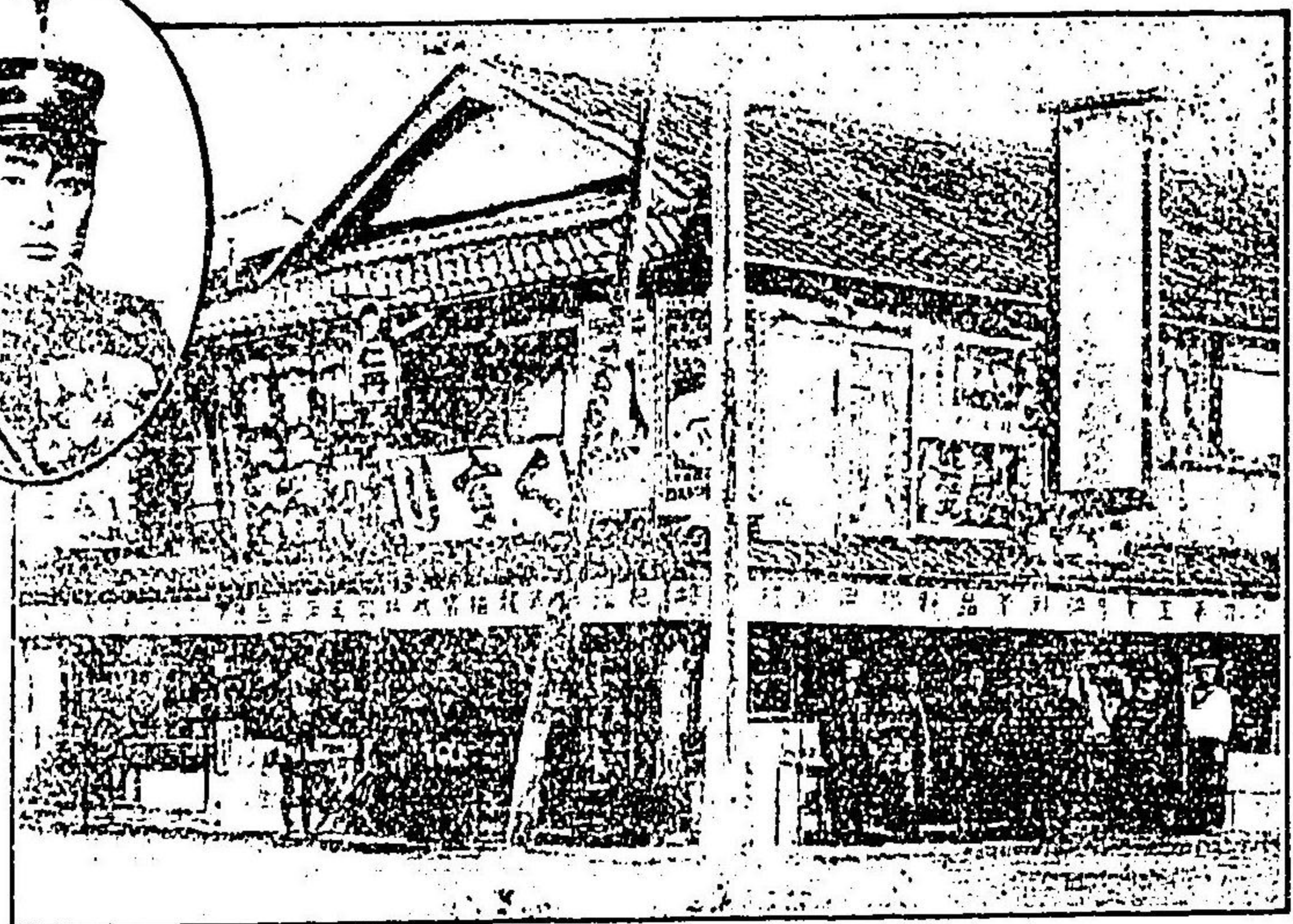
新舞鶴大門通七條角
藥種商

營業品目

各國諸大家有名賣藥
和漢洋並化學用藥品
工業用藥品
染料繪具
寫真用藥品並附屬品
高等化粧品各種



店主勳六等馬場伊三郎



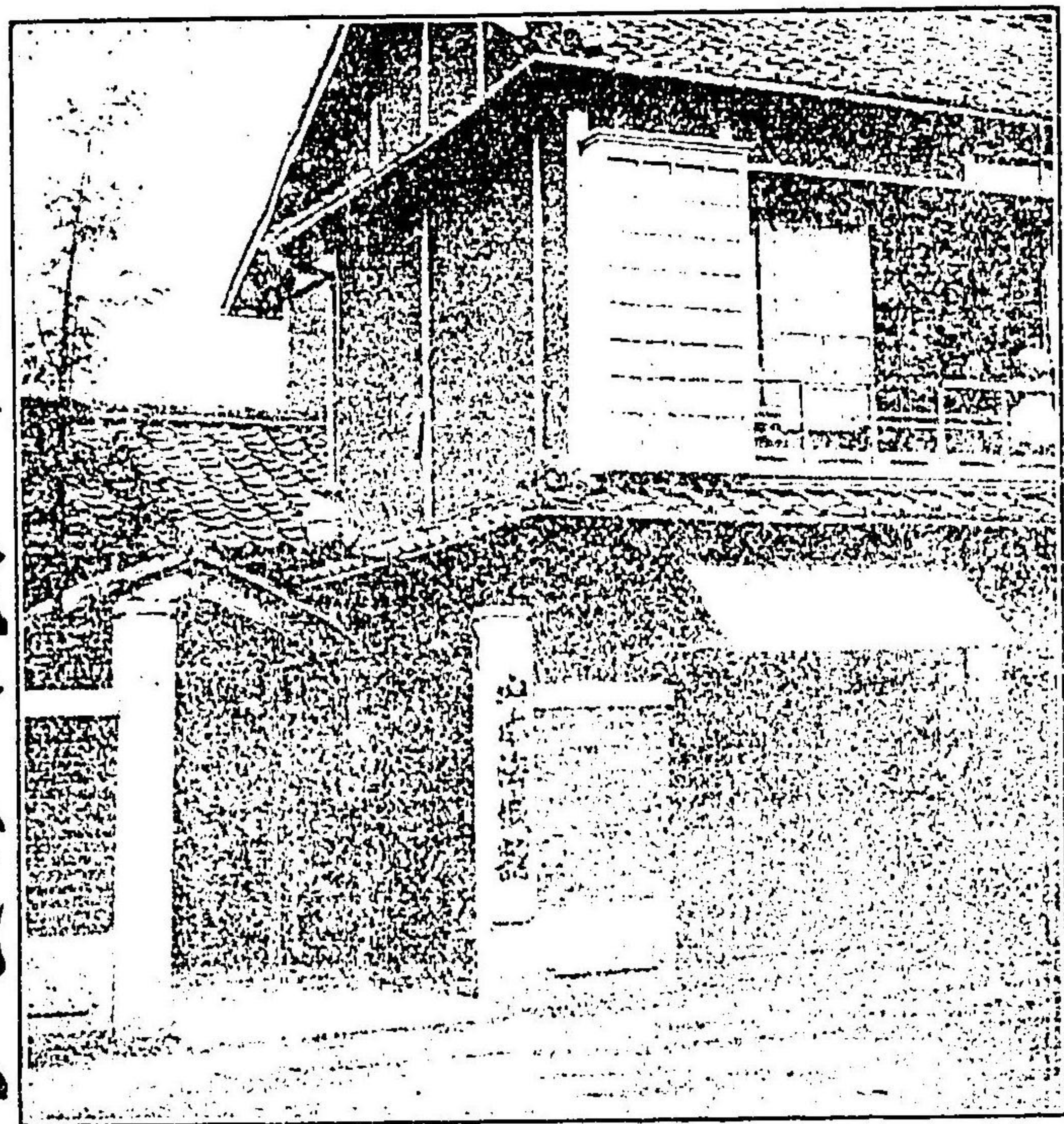
五

寫真



新舞鶴
七條通

山本海城館



四

海陸軍御用達

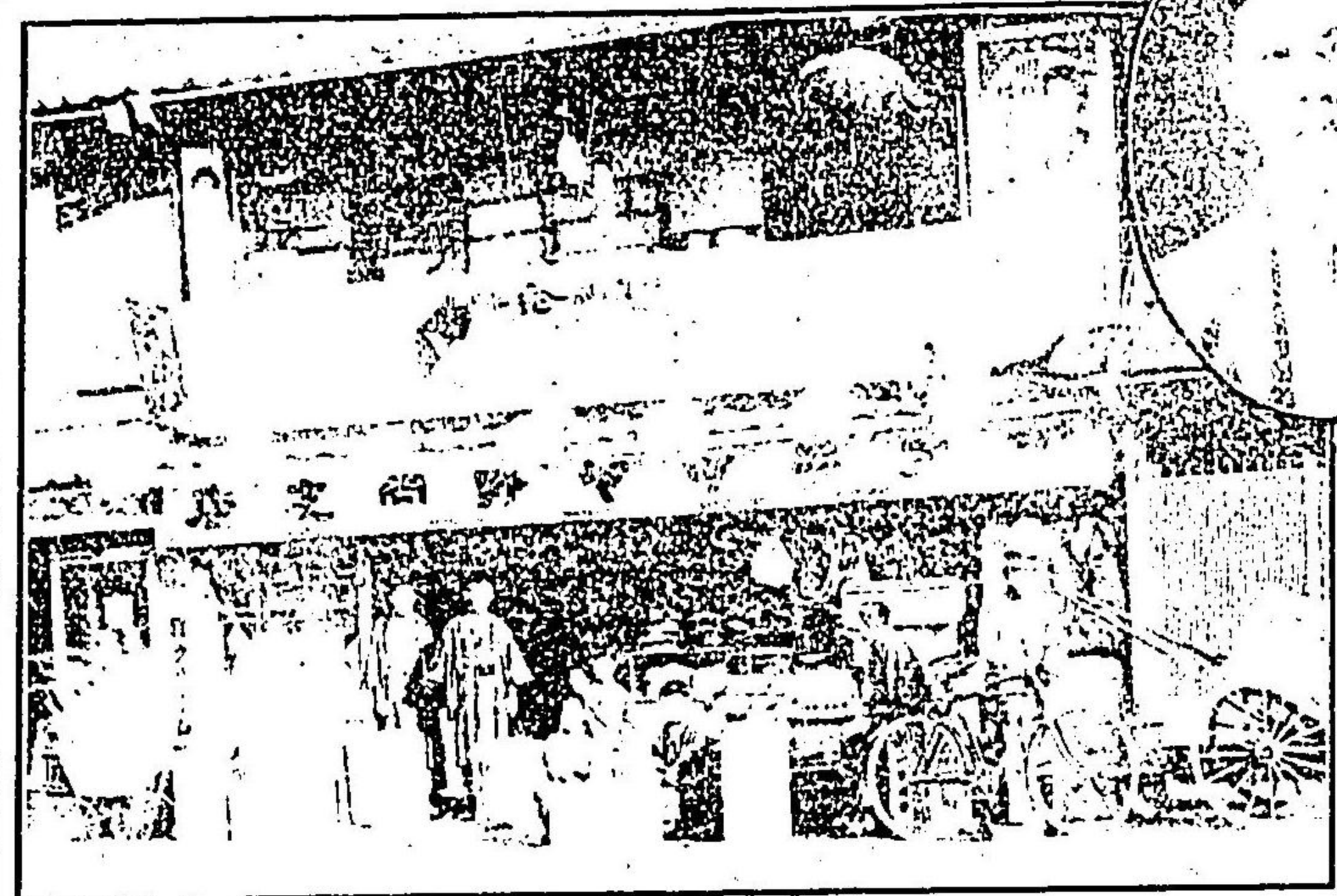
和洋雜貨 婦人小間物
 文房具 眼鏡類
 石鹼化粧品 卸小賣

新舞鶴町
 元ガンジツヤ

野間支店

電話 六五番

振替東京八七四九番
 口座大阪五六〇四番



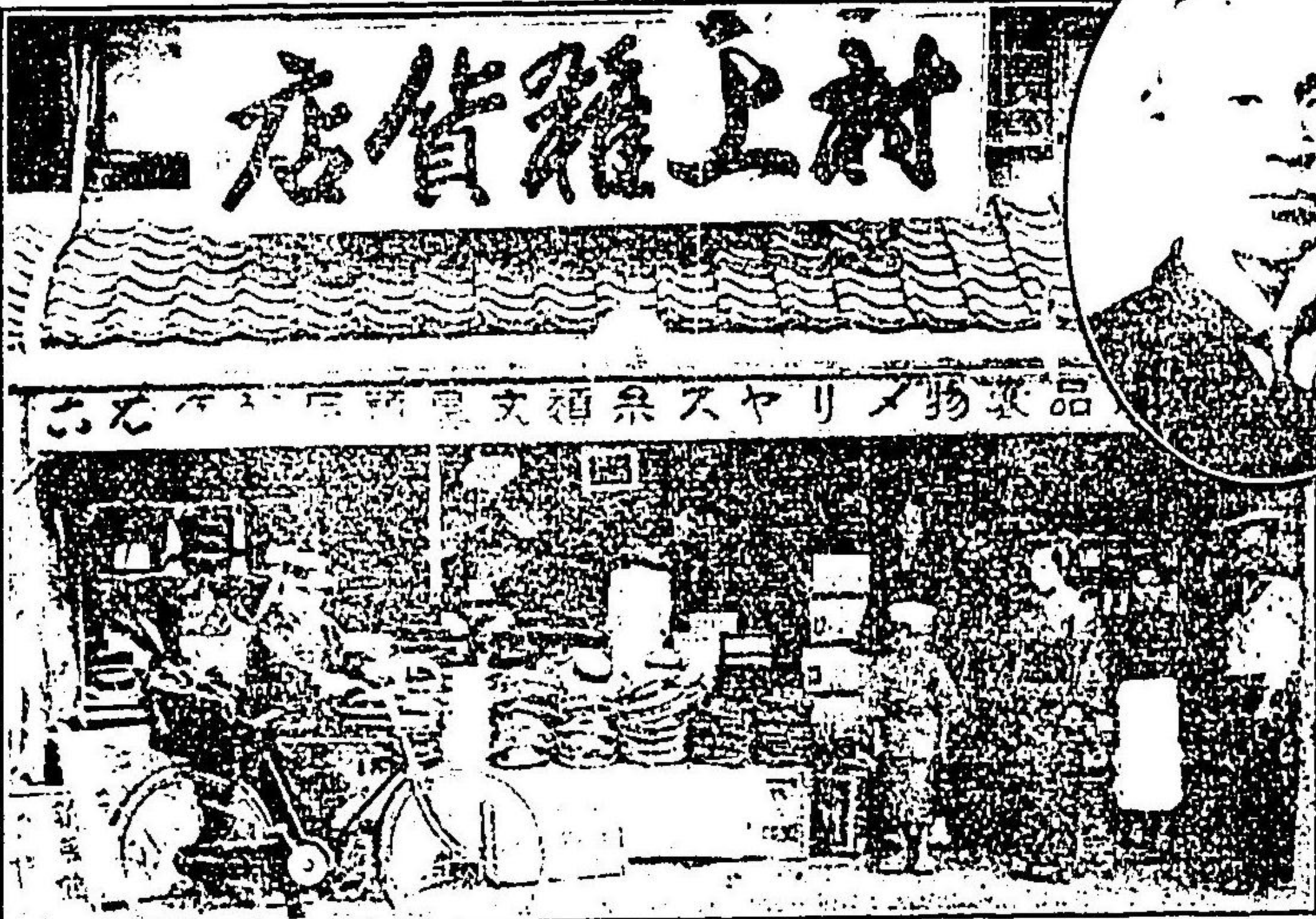
六

海軍御用達
 村上商店

勳章從軍紀章取次販賣
 並ニ軍人軍屬用品一式

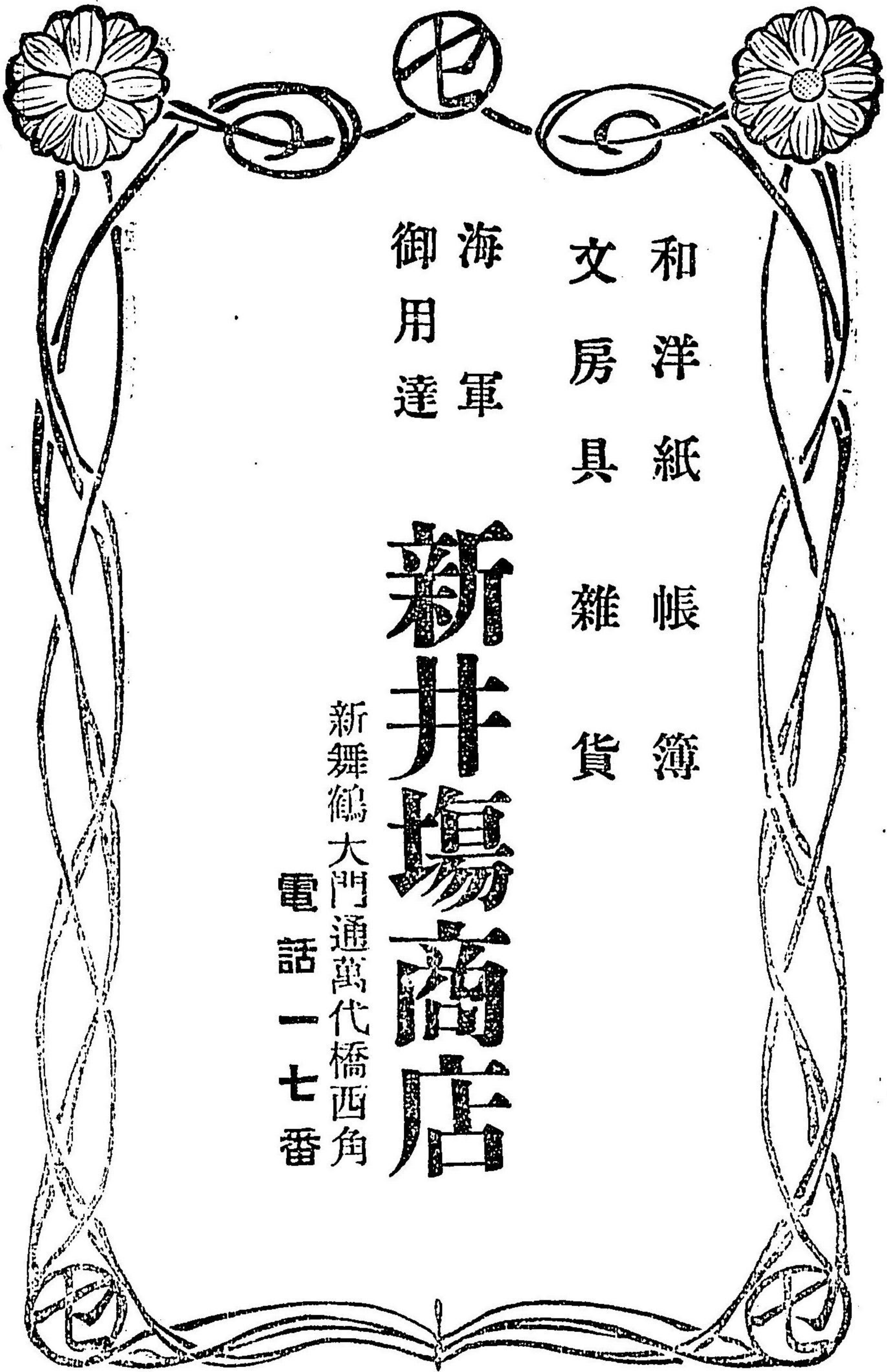
新舞鶴大門通三條東

和洋雜貨 婦人小間物
 文具類 石鹼化粧品
 東京足袋 縫糸組糸
 眼鏡類 板ガラス
 卸小賣



店主村上兵助

七



和洋紙帳簿
文房具雜貨

海軍御用達

新井場商店

新舞鶴大門通萬代橋西角

電話一七番

松尾寺參詣案内

西國靈場第二十九番の札所として著名なる松尾寺は若丹の國境に聳つ青葉山の半腹、當郡志樂村字松尾に在り、眞言宗醍醐派に屬し青葉山と號し又遍明院と稱す、本朝に於ける馬頭觀音の總本地にして開基以來千二百有餘年法燈赫耀たる近國最古の巨刹にして境域宏大十二町餘に亘り山内寂々古木森々遙に人寰を隔たる靈蹤たり、以下項を別ちて概況を記し參詣者の便に資せむ。

▲**道程** 新舞鶴より東へ一里三十町吉阪驛まで北國街道の坦路砥の如く人力車(賃金二十四錢)馬車(賃金拾六錢)の便を給れば約一時間にして達す、吉阪驛より分岐し明治二十四年新たに開鑿したる郡道約十八町にして山門に到る、其間山麓志樂川に架する滅罪橋まで約五町車馬を通ず、夫れより阪路稍急峻なるも下駄掛にて登陟容易なりとす。

▲**開基** 慶雲年間道公威光上人當山に登臨し千歳の松に閻浮檀金の馬頭觀世音を感得せられ和銅五年元明帝の勅を奉じ伽藍を創建す山號寺名共に松の瑞縁に基くと云ふ。

▲奥の院 青葉山は古に北海の鎮山と號し又は扶桑馬耳山と稱す、役の行者神變菩薩修道練行の舊跡にして養老年中越智山泰澄大師元正聖武兩朝の勅を奉じて山頂に勅願壇場を開き妙理權現を鎮座せる處とす

▲西國靈場 神龜年中聖武帝初瀬徳道上人をして觀音靈地三十三ヶ所を選置せしめらる即ち當山も其一に加はれり

▲御詠歌 永延年間花山院入覺法皇西國靈場御巡拜の際當初感得縁起の意を御製ありしものなり

そのかみは幾世經ぬらんたよりをば千歳もこゝにまつのをのてら

▲本尊 正暦五年北麓の漁夫春日爲光なる者海上に於て觀音神道力の冥助を受け發心剃髮して入道光心と稱す、此事一條帝の叡聞に達し勅して馬頭觀音の大像を彫刻せしめらる今の本尊之れなり

▲中興 元永二年鳥羽法皇美福門院の御崇敬に依り當寺智徳惟尊大僧正に詔して堂塔伽藍及び六十五宇の坊舎を再築し封戸田地四千石を附し法門を興隆せしめらる、實に當山の

中興と稱す(落慶式古圖寫眞掲出)

▲衰頽 元龜天正年間兵亂に際して伽藍坊舎火災に罹り或は寺領を失し一山甚だ衰頽を極む、廢趾一々地名に存じ形狀今尙歴々たり

▲靈塔 山内東隅に塔跡といふを存す、五重塔にして鳥羽法皇御建築以來約五百年間維持し伽藍唯一の宏麗たりしが天徳六年丙申三月三日回祿の災に罹りしと口碑に傳ふ處なり

▲本堂 天正九年丹後國主細川幽齋の改築にして慶長七年京極丹後守高知、次で享保十五年牧野河内守英成大修繕を加ふる處とす、禮堂作りにして結構莊嚴なり

▲附屬建物 本堂の右側登仙橋と稱する廊下を渡れば大師堂に出づ、堂後に六所權現堂及千体地藏あり、本堂前の廣庭には鐘樓、寶篋印塔、地藏尊等あり、左側に經藏、通夜堂庚申堂あり、數十級の石磴を降れば右に勅使門を見て仁王門に出づ、右折して放生池を周れば庫裡、方丈及び寶藏等あり、方丈は目下改築中にして結構宏壯輪奐たり

▲佛像 本堂左脇の地藏尊は小野篁作、右脇の阿彌陀佛は惠心僧都作にして俱に古來靈驗多し、又弘法大師大像は覺法親王作、山門左右の仁王大像は雲慶、湛慶の名作なりとす

▲寶物 國寶に列せられしものには後陽成天皇宸翰御内書(寫真掲出)後水尾天皇宸翰御歌色紙、後櫻町天皇宸翰御歌色紙、傳弘法大師筆孔雀明王畫像、筆者不明普賢延命像あり鑑査狀を下附せられしものには史料參考として松尾寺伽藍古圖元永二年落慶式摸寫大幅、



松尾寺縁起書徳治三年記紙本壹卷、傳尊圓親王書佛語句、美術參考として傳吳道子筆彌陀三尊(寫真掲出)傳金岡筆愛染明王像、傳菅公筆弘法大師像、傳宅磨筆法華曼陀羅、一山贊如意輪觀音畫像、傳金岡筆不動明王像(以上絹本着色)あり、其他泰澄大師所持大錫杖、水瓶、役行者神變菩薩自作木像を始め弘法大師筆五大尊畫、兆殿司筆般若十六善神畫、道元禪師筆瀧見觀音、探幽筆瀧見觀音、金岡筆四社明神、智海畫海筆不動尊弘法大師筆經卷小野篁筆經卷、豐公下知文、林道春畫讀、遠州澤庵鐵牛一休等の筆跡、細川家牧野家各寄附香爐茶碗袈裟等の如き奇世の逸品たるべく尙書畫、佛像、經卷、器物の類山の如し

▲會式 毎年二月初午會式、四月八日舞儀音樂會式、七月十日四萬八千日會式、春秋彼岸會式を各施行し毎月十八日を縁日とす、就中四月八日の會式は古昔本尊出現の狀を傳ふと稱し一稱古雅なる音樂舞儀の法式を行ふ、俗に之を佛の舞と云ひ近國無比の盛儀にして當日は流車賃金の割引あり遠近の參詣者魚鱗雜沓名狀すべからず

▲青葉山 若丹兩州に跨り安山岩より成れる死火山にして孤峯峭峻山姿甚だ秀麗なり、丹後風土記に曰「若葉山者一山而有東西二峯一名神在焉共號青葉神其東而所祭神者若狹彦神若狹姫神二座也其西向所祭神笠津彦神笠津姫二座也是若狹國與丹後國之分堺而其笠津形神笠津姫神者丹波國造海都直等祖也于時二峯同生松栢至于秋不變色(以下一行虫食)云々、山勢雙尖の狀馬頭に以て支那の馬耳山と風貌を同ふするを以て扶桑馬耳山の稱あり、松尾寺より山頂まで凡二十町、雲路險峻數次巖角を躋攀し、登臨すれば遠く伯耆の大山、越中の立山と相對し若但の諸山近く指呼の間に逼り、北方は渺茫たる日本海水

天一色の間に終る、眺鷹雄大羽化登仙の感あらしむ、古來此山の詩歌頗る多く左に有名なもの二三を抄出す

四十

常盤なる青葉の山も秋來れば色かはりぬるものにそありける 千歳集

秋ふかみ青葉の山も紅葉せり名をば時雨も染めじとおもふに 藤原俊成

しのひかねもらす初音が若みどりそはる青葉の山ほとよぎす 加茂季鷹

富士なくは富士とやいはん若狭なる青葉の山の雪のあけほの 日蓮上人

紅葉する秋のけしきをよそにして青葉山てふ名をや見すらん 讀人不知

望青葉山 黄檗隱元

天聚秀靈置北丹。隻峯高聳彩雲端。松如長鬣岳如脊。個是扶桑馬耳山。

登青葉山 愚庵道人

岩肩高處弄晴烟。遠海遙峯望渺然。無盡風光天地畫。畫中人欲伴神仙。

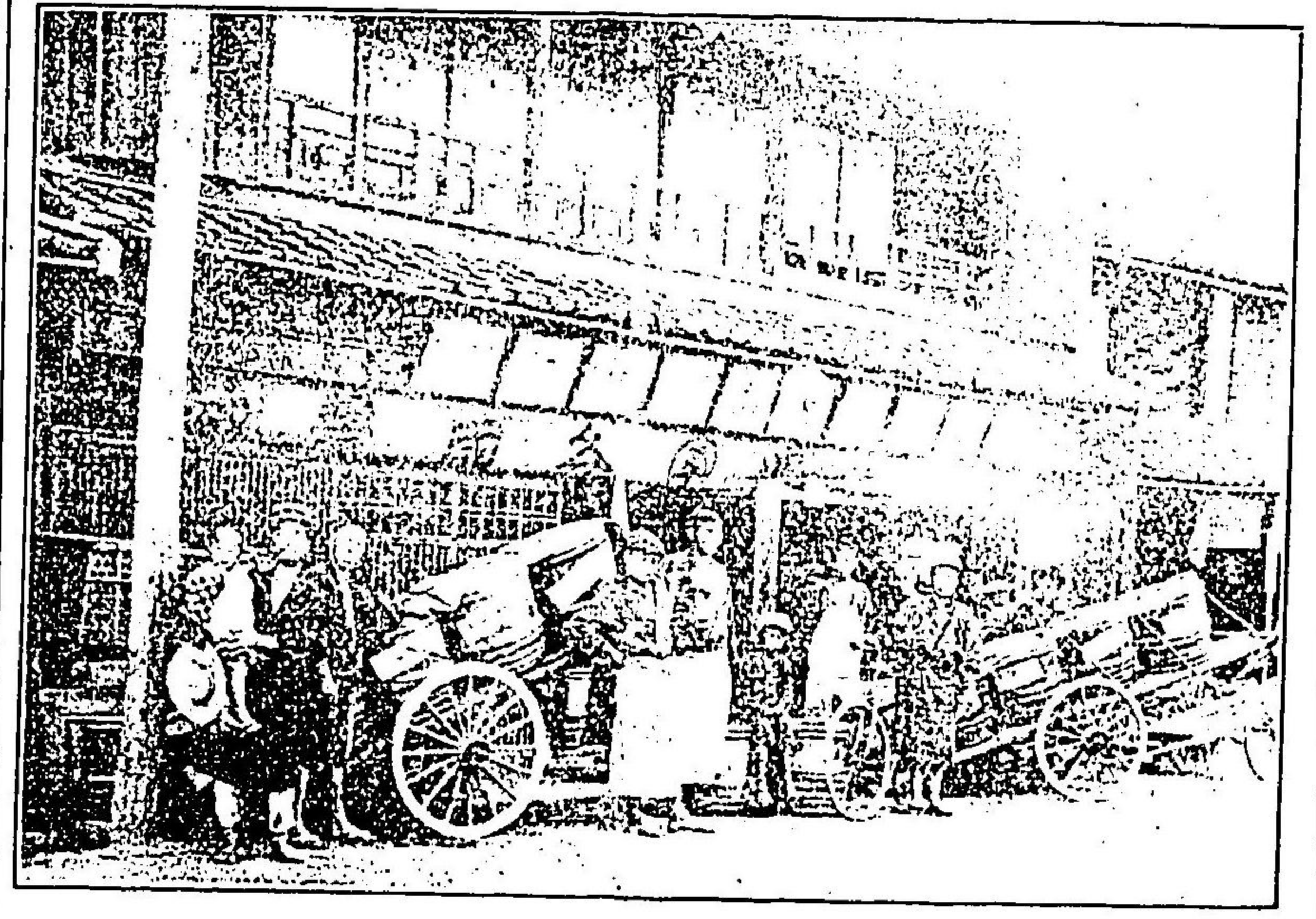
海軍糧食品御用達

新舞鶴町

草刈商店

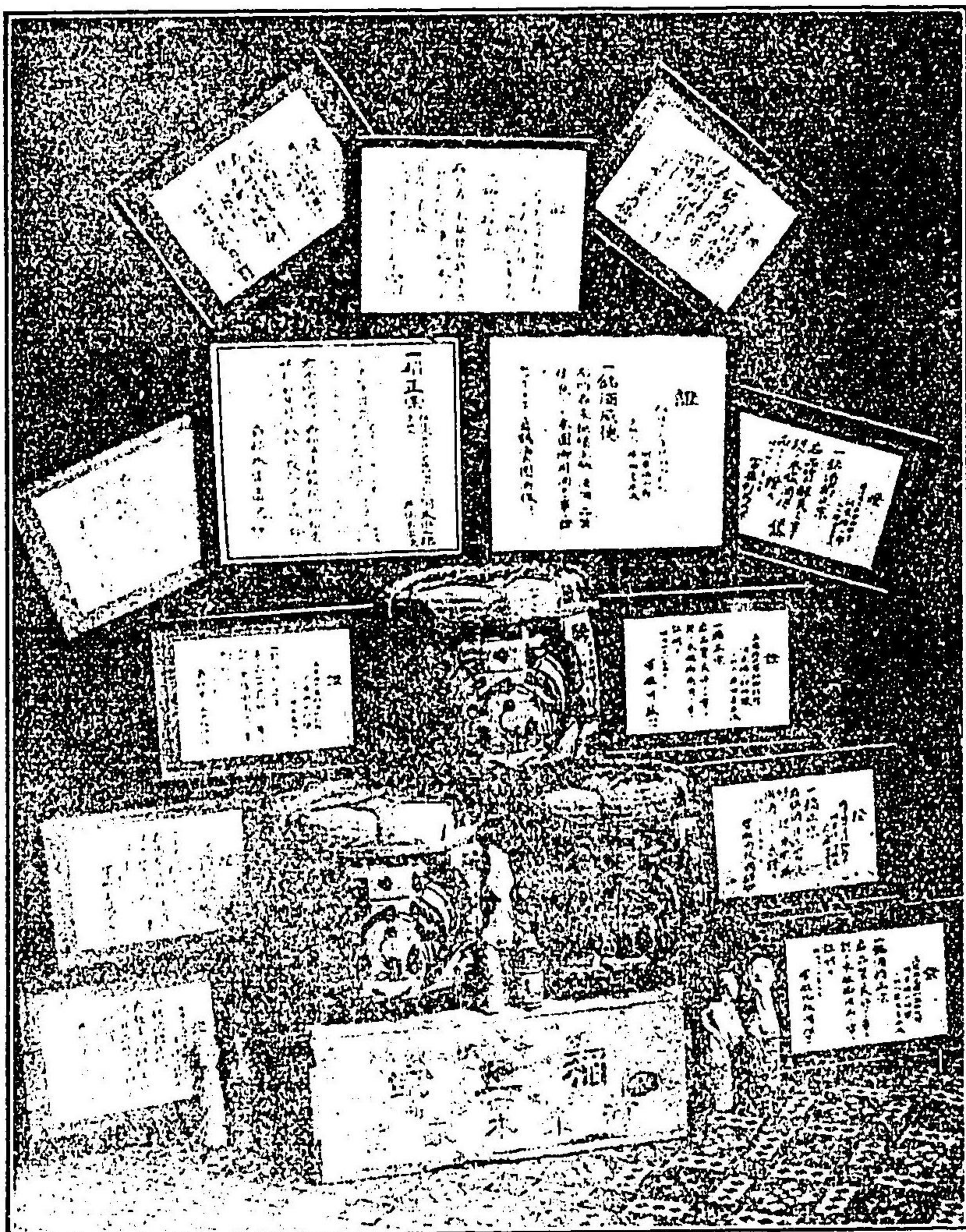
電話壹參〇番

諸漬物味噌醬油卸商



銘酒稻正宗

シ受拜ヲ命用御ノ團艦各ニ夙



リセ有ヲ路販ク汎且尙

銘酒稻正宗
(攝津灘御影町河東本家釀)代理店
 各種銘酒 特約販賣
 京印醬油
(攝津尼ヶ崎大塚本家釀)代理店
 大日本麥酒株式會社製品專賣店
 帝國礦泉株式會社製品特約店
 洋酒類各種食料罐詰各種販賣
 味ノ素特約販賣

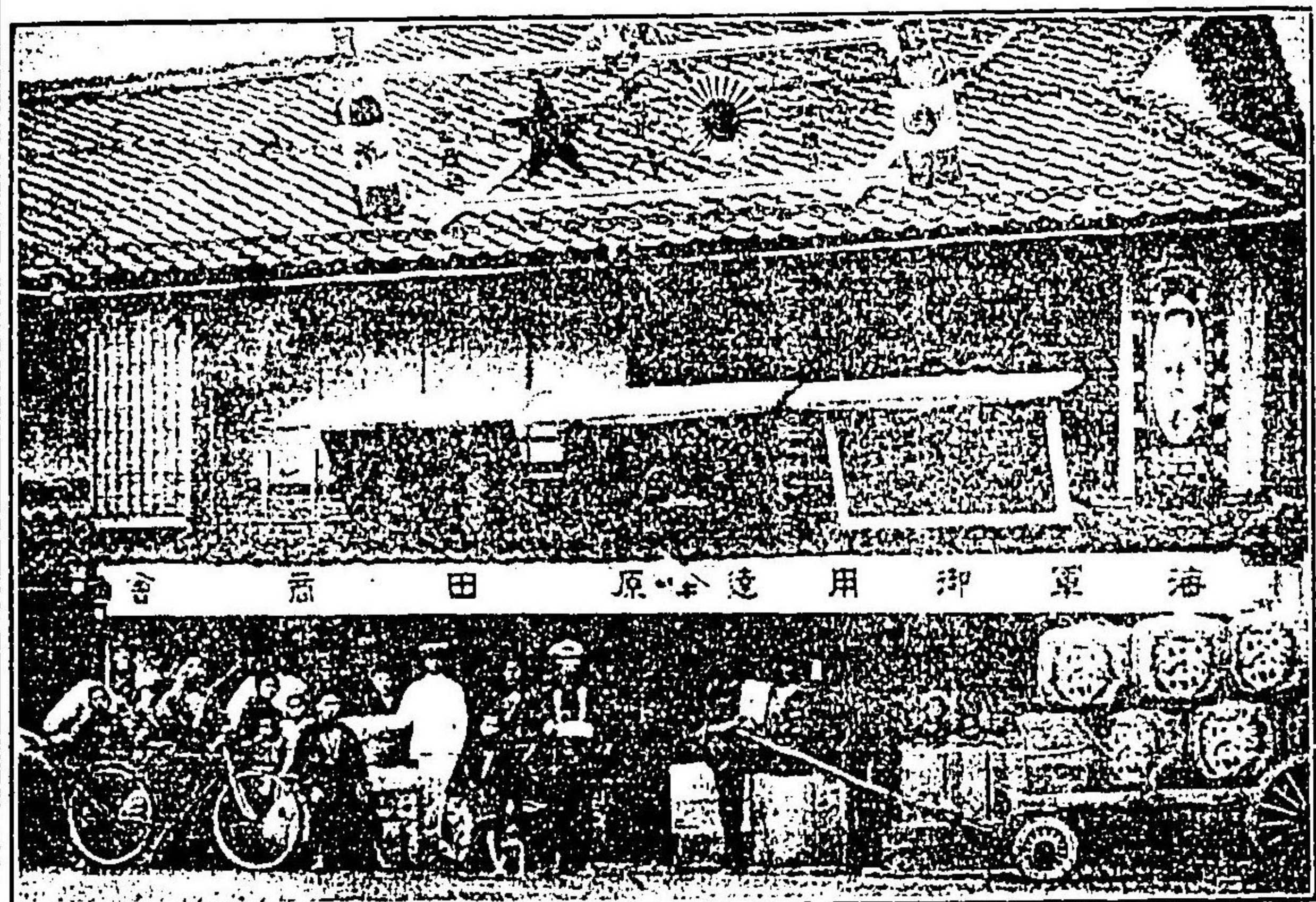
海陸軍御用達

新舞鶴大門通一條角

原田商會

原田喜平次

電話一二五番

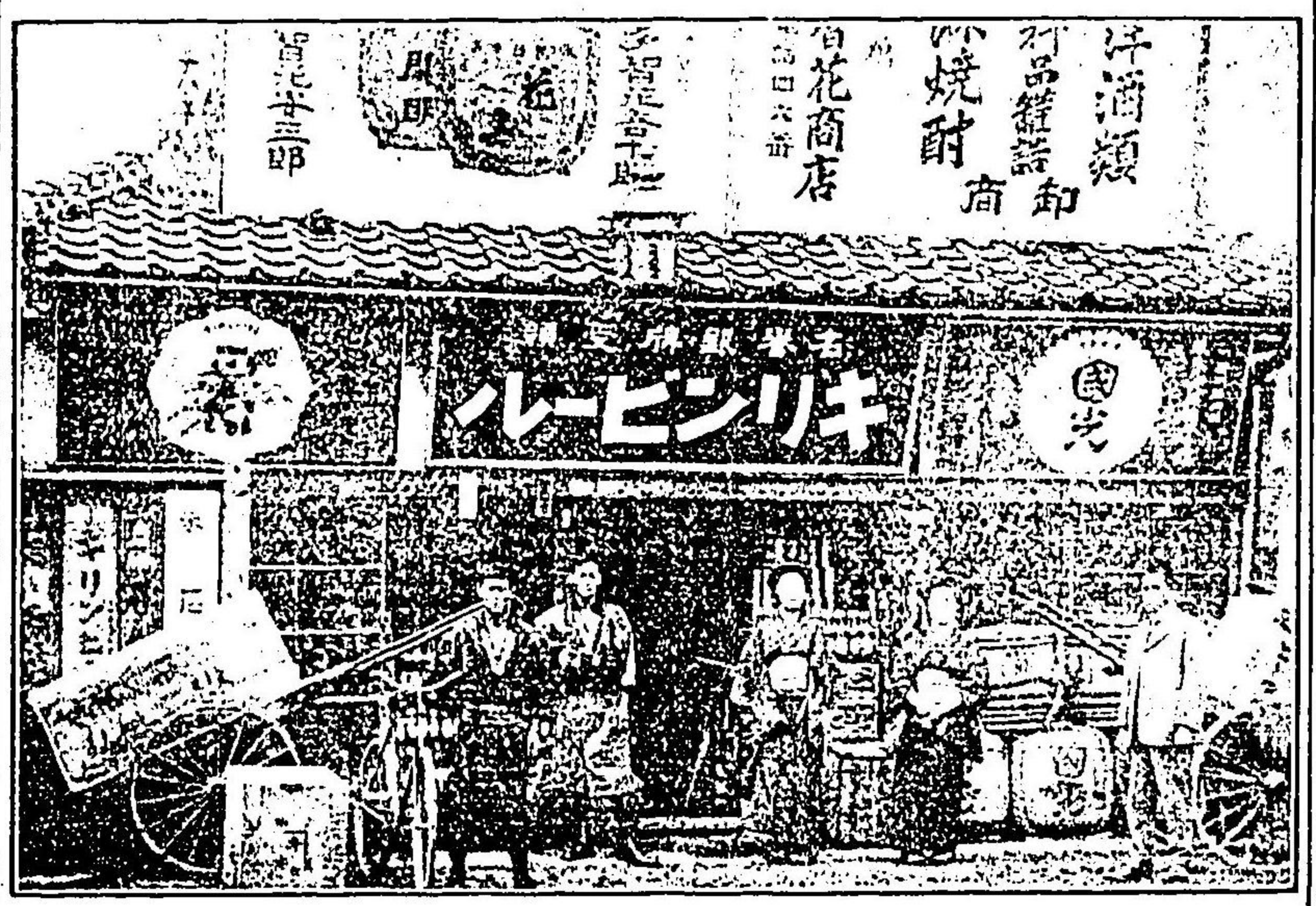


新舞鶴町大門通萬代橋西詰
 各艦團酒保
 御用達
多智花商店
 電話四六番

一 販賣品
 銘酒國光印 赤門生葡萄酒
 銘酒花乃春印 ユリ印香竄葡萄酒
 銘酒キリン正宗 布引サイダー
 赤門サイダー 高等食料リツチハチ

キリンビール專賣

和洋酒食料品罐詰類卸商



新舞鶴三條通

私立 **尾藤勸商場**



乞立引御共店兩……營經の人一同

東本
手打
京生
蕎麥

むねの物一式
たねの物一式
井もの物一式

新舞鶴八島通

御膳
手打
生そば



更科庵

電話三〇番



十四

◎大阪式うどんや

會席御料理

新舞鶴大門通(六條稻荷前)

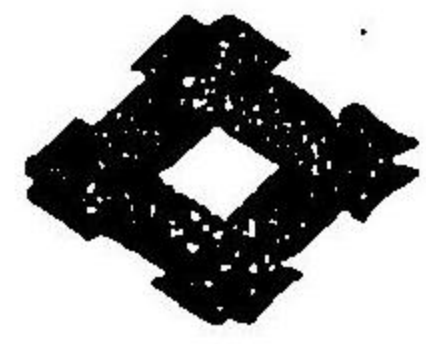


井上本店

◎東京式そばや

もり、ざる、せいろそば
會席御料理、御支度

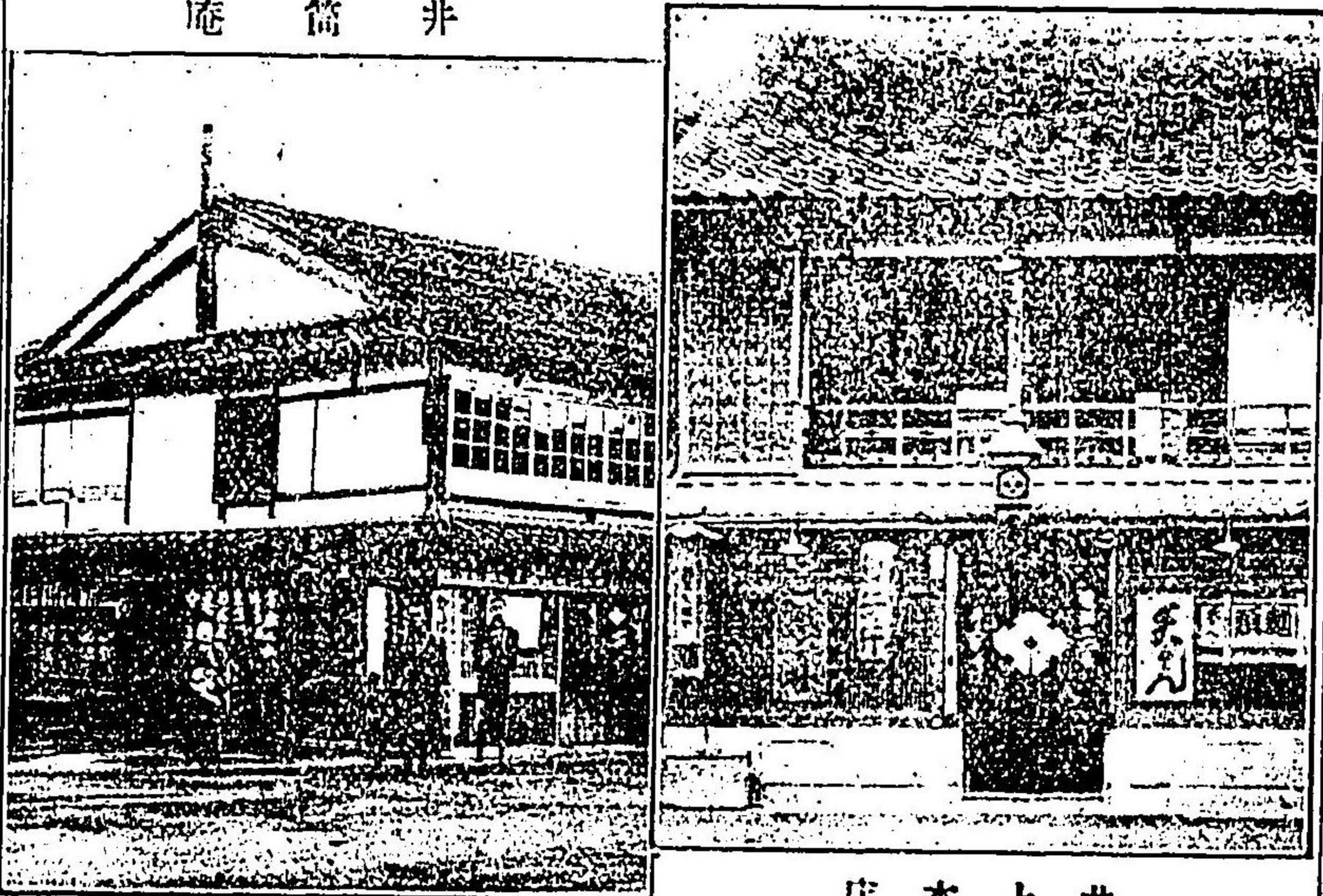
新舞鶴大門通三條角(停車場筋)



井筒庵

電話新舞鶴五番

井筒庵



井上本店

十五

名鶴乃餅

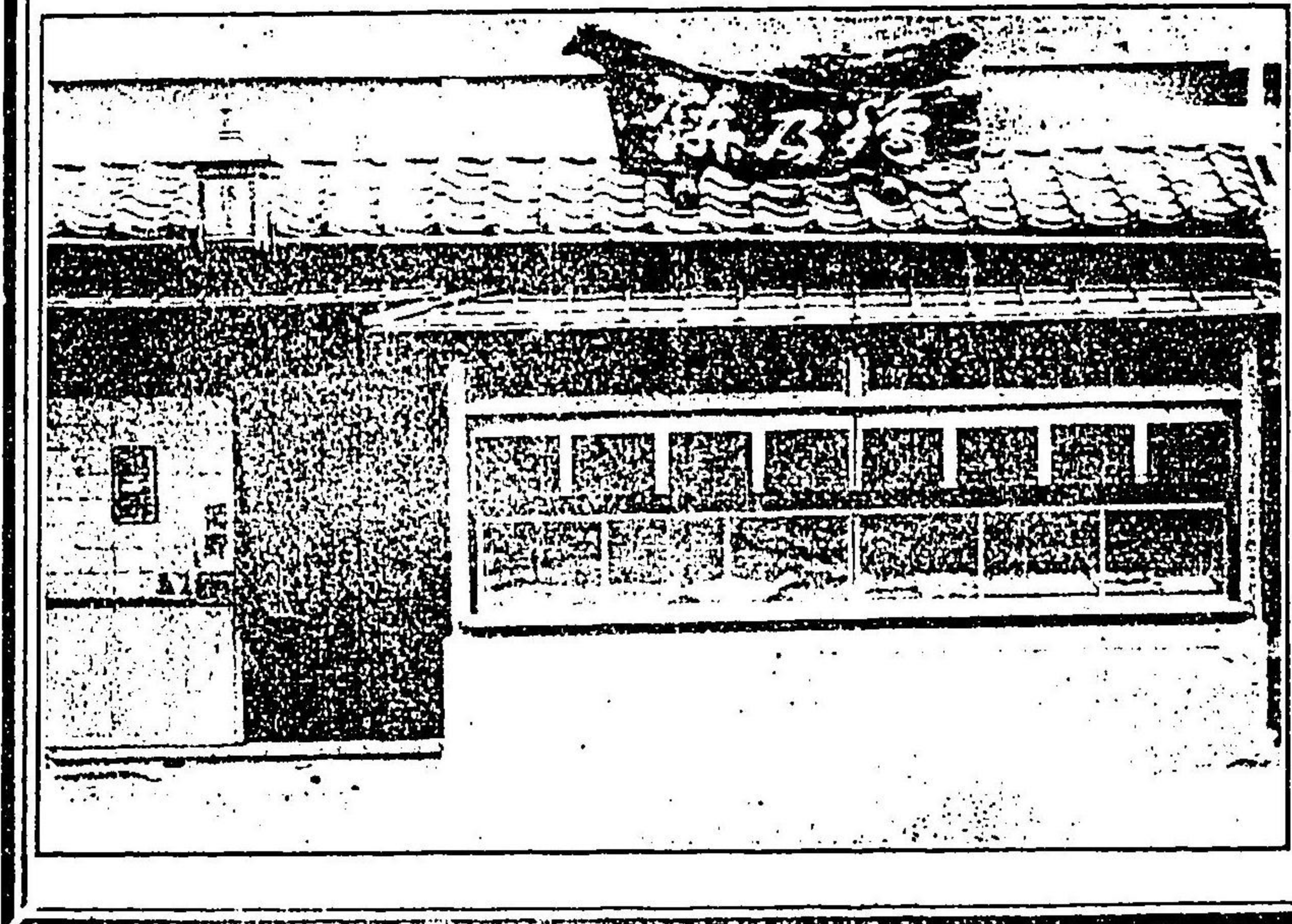
物鶴饅頭

並ニ祝餅むし物

御注文ニ應ズ

新舞鶴町大門通三條東

淺野鶴の餅



舞鶴軍港案内

沿革

明治十九年日本海海峽調査の擧あるや、仁禮海軍中將は軍艦金剛に搭じ、來つて舞鶴灣を視察す、此時中將は賀津良灣より上陸して特に東澳沿岸の形狀を踏査す、之れ前年海軍省水路部長肝付大佐が實測の結果第四鎮守府候補地として専ら此地を推舉せしところあるを以てなり、中將始めて此地が日本海面無比の最良軍港地たるを認め、爾來引續き海面の測量檢潮を行はしめたる結果、翌二十年七月、中將再び來りて北吸、餘部下、長濱一帯の地を鎮守府豫定地となす、同二十一年用地八十餘萬坪を買上げの命あり、同二十二年五月勅令を以て第四鎮守府に指定せられ、同年冬より北吸、餘部下の民家は現今の地に移轉す、然るに其後政府の都合に依り軍港施設工事を遷延すること七星霜、同二十九年に至り始めて臨時建築部を海軍省内に、支部を餘部上に置き、翌三十年一月中津海軍大佐支部長として赴任、同三月百般の土木建築の工事を起す、爾來日夜二萬の人夫を使役し、山陘を開鑿

し、海面を埋立て又は浚渫す、而して當時交通の便未だ開けず、材料の供給甚だ困難す、此間當局者の苦心經營名状すべからざるものあり、爾來四年六月の歳月を費し、工事畧々竣成を告ぐるに及び、三十四年十月一日を以て開港式を挙げ、山嶺水隈、白堊煉瓦造の廳舎倉庫透迤として連亘し、港内には幾十隻の艤艦威容堂々海面を壓し從來海面警備に缺如たりし裏日本國民をして大に意を強うせしめき、果して三十七八年の戦役に當りては北海警備の策源地として重要な任務を遂行し、所屬艦艇は世界曠古の偉勳を奏して凱旋せしことは國民の永く肝銘するところなり、平和克復後逐年海軍の擴張に伴ひ諸般の備設増大し以て今日の盛觀を呈するに至れり。

所管第四海軍區は長門國大津豊浦郡界より本土西海岸に沿ひ羽後陸奥國界に至るまでの海岸海面及隱岐佐渡の海岸海面とす

舞鶴軍港

舞鶴軍港は與謝郡黒岬より東に向ひ加佐郡成生岬、毛島を経て、若狹國大飯郡今戸鼻より

西三松へ河流を溯り、丹波國何鹿郡老富村を経て加佐郡池内村岸谷より丹波、丹後の國境を西に進み、岡田下村宇久田美に通ずる道路より由良川に沿ひ、栗田島蔭の二灣を懷き黒岬頭にて合する線内に包容せられたるものを以て其境域とす、而して其第一區は長濱より蛇島、鳥島を経て新舞鶴町宇濱に至る線内にして、第二區は金岬、博奕岬以南捻松鼻、横波以北より東澳を包容せるもの、第三區は其他の域内とす、第一、第二區には船舶の出入繫留、家屋の建築、地形の變更、漁獵採藻、號砲發火等に拘束あり、一般軍港境域内には測量、撮影、記述、兵備の状況、地形の視察を禁せらる、第二區の内與保呂川第一區線及松ヶ崎を連接する想像線以東を市場錨地、長濱第一區線及牛渡鼻を連接する想像線以南を長濱錨地と稱し、海軍に屬する艦船の外、地方長官の認可を得て海運を營業とする船舶、船舶に限り自由に錨泊することを許さる。

軍港の構門は新舞鶴町に面するを東門、餘部町に接するを西門と稱し、構門の通行は制服を着用せる海軍々人、軍屬、備人、職工及び憲兵、警察官、集配人若くは門鑑を所持せる者に限らる、又構内官廨に所要ある者は構門衛兵の許可を受くるを要す。

舞鶴鎮守府

廳舎は土地高燥、輪奐宏壯を極む、舍前長官旗の中空に翻翻たるを見ん、出帥の準備、防禦の計畫、海軍區の警備並に所轄諸部の事務監督の命令指揮一に此裡より出づ、司令長官は天皇に直隸し、麾下の艦隊、艦船、部団隊を統率し、所屬各部を監督し、府務を總理し、又麾下の軍紀、風紀及教育、訓練を統監す、司令長官の幕僚として左の職員を置く、
參謀長、參謀、副官、人事長、機關長、軍醫長、主計長、法務長

歴任司令長官氏名並に交迭年月左の如し

東郷大將(平八郎氏) 三十四年十月一日

日高大將(壯之丞氏) 三十六年十月十九日

片岡大將(七郎氏) 四十一年八月二十八日

三須中將(宗太郎氏) 四十四年一月十八日

○人事部長 是在籍兵曹長、相當官、準士官の人事を掌り、又下士卒の兵籍を主管し、徵募の補充及召集の事務に關する事務を掌る所とす。

○望樓 望樓監督官の管掌に屬し、海上見張及通信を掌り又氣象觀測を行ふ所とす、舞鶴鎮守府の所管は能登國皆月ノ鼻、丹後國經ヶ崎の二ヶ所とす。

舞鶴海軍工廠

艦船及兵器の製造、修理及び艦裝並に兵器の保管、供給及び艦營需品の調辨、供給を管掌す、廠門を入れば鐵柱、石煉瓦造の廳舎、工場、倉庫等幾十棟の建物は左右に並立し、林の如き煙突より盛んに吐出する煤煙は濛々として天を掩ひ、機械の廻轉する音響は轟々として耳を聳さんとし、鍛工、木工、電氣、製圖等數千の職工は流汗淋漓活動するを見る。蓋し規模の宏大、設備の完整せる聳目駭心に値すべきもの多々あらん。初め造船廠、造兵廠に區分され居りしを三十六年十一月官制改正に依り合して海軍工廠と改稱す。
歴任工廠長氏名並に交迭年月左の如し

橋元中將(正明氏) 三十六年十一月十日

向山中將(愼吉氏) 同年十二月廿八日

中溝中將(德太郎氏) 三十八年五月十日

北古賀中將(竹一郎氏)四十一年五月十五日

阪本少將(一氏) 同年八月廿八日

加藤少將(定吉氏) 四十三年四月九日

小泉少將(鎌太郎氏) 四十四年三月十一日

工廠は左の各部に別ち外に検査官、機装員を置く。

○造船部 は船體の製作、修理に従事し、大小數個の渠船、船臺之に屬す。開設以來進水

したる軍艦左の如し

驅逐艦追風(三十九年)夕風(同年)浦波(四十一年)磯波(四十一年)綾波(四十二年)大型驅逐艦海風(四十三年)

○造機部 は汽罐、機械の製造に従事す。

○造兵部 は兵器の新製、改造及び修理に従事し、大砲試射場、水雷發射場之に屬す。

○會計部 會計、給與及び工業に要する材料、物品の購買、賣却、貯藏、供給并に艦營需

品の購買賣却に關することを取扱ふ。

○兵器庫 兵器の保管、供給に關することを掌る、火藥庫、小銃射的場之に屬す。

○需品庫 艦營需品の準備、保管、供給に關することを掌る、水雷艇炭庫之に屬す。

各廳團部

○舞鶴海軍經理部 鎮守府所管全般の會計、經理並に造兵造船の材料物件にあらざる通常

物品、港灣防禦用品及艦船繫留用品の購買供給、鎮守府所管一般及び其所屬艦船團並に軍

港境域内に在る其他の諸官衙の會計事務の監督、管區内に在る艦船團其他各部諸官衙の金

櫃物件及帳簿の監査を管掌す、第一、第二課に別ち、外に左の二科を置く。

▲衣糧科 衣服、糧食の準備、保存 供給に關する事務を管掌す。

▲建築科 官有財産の管理及取扱、建築土木の計畫及施行、軍港内浚渫計畫を行ふ。

水源池(養保呂村)貯水池(同上)海軍埋葬地(餘部町)海軍官舎(新舞鶴、餘部)を所管す、

○舞鶴海兵團 廣大なる地域を占め宏壯なる數棟の兵舎及附屬建物を連らね廣漠なる練兵

場を有す。海軍下士卒の教育訓練及軍港の守衛を掌り、艦船團其他各部定員の補缺員を統

轄す、始めて海軍兵役に就く時又は現役を退く時凡て海兵團に於て進退す、軍艦見島及び

廢艦天龍は練習艦船として附屬す。

▲衛兵 海兵團の所管にして境域内に於ける海軍官廳倉庫其他諸般の取締を爲し、軍人

軍属の風紀、軍紀維持の爲め晝夜軍港内外を巡邏警戒す。

○舞鶴水雷團 本廳舎は四十一年二月祝融の災に罹り再築す。所屬各隊及び艦船を統轄し又敷設隊を置き水雷防禦の事を掌る。第十三驅逐隊、第十四驅逐隊、第十六艇隊、第十七艇隊之に屬す。

○舞鶴海軍病院 二十九年五月餘部下の民家にて開設せしが、三十四年十月移應す。患者の診療、看護手看護の教育、治療品の準備供給、諸般の衛生的検査及傳染病消毒に關することを掌り、諸般の設備完整せること地方病院の比にあらず。

▲看護術練習所 病院内に設けられ看護手、看護に高等看護術の教授を爲し、年々多數の卒業生を出せり。

▲消毒所 戸島に在り、傳染病の發生せし艦船其他の大消毒を行ふ所とす。

○舞鶴海軍港務部 軍港水域の警衛、艦船の繋留、出入渠、浚渫船の使用、海標、運輸、救難、防火等のこと及び司令長官の指定する軍港防禦の一部に關することを掌る、運送船

工作船、雜役船舟及び見張所、防火隊、豫備艦倉庫之に屬す。

○舞鶴海軍測器庫 測器及航海に關する圖書並に教育圖書の準備、保存、供給を掌り及び氣象觀測を行ふ、設備の完整せる言を俟たず。

○舞鶴鎮守府軍法會議 軍人軍属、海軍學生生徒の犯罪の審判、違警罪の正式裁判、海軍官署若しは軍人の損害に係る本案附帶の私訴あるときの審判を行ふ。職員は主理、録事、警査とす。

○舞鶴海軍監獄 軍人軍属、海軍學生生徒の所刑者、刑事被告人を拘禁す。職員は獄長、看守長、看守とす。

集會所

○舞鶴水交支社 海軍高等武文官の社交機關にして、三十四年八月建築、四十年四月更に本館を増築す、結構宏壯輪奐たり、棟を本館、大食堂、球突場、別館、割烹場、大弓場、倉庫等に別ち、敷地三千七百六十坪、建坪五百六十坪を有す、本館階下は圖書音楽室、應接室、控室、小食堂、化粧室等に別ち、階上は拜謁室、貴賓用和洋室、同化粧室、同從者室

及び社員寢室等裝飾善美を盡せり、四十年五月東宮殿下山陰行啓の砌御旅館に又四十三年十一月驅逐艦海風進水式に台臨の際御休憩所に宛てさせらる、大食堂は宴會場を使用せられ約千人を容るに足る、別館は全く日本風とし應接室、寢室、事務室、酒保等に別つ、球突臺は三臺を有し其他大弓場、テニスコート等の設備あり、前後の廣潤なる庭園は四季の花弁及常盤樹を植へ白砂を布き雅趣掬すべし、尙社前に東宮殿下、朝鮮王世子殿下御手植の松あり。

○舞鶴海友社 海軍准士官の社交機關にして初め准士官俱樂部と稱せしを今の名に改む、四十年七月の建築にして結構壯麗、建坪八十有坪、敷地千六百三十坪を有す、室を別ち會議室、事務室、應接室、食堂、寢室、娛樂室、球突室等とす、球突、大弓、將基、圍碁等娛樂的設備完整せり、目下増築計畫中。

○舞鶴海軍下士卒集會所 三十六年三月の建築に係り宏大なる平家建十數棟に分ち建坪五百四十餘坪、敷地一萬六千餘坪を有す、事務所、酒保、讀書室を始め、割烹室、浴室、理髮場、靴修理場、裁縫場の設備あり、食堂は下士、卒の二室に分ち、寢室は數百人を容る

ゝに足り寢臺使用料として下士五錢、卒三錢を徴す、娛樂室にはピアノ、オルガン等の樂器及び圍碁、將基を備へ、屋外には大弓場あり、運動場あり、庭園の泉池には鯉魚を放ち鐵檻には禽獸を飼ひ、又四時の嘉樹芳草目を樂ましむるに足る、獎武館は三十九年十一月の新築にして擊劍、柔道、相撲の練習場なり、本所は總理に司令長官を戴き、所長に海兵團長、幹事長に副長を推す、終日軍務に映掌して心身を勞せる下士卒が唯一の慰藉場たり。

艦 船

艦船は鎮守府の本籍とす、艦船の種類別左の如し、

軍艦、驅逐艦、水雷艇、潜水艇、運送船、病院船、工作船、雜役船舟

軍艦艦隊に編入せられ又は警備、練習、測量、其他特別の任務に服するときは之を在役艦と稱し其他は之を豫備艦と稱す。

○豫備艦隊 鎮守府在籍各豫備艦を以て編成す司令官は鎮守府司令長官に隸し麾下の豫備艦を統率し、其保管並に就役準備に關することを掌り、又麾下の軍紀風紀及教育訓練を監督す

○軍艦 舞鶴鎮守府現在籍左の如し

艦種	艦名	製造地	竣工年	排水量	馬力	力速	力
艦戰	△周防	英國	三四	一、二、六、七、四	一、四、五〇〇		一八
	三笠	英國	三三	一、五、二、〇〇	一、六、四三二		一九
	鹿島	英國	三八	一、六、四〇〇	一、七、二八〇		
	△香妻	佛國	三二	九、四三六	一、七、〇〇〇		二〇
	△阿蘇	佛國	三五	七、七二六	一、七、四〇〇		二二
	日進	佛國	三六	七、七〇〇	一、三、五〇〇		二〇
艦洋巡	千歲	米國	三五	四、七六〇	一、五、五〇〇		二二、五
	新高	米國	三五	三、三六五	一、〇、〇〇〇		二〇
	對馬	日本	三五	三、三六五	一、〇、〇〇〇		二〇
	日露	日本	三四	一、二、五〇〇	五、五〇〇		二二
	△見島	日本	二八	四、七九二	五、〇〇〇		一六
	海防艦	千早	日本	三四	一、二、五〇〇	五、五〇〇	

備考 △を附せるは明治三十七八年戦役の戦利艦にして其舊名を掲ぐれば周防(ホビチヌ)阿蘇(ハヤトシ)見島(アドミラル、セニヤウ井)なり。又在籍軍艦にして廢艦となるは金剛、比叡、摩耶の三隻なり

○驅逐艦 舞鶴鎮守府現在籍左の如し

隊別	艦名	竣工年	排水量	馬力	力速	力
隊逐驅三十第	村雨	三十五年	三八一	六、〇〇〇		二九
	朝霧	三十六年	三八一	六、〇〇〇		二九
	朝潮	三十五年	三三三	七、〇〇〇		三一
	白雲	三十四年	三三三	七、〇〇〇		三一
	朝露	三十九年	三八一	六、〇〇〇		二九
	疾風	同	三八一	六、〇〇〇		二九
隊逐驅四十第	夕風	同	三八一	六、〇〇〇		二九
	追風	同	三八一	六、〇〇〇		二九
	夕風	同	三八一	六、〇〇〇		二九

○水雷艇 舞鶴鎮守府現在籍左の如し

隊別	艦名	竣工年	排水量	馬力	力速	力
隊艇六十第	六十一	三十四年	八三	四十四		八三
	六十二	同	一一〇	四十五		八三
	六十三	同	一一〇	四十六		八三
	六十四	同	一一〇	四十七		八三
隊艇七十第	四十四	三十三年	八三	四十四		八三
	四十五	同	一一〇	四十五		八三
	四十六	同	一一〇	四十六		八三
	四十七	同	一一〇	四十七		八三

構内観覧手續

軍港構内の観覧を願出でんとする者は観覧者(二人以上のときは連名)の住所族籍職業氏名を明記せる願書を鎮守府に差出し観覧券の交付を受くべし、但し海軍々人、軍屬に知己あれば可成其者に依頼し且つ指導者と爲すを便宜とす、又學校生徒の如き修學を目的とする多人数の團體は其引率者より鎮守府に出願し観覧券の交付を受くべし、此場合には海兵團衛兵を案内者として附せらるべし。

観覧券を有する者にして各官廳構内を観覧せんと欲するときは豫め其官廳長の承認を受くるを要す、構内の観覧を許さるゝ官廳は工廠、海兵團、水雷團、海軍病院、下士卒集會所等なるが、工廠構内観覧は毎週月、水、金曜(服業日)正午より午後三時迄の日に限らる

観覧者心得

軍港境域内に於ては測量、撮影、記述、兵備の状況、地形の視察等を禁せらる、若し犯す者は法律に依り處罰せらるべし。

軍艦内、各廳構内、諸倉庫構内、物品集積所、建築工場附近、其他燃焼し易き物質の附近に在りては、定所外に於て喫烟を禁す、又軍港構内に於ては樹木を傷ひ、花卉を折り、果實を採り、魚鳥を捕へ、瓦礫を投じ、定所外に塵芥紙片を投棄し、若くは道路に糞尿する等の行爲を禁せらる。工廠構内にては何れの場所を問はず特許若くは指定以外の場所に於て火氣の使用又は喫烟すること及び業務を妨害し、若くは風紀を紊す等の行爲を嚴禁せらる、以上の禁令を犯す者は法律に依り處分若くは構外へ退去を命せらるることあるべし。其他構内に在りては衛兵の指揮に遵ひ、道路は左側を通行すること、又軍艦及び構内に在りては軍隊及び軍事上の作業を妨害し、造營物、表示物件又は官有物品を毀損破壊又は移轉し、若くは風紀を紊し衛生に害ある等の行爲あるべからざるは勿論なりとす。

明治四十四年八月十五日發行

◎(定)(價)(金)(拾)(八)(錢)◎

京都府加佐郡餘部町字餘部下九百五十五番地

編輯兼發行人 高 柴 貞 雄

大阪府西區江戶堀下通三丁目三十三番屋敷

印刷人 森 本 喜 兵 衛

大阪府西區江戶堀下通三丁目三十三番屋敷

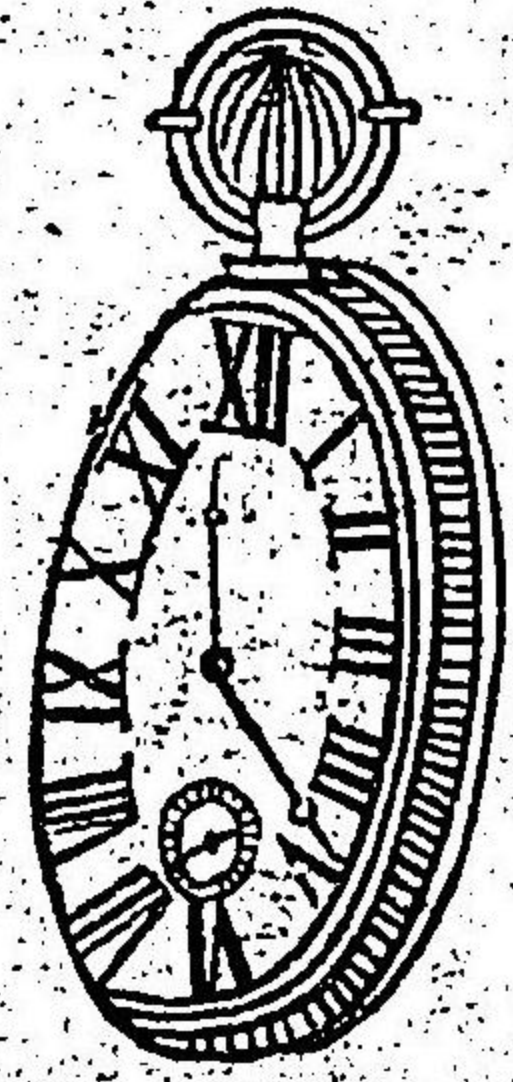
印刷所 森本印刷合資會社

舞鶴軍港餘部町下七丁目

發行所

新舞鶴案内編纂會

不許複製



廉 確 價 實

保 正 險 札

各 國 時 計

并 附 屬 品 一 式

眼 鏡 各 種

及 雙 眼 鏡

貴 金 屬 美 術 品

ゆびわいろく

新 舞 鶴 三 條 通

岩 佐 正 時 堂

電 話 二 五 番

新舞鶴町三條大門角

株式會社 百三十銀行新舞鶴出張所

電話七參番

本店所在地 大阪市東區高麗橋三丁目

貯蓄銀行業兼營

株式會社 佐治銀行新舞鶴支店

電話新舞鶴一〇一番

本店所在地 兵庫縣氷上郡佐治村

銀行一般ノ業務確實

新舞鶴町

京都府
支金庫

高木銀行新舞鶴出張所

電話參四番

親切便利ニ取扱申候

新舞鶴町五條通角

株式會社 愛國貯金銀行

振替貯金大阪二二七二七番

大阪總代理店 大阪市南區大寶寺町仲ノ町廿二番地

電話南二五三五番
振替貯金大阪二二七二七番

神戸代理店 神戸市下山手通三丁目七十七番邸

振替貯金大阪二二七二七番

青果
鮮魚 專業

新舞鶴魚果市場

電話百〇四番
電略(一)

土木請負

新舞鶴町三條通

桐谷傳次郎

電話九番

PHOTOGRAPHER

鷺田寫真館

新舞鶴二條通

寫真

△技術熟練
△寫真精巧
△價格最廉
△期日正確

新舞鶴二條海岸

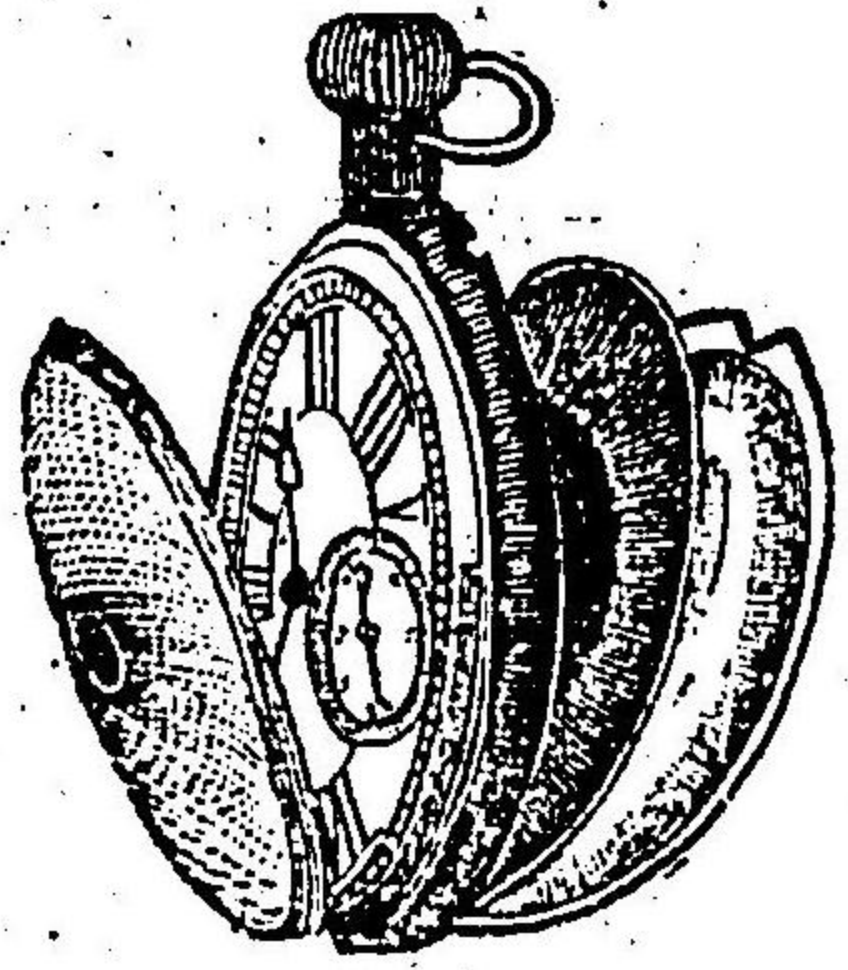
寫真俱樂部

雜誌「海軍」

囑托寫真師

石川寫真館

△寫真術實地速成教授す▽



各國時計

并附屬品一式
眼鏡及指環類

新舞鶴町大門通

萬歲生命保險株式會社代理店
丹州時報新舞鶴販賣店

原田世今堂

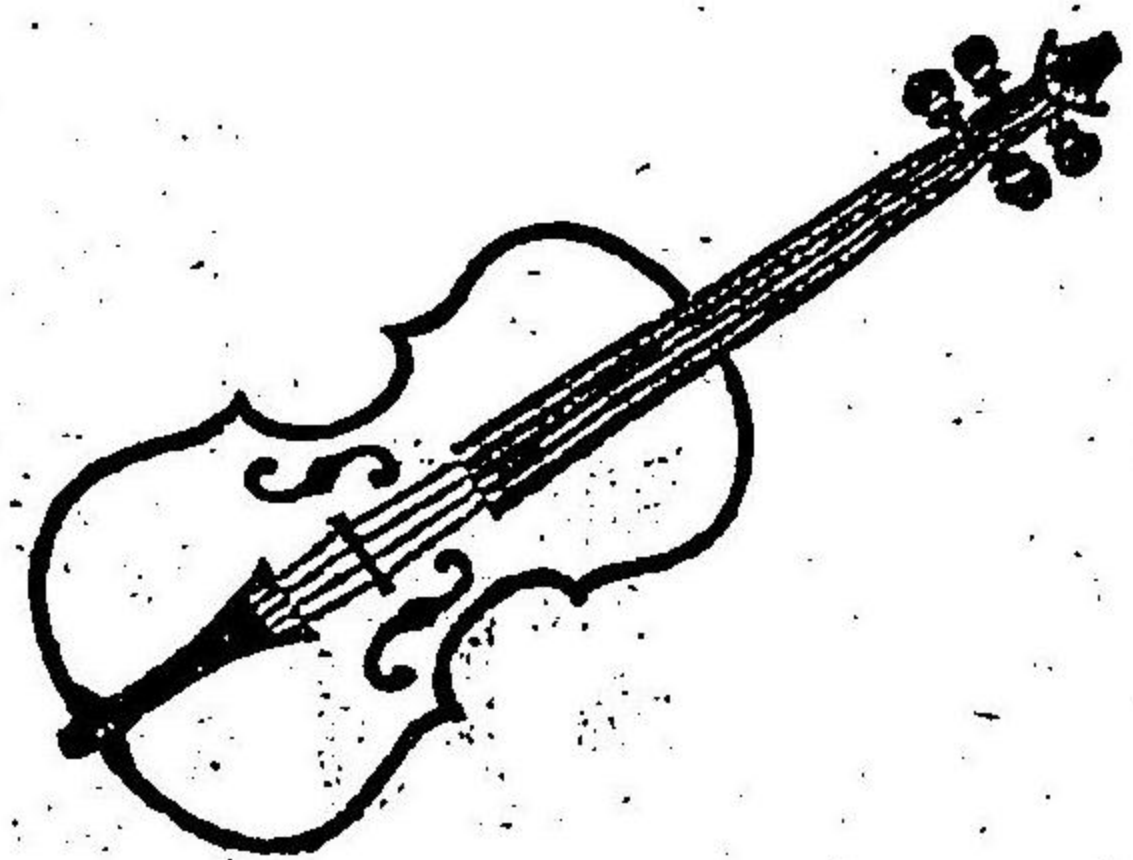
電話一八番

洋服調進 和洋雜貨

新舞鶴大門通二條角

梅津商店

電話二六番



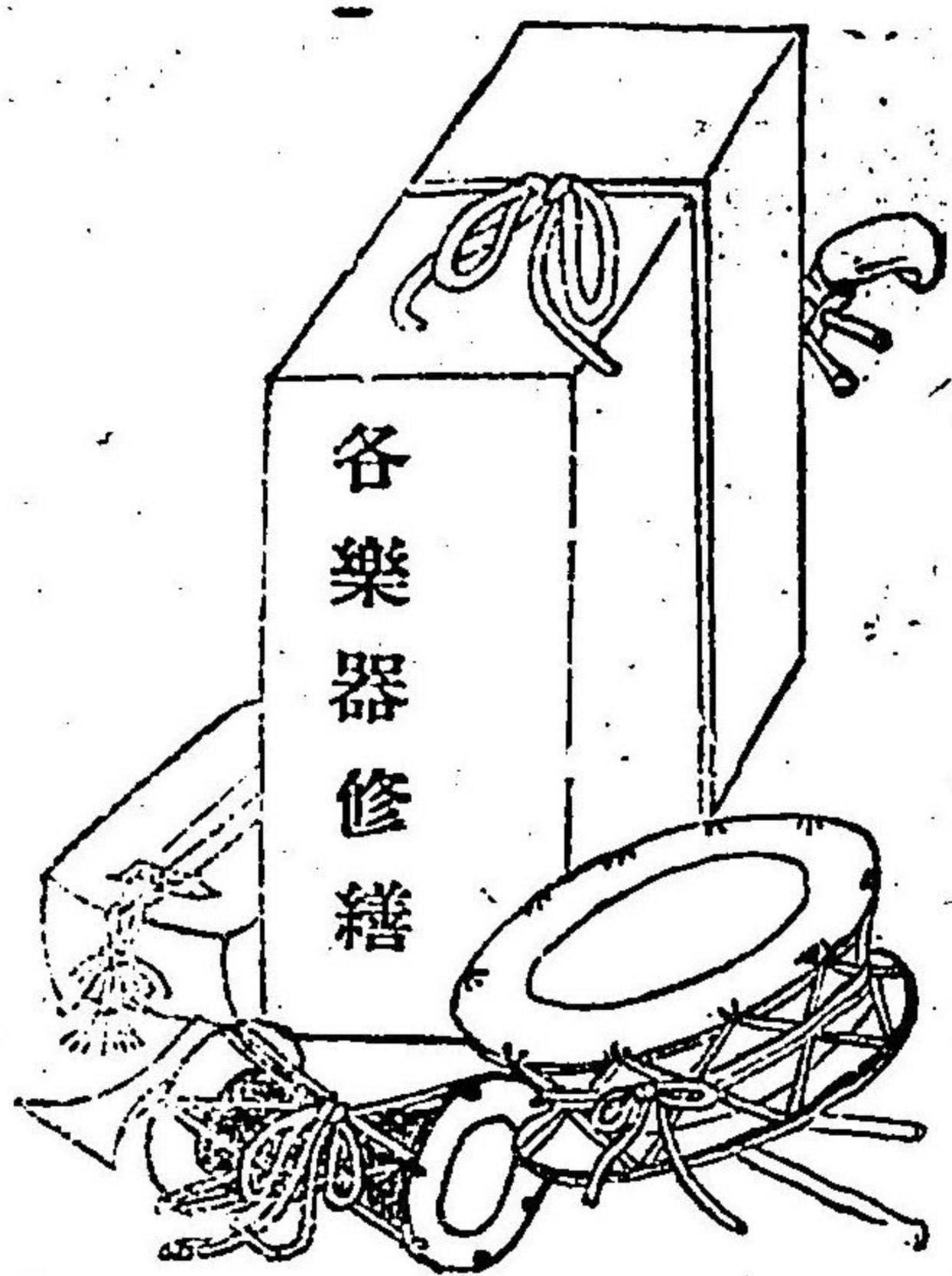
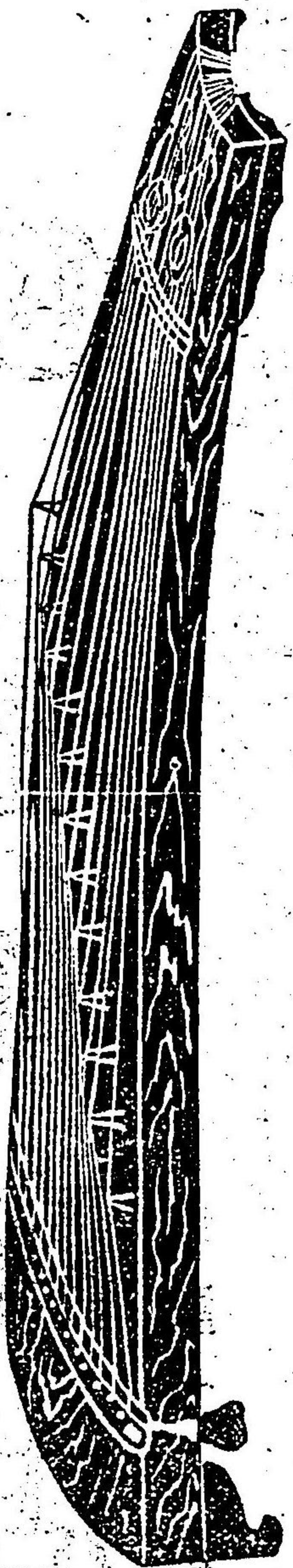
西 洋 音 樂 書
 義 太 夫 樂 本
 長 八 稽 古 譜 本
 尺 八 曲 本
 山 田 琴 歌 本
 生 田 流 琴 獨 學 書
 各 樂 器 一 切
 音 樂 類 目 錄 進 呈
 樂 器 類

內 外 樂 器 商



服 部 會 群 堂

新 舞 鶴 三 條



十三

三 條 通

太 陽 堂 藥 局

藥 劑 師

藤 本 勇 三

電 話 七 五 番

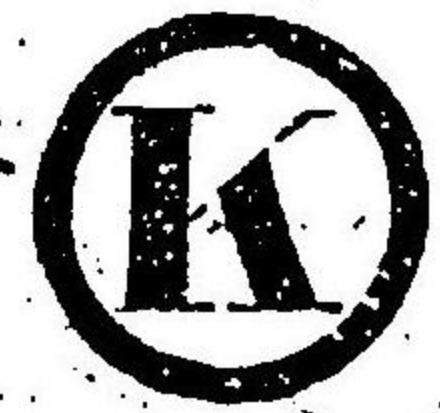
十三

海軍糧食品用達

精肉

すき焼
並二洋食

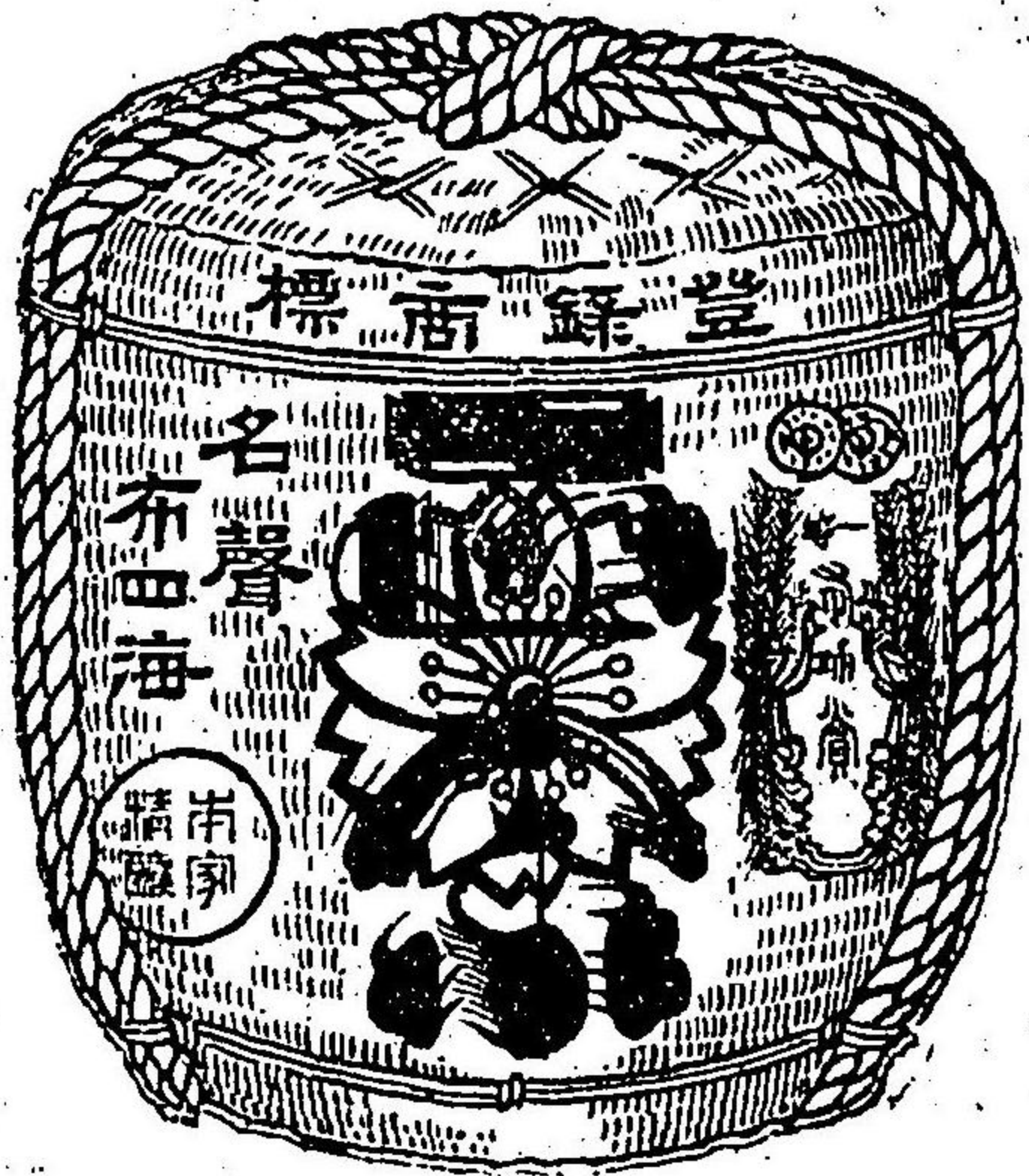
新舞鶴町大門通三條角



北岡商店

電話七一番

銘酒



櫻魂
雪正宗

新舞鶴八島通五條角

特約正宗

中西支店

電話五九番

名物

三日月餅五色

三日月饅頭

祝餅蒸物一式

新舞鶴町大門通稻荷前

三日月

殺菌全乳

新舞鶴町宇行永

中村牧場

海軍御用

消毒全乳

新舞鶴町溝尻

田中搾乳合資會社

熱氣
消毒

全乳

新舞鶴町北吸

榊田牧場

龍宮地域貸座敷

組合事務所

電話新舞鶴三三番

旅館 白糸樓

新舞鶴町大門通

別莊大廣間

電話一六番

御料理
御旅館

新舞鶴六條海岸

紅白

電話五六番

HOTEL

御旅館

新舞鶴

松榮館

電話四五番

御 御
料 旅
理 館

新舞鶴驛前



紙野 旅館

電話 參壹番
電 略 ○カ

旅 館

弊樓ハ新舞鶴町ノ中樞ニ在リテ停車
場ヨリ約五丁屋上ニ目印シノ看板ヲ
掲ゲ居候間陸續御投宿奉願上候

新舞鶴大門通三條北角

福 山 樓

電話 二八番

吳服太物商



田中興盛堂
新舞鶴大町三丁目

旅館

新舞鶴二條通

菊水館

電話六三番

御旅館
會席御料理

新舞鶴三條通

福助樓

電話二九番

軍人學生商人御定宿

新舞鶴大門通萬代橋東詰

旅館 **毛** たんばや

宮津敦賀行汽船最便利

電話 一二八番

灸專門 村田治療所

新舞鶴町大門通市場

耳鼻科
小兒科
眼科

新舞鶴七條海岸

大江診療所

電話 一四番

内科
花柳病

新舞鶴二條通

毛受診療所

電話 一二七番

新舞鶴八島通

醫師 柳田厚二

電話一〇八番

新舞鶴五條海岸

醫師 岸本仙次

電話一一八番

眼科專門

新舞鶴八島通三條東入

井上春臺

內科 外科 一般

新舞鶴行永

愛知醫學士 有吉市郎

英米各國自轉車

コンマシター代

ケン子ツト 理

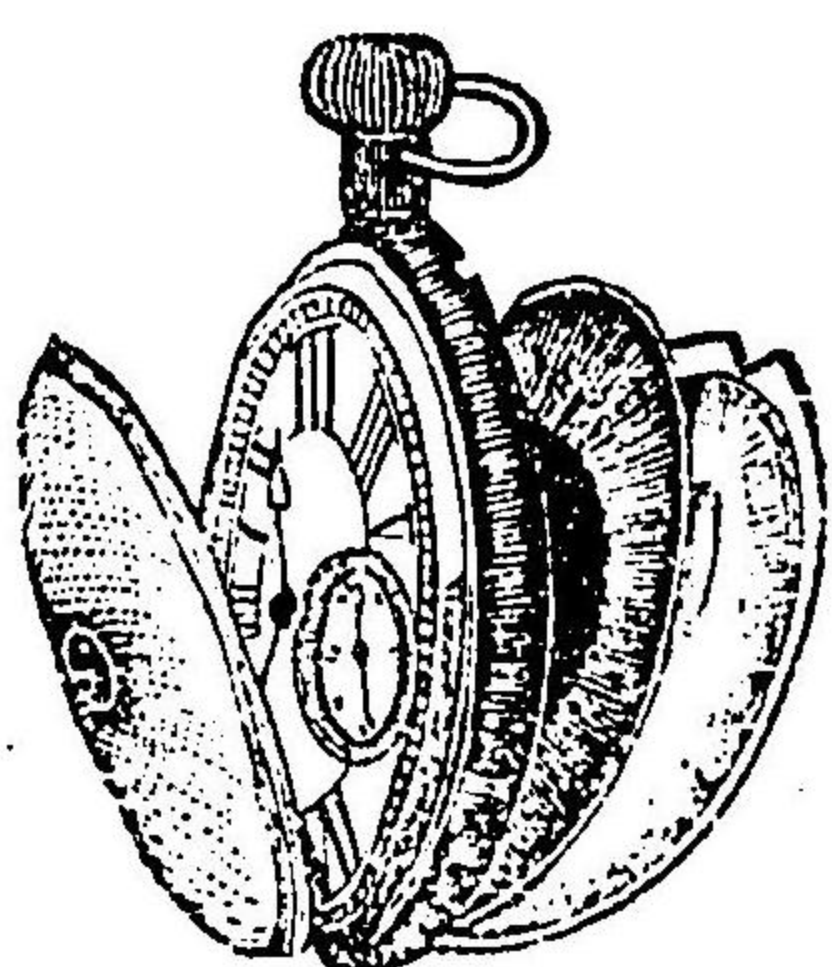
ス井トホーム 店

自轉車同業共正會加入店

納谷自轉車店

新舞鶴大門通五條角

正札確實



各種時計類

及附屬品

貴金屬美術品

眼鏡類

新舞鶴大門通四條東

人見清美堂

和洋雜貨

卸小賣

メリヤス類 特別勉強
理髮器具

新舞鶴大門通三條角

海軍御用達

矢野商會

和洋雜貨

都の花石鹼

金鶴洗粉

廉價販賣

新舞鶴大門通七條西



吉田末作商店

國產縮緬卸小賣

文房具繪葉書販賣
和洋額畫額縁賣

新舞鶴大門通四條東

加藤郁文堂

各種履物大勉強

新舞鶴五條八島角

尖_{香取屋}大槻商店

宇治銘茶

並二茶器一式

廉價販賣

新舞鶴町五條通

豐翠園 奧野茶店

醬油製造

新舞鶴町宇市場

△ 村田嘉吉

清酒製造業

倉梯村字行永

池田彌三藏

銘酒 宮川

清酒製造業

新舞鶴大門通七條東角

半林酒造店

支配人 半林新藏

清酒製造業

新舞鶴町字市場

村田太郎右衛門

銘酒 五妻

釀造元

新舞鶴大門通

商號酒屋事

△ 村田彌惣兵衛

電話一五番

旅館

並

御支度所

西國二十九番靈場

新舞鶴附近松尾寺山門前

松葉樓

名紅梅燒

和洋菓子製造販賣

新舞鶴町北吸

山崎梅春堂

松尾名物

菓子品評會褒狀受領

栗羊羹 さくら餅

和洋菓子製造販賣

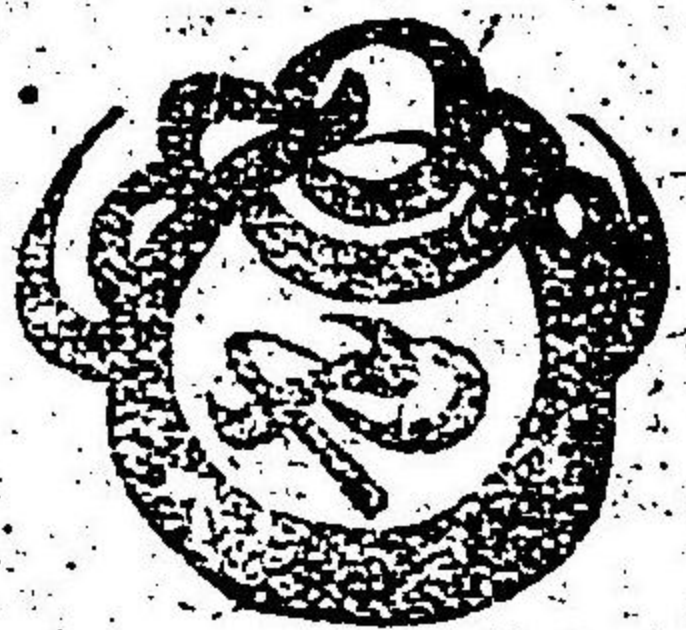
新舞鶴附近松尾山仁王門前

元祖
本舖

竹中眞正堂

高田虎之助

商標



書籍雜誌
文房具類
軍艦圖畫及掛軸物

廉價販賣

新舞鶴大門通白糸橋東詰

長島文林堂

82
542

新舞鶴三條通

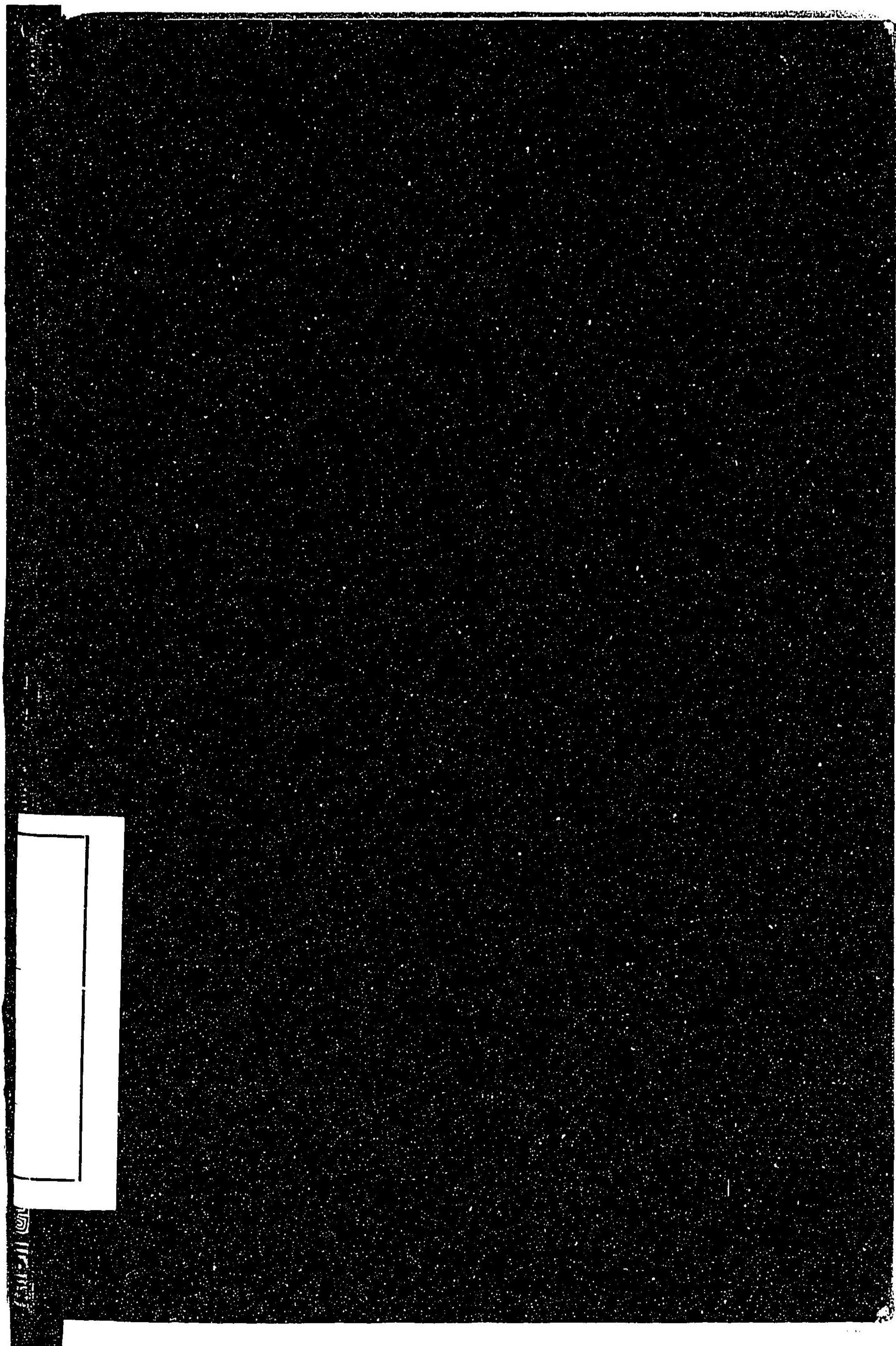
松尾吳服店

電話十番

今



82
1742





025502-000-0

82-742

新舞鶴案内記

高柴 貞雄 / 編

M44

ADC-2967



